

G空間EXPO

暮らしをささえ、国土をまもり、未来を創る **2012**

6/21(木)22(金)23(土) 会場:パシフィコ横浜
[開催時間] 10:00~17:00

G空間EXPO 2012 公式ウェブサイト <http://www.g-expo.jp>

日本ノビジネス、加速セヨ!

開催報告書

GIS 地球 衛星 建設
地図 地球 スマートシティ
安全 AR 位置ゲーム LBS VR
観光 AR 測量 ITS ヒト
海洋 環境 電子基準点 進天頂
3D GPS スマートフォン
測信 スマートフォン

平成24年 9月

G空間EXPO実行委員会

■主催: G空間EXPO実行委員会 (産) 特定非営利活動法人IT5 Japan/衛星測位システム協議会/財団法人衛星測位利用推進センター/一般社団法人国際建設技術協会/特定非営利活動法人国土空間データ基盤推進協議会/gコンテンツ流通推進協議会/一般社団法人全国測量設計業協会連合会/財団法人地方自治情報センター/一般社団法人日本経済団体連合会/一般社団法人日本建設機械施工協会/一般社団法人日本建設情報総合センター/一般社団法人日本情報経済社会推進協会/一般社団法人日本測量機器工業会/社団法人日本測量協会/公益社団法人日本測量調査技術協会/財団法人日本地図センター/社団法人日本地図調製業協会/一般社団法人日本デジタル道路地図協会/日本土地家屋調査士会連合会/一般社団法人日本ロボット工業会/マルチメディア推進フォーラム 【学】一般社団法人情報処理学会/一般社団法人測位航法学会/一般社団法人地理情報システム学会/一般社団法人電気学会/日本国際地図学会/一般社団法人日本写真測量学会/公益社団法人日本地理学会 (五十音順) 【官(関係府省)】内閣官房/内閣府/総務省/法務省/文部科学省/農林水産省/経済産業省/国土交通省/国土地理院/環境省 【自(独立行政法人)】独立行政法人情報通信研究機構/独立行政法人防災科学技術研究所/独立行政法人宇宙航空研究開発機構/独立行政法人森林総合研究所/独立行政法人産業技術総合研究所/独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構/独立行政法人土木研究所/独立行政法人国立環境研究所 【オブザーバー】海上保安庁海洋情報部/一般社団法人日本水路協会 ■後援: 神奈川県 横浜市

2012年 4月現在

まえがき

近年、クラウドの普及やSNSの浸透、マッシュアップによるサービスの拡がりなど、情報通信に係る技術がどんどん進展しています。また、スマートフォンの急速な普及やWi-Fiなど無線通信環境の充実により、いつでもどこでも情報を取得できる環境が整いつつあります。この中で、G空間情報をベースにしたアイデアがどんどん生まれ、新しいサービスが次々と市場に登場しています。

さらに、より高度な測位を可能にする準天頂衛星初号機「みちびき」が平成22年9月に打ち上げられ、2010年代後半を目途に4機体制を整備し、将来的には7機体制を目指すことになり、今後も大きな進展が見込まれます。

また、平成23年3月の東日本大震災に際して、G空間情報が被災状況の迅速な把握や復旧などに大きな役割を果たし、防災・減災に貢献することがますます期待されています。

こうした情勢のもと、平成22年9月のG空間EXPO^{*}に続く第2回目として、平成24年6月21日（木）、22日（金）、23日（土）の3日間、G空間社会の裾野を広げることを目的に産学官の連携により、G空間EXPO2012を開催いたしました。

「暮らしをささえ、国土をまもり、未来を創る」をテーマに、様々な分野の技術・製品・サービスが一堂に会し、展示会や講演・シンポジウム、さらに体験イベントなどを行いました。会期中、展示会には約1万8千人、シンポジウムには約3,700人の参加者があり、盛況でした。

これらを通して、新たな産業・サービスの創出や創意工夫の掘り起こし、既存のサービスの高度化・発展につなげていくという所期の目的の達成に大いに寄与したものと考えます。

本報告書は、このG空間EXPO2012の開催記録を取りまとめたものです。今回の開催を振り返り、G空間社会の発展に向けての一助となれば幸いです。

最後に、このたびのG空間EXPO2012の開催、ならびに本報告書の取りまとめにあたり、産学官の関係者をはじめ、数多くの方々からご協力をいただきました。これらのご協力、そして、多数の方々のご来場に対して、誌面を借りてお礼申し上げます。

G空間EXPO実行委員会

※ G空間EXPOは、平成22年9月19日（日）・20日（月・祝）・21日（火）の3日間、パシフィコ横浜で開催されました。

C O N T E N T S

も く じ

まえがき

もくじ

ページ

1. 開催概要	1
2. 開会式	2
3. 展示会	6
4. 講演・シンポジウム・セミナー等 ...	26
5. 体験イベント	76
6. その他イベント	81
7. 広報活動	85
8. 主催 G空間EXPO実行委員会	98
付録1 来場者アンケート	
付録2 出展者アンケート	

〈法人格の略称について〉

法人格を略称で記載する場合は、下記の略称を使用しています。

〈営利法人〉

株式会社：(株)， 有限会社：(有)

〈非営利法人〉

一般社団法人：(一社)， 一般財団法人：(一財)， 公益社団法人：(公社)，
公益財団法人：(公財)， 社団法人：(社)， 財団法人：(財)
特定非営利活動法人：(特) または (NPO法人)

〈公的法人〉

独立行政法人：(独)

1. 開催概要

G空間社会に関わる産・学・官の様々な分野の技術・製品・サービスが一堂に会し、G空間社会に関わるヒトやモノの交流を促し、既存の技術・製品・サービスの高度化・発展や新たな産業の創出に関する提案や創意工夫を発掘し、G空間情報が更に高度に活用される社会の実現に貢献しました。

G空間EXPO2012は、次の3つのテーマで展開されました。

「新マーケット」の開拓、「新技術、新サービス」の創造

G空間情報に関連する技術やサービスなどを社会により広く普及・定着させることが重要であり、これらの技術・サービスについて海外展開を含めた新たな市場の開拓が期待されています。さらに、情報通信技術や測位技術の向上など様々な技術の進歩により、これまで接点がなかった異分野が融合し、新たな技術・サービスの創出も期待されています。

「宇宙技術」の利用

準天頂衛星初号機が打ちあげられ、利用に向けた技術実証の実施や各国の全地球的な測位システム（GNSS）に対応したシステムの整備が進められています。また、高い分解能を持つリモートセンシング技術の発展も顕著です。このような宇宙技術を活用することは、高精度な位置情報基盤の構築や新たな市場開拓への貢献が期待されています。

「安全安心」への貢献

私たちの生活は、東日本大震災をはじめとして様々な自然災害の脅威にさらされており、災害発生時の迅速な対応や災害からの復興、将来に備えた防災・減災への取組みを進める必要があります。また、防犯など日々の暮らしの安全・安心に対する意識も高まっています。G空間情報はこれら安全安心への取組みに貢献することが期待されています。

名 称

G空間EXPO2012 暮らしをささえ、国土をまもり、未来を創る
Geospatial EXPO 2012 Japan

会 期

平成24年6月21日(木)、22日(金)、23日(土)

会 場

パシフィコ横浜 横浜市西区みなとみらい1-1-1
・展示会場：展示ホールD (6,700㎡) 他
・シンポジウム会場：アネックスホール

対 象

ビジネス層および一般

入 場 料

無料

主 催

G空間EXPO実行委員会

後 援

神奈川県、横浜市

協 力

メディアパートナー各社、パシフィコ横浜

構 成

展示会、シンポジウム、体験イベント、他

公式ウェブサイト

日本語 <http://www.g-expo.jp/> 英語 <http://www.g-expo.jp/en/>

2. 開会式

1. 期 日 平成24年6月21日(木) 9:40~10:00
2. 会 場 パシフィコ横浜 展示ホールD G空間EXPO2012展示会場
3. 開会挨拶 国土交通省 国土地理院長 岡本 博
挨拶(学界) 一般社団法人地理情報システム学会 前会長 吉川 眞
挨拶(産業界) 社団法人日本測量協会 会長 村井 俊治
4. テープカット
(1) 来 賓 神奈川県県土整備局 副局長兼総務部長 菅家 龍一
横浜市 副市長 鈴木 隆
(2) 主催者 国土交通省 国土地理院長 岡本 博
社団法人日本測量協会 会長 村井 俊治
一般社団法人地理情報システム学会 前会長 吉川 眞
国土交通省 大臣官房審議官 川上 征雄



開会挨拶

国土交通省 国土地理院長 岡本 博



G空間EXPO2012の開会にあたり、主催者であるG空間EXPO実行委員会の官側幹事を代表してご挨拶を申し上げます。

一昨年、ここ横浜で開催されたG空間EXPOに引き続き、G空間EXPO2012を再び開会できることにつきまして、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

地理空間情報を活用することで、国民の皆様が安心して豊かな生活を営むことができる社会を「G空間社会」と呼んでおります。このG空間社会の実現を目指し、産学官が一体となって、様々な取組を進めてまいりました。

政府は、今年3月、新たな地理空間情報活用推進基本計画を閣議決定いたしました。新たな基本計画に基づいてG空間社会を実現するため、関係府省が一体となって、地理空間情報の整備や活用を推進するための、様々な取組を行うこととしております。その中で、国土地理院は、利用者にとって価値のある、使いやすい地理空間情報を提供できるよう、電子国土基本図をはじめとする国家の基盤となる地理空間情報の整備や提供に努めているところです。

さて、地理空間情報を取り巻く環境は、ここ数年の間に大きく変化しております。スマートフォンの急速な普及や一昨年9月の準天頂衛星初号機「みちびき」の打ち上げ、さらには昨年

3月には東日本大震災が発生し、地理空間情報が様々な場面で活用されました。今、地理空間情報に対する国民のニーズは大きく拡大し、変化しております。

こうした中で、今回のG空間EXPO2012では、「暮らしをささえ、国をまもり、未来を創る」というテーマのもと、様々な展示や講演・シンポジウムが一堂に開かれます。

この地理空間情報を取り巻く最新の状況を肌で感じ取ることができる場、あるいは、G空間社会の具体的なイメージを関係者間で共有し、情報交換を行う場として、このG空間EXPOは大きく寄与できるものと期待しております。

最後になりましたが、このG空間EXPO2012の開催に向け、昨年4月から長期にわたって準備を進めていただいた日本測量協会をはじめとする事務局の皆様、各シンポジウムの主催者の皆様、出展者の皆様、また、ご後援をいただいている神奈川県と横浜市の皆様のご尽力に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

G空間EXPO2012が、産学官による地理空間情報の活用の推進を加速するための一助となり、今後のG空間社会の実現に繋がることを心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

挨拶（学界）

一般社団法人地理情報システム学会 前会長 吉川 眞



先月まで地理情報システム学会の会長としてG空間EXPO実行委員会の幹事を務めていました。そこで本日は、新会長の代理として学界幹事を代表して、ご挨拶を申し上げます。

ご存知のように、高度情報通信社会への大きな変革の中で、社会のあらゆる分野でデジタル化された地理空間情報を高度に活用する社会「G空間社会」の実現に向けたさまざまな取り組みが行われています。その一環として行われるこのEXPOを通じて、地理空間情報の利活用についての関心と理解が益々高まるものと期待しています。

地理情報システムは、地理空間情報を利活用する技術の総称で、地理情報システム学会は、地理空間情報を中心にした多種多様な分野の専

門家と実務者の集まりです。私自身も専門は都市デザイン、景観デザインという分野であり、この分野で地理空間情報を如何に活用するかということをメインテーマに研究に携わっています。

私ども地理情報システム学会は、昨年秋、創設20周年を迎え、今春、新たな10年あるいは20年に向けてスタートを切ったばかりです。こういう節目の年に、再び、このG空間EXPOに参画できることは、大変に意義深いことと考えております。

ここにお集まりの皆様には、地理空間情報の利活用に対するご尽力とご支援をなお一層お願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

挨拶（産業界）

社団法人日本測量協会 会長 村井 俊治



G空間EXPO実行委員会の産業界の幹事を代表して、ご挨拶申し上げます。

産業界の幹事は、展示会とシンポジウムを担当させていただきました。また、日本測量協会は展示会等ワーキングチームの幹事として事務局も担当させていただきました。

2年前に初めてのG空間EXPOが開かれて、今回は2回目ですが、前回と大きく違うのは、東日本大震災を経ていることです。展示をご覧いただくと、地理空間情報技術がいかに東日本大震災の被害調査あるいは分析に役立ったかが分かります。また、放射能測定とか太陽光発電、スマートシティで象徴される新しい業種・業務の展示があります。従来は見られなかった技術が、新しく地理空間情報に組み入れられたとい

うことです。是非、そういった視点でご覧いただければと思います。

このG空間EXPO2012は、産学官の連携により開催しており、官は、国民一般への地理空間情報の普及を考え、また、学界は学術研究情報の交流を考える。そして産業界は、お客様に製品、システム、サービスを買っていただく。こういう思惑で、今回は「B to B」と言うか、ビジネスを指向した内容で開催いたします。

是非、展示会場をご覧いただくとともに、シンポジウムにもご参加いただければと思います。

最後に、出展者の皆様のご出展ありがとうございます。皆様のご出展がなければ開催資金が集まりませんので、大変、有り難く思っています。本当にありがとうございました。

3. 展示会

G空間情報に関する様々な分野の技術・製品・サービスが、展示会場に一堂に会しました。

■ テーマ別ゾーン区分

G空間EXPO2012の3つのテーマで、会場をゾーン区分しました。

- ❖ 「新マーケット」の開拓、「新技術、新サービス」の創造
- ❖ 「宇宙技術」の利用
- ❖ 「安全安心」への貢献

■ 企画展

テーマ別ゾーンとは別に、各々特長を打ち出した3つの企画展を設けました。

- ❖ 「G空間を支える宇宙技術の世界～新たな未来をひらく準天頂衛星システム～」
- ❖ 「時空を超えて実感～3Dワールド」
- ❖ 「海と水のG空間」

■ アカデミック・ゾーン

学会や大学等の研究成果を展示するアカデミック・ゾーンを設けました。

■ エントランスゾーン

G空間社会の現在そして近未来へ来場者を誘い、展示会の全体像が分かるディスプレイを行いました。

■ コミュニティ・ゾーン

カジュアルな雰囲気の中、ミニステージでは、展示会出展者やシンポジウム実施者による10分間のプレゼンテーションが次々と行われました。

■ 特別展示

- ❖ 地図展示「陸から海まで、地図が一堂に集結」

出版者の協力を得て様々な地図を展示し、来場者にご覧いただきました。

- ❖ 図書展示「G空間社会の関連図書展示」

出版社の協力を得てG空間社会に関する図書を展示し、来場者が手にとって閲覧できるようにしました。

■ メディアパートナー・コーナー

広報協力者（新聞社、出版社、等）が見本誌などを展示しました。

■ 相談コーナー

出展者が来場者等との打合せに利用しました。

会 期 平成24年6月21日(木)、22日(金)、23日(土)

開催時間 10:00～17:00

会 場 パシフィコ横浜 展示ホールD (6,700㎡)

出展対象

G空間社会（地理空間情報高度活用社会）に関わる基盤技術・応用技術，機器・システム・ソフトウェア・データ・器具・材料・サービスなど

測量，航空・地上レーザー計測，移動体GPS測量機器（モバイルマッピング），電子基準点，測位，GNSS衛星測位，屋内測位，地図，基盤地図情報，GIS（地理情報システム），リモートセンシング，海洋調査

生活と地域の活性化，地域計画・都市計画，建設・建築，建設コンサルタント，設計・CAD・CALS，情報化施工，自動化農業（精密農業），農林水産鉱物資源管理，観光，交通（交通安全，カーナビ，衝突防止，エコドライブ，自動運転），ITS（高度道路交通システム），運輸，物流，スマートシティ

環境（環境保全，動物保護），減災・防災（地震津波予知，自然災害シミュレーション），震災復興，緊急通報（救援，安全誘導），防犯，移動支援（旅行ガイド，人ナビ，街のコンジェルジェ），迷子防止，保健・公衆衛生（感染症対策，食品安全），地籍・登記

LBS（位置情報サービス），gコンテンツ，ジオメディア，位置情報ゲーム，仮想現実・拡張現実（VR，AR，MR），3D可視化，ロボット，デジタルサイネージ，通信（スマートフォン，携帯電話），精密タイミング，マーケティング，海外進出／貢献，教育，その他

展示ホールD
【展示会場】



1F ピロティ
【G空間体験ゾーン】

ゾーンマップ

見て、触れて、
試して納得!

ZONE

コミュニティゾーン



プレゼンステージ

カフェテリア「コミュニティゾーン」で、出プレゼンテーションを行います。通りがかで気になった出展ブースやシンポジウムをご覧ください! どのようなプレゼンテーショ

企画展

3つのゾーンとは別に、更にテーマを絞込んだ企画展を設けます。観測から利用まで、一貫した展示をご覧ください。

時空を超えて実感~3Dワールド

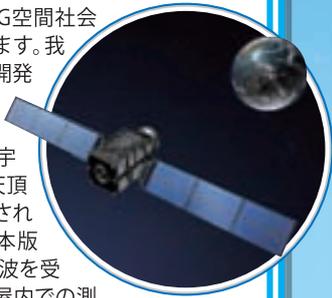
3次元情報があれば、仮想現実 (VR) や拡張現実 (AR) の技術を使って、過去や未来へタイムスリップすることや、世界各地や海底、宇宙を散策することも夢物語ではありません。



G空間を支える宇宙技術の世界

~新たな未来をひらく準天頂衛星システム~

衛星測位や衛星画像など、宇宙技術がG空間社会を支えています。我が国の宇宙開発戦略から、現代および近未来の宇宙技術、準天頂衛星で実現されつつある日本版GPS、GPS電波を受信できない屋内での測位、高精細な衛星画像をご覧ください。

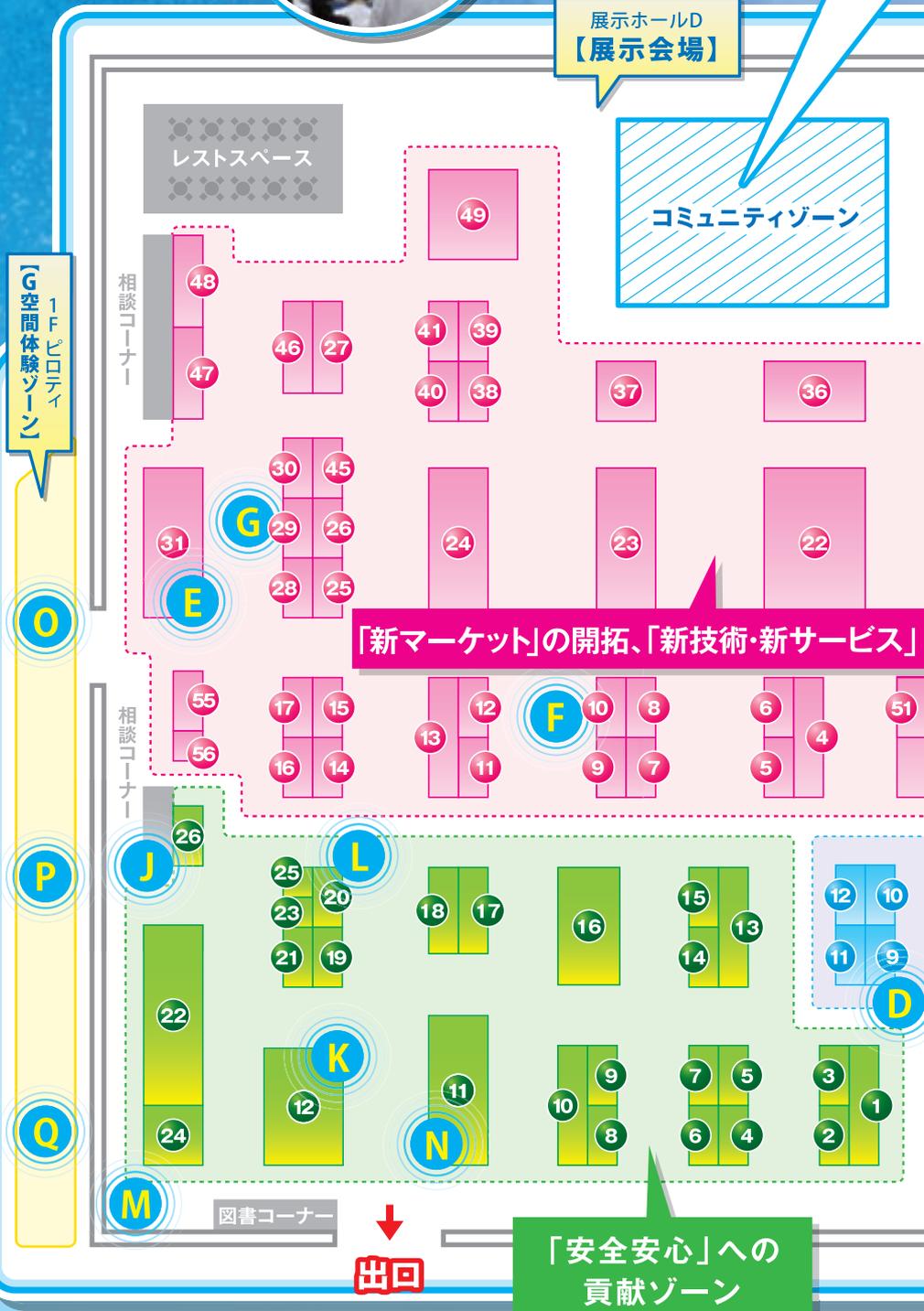


海と水のG空間

震源域の海底地形や、四方を海で囲まれた我が国の海底資源や水産資源が注目されています。また、湖や河川 の環境保全が求められています。G空間情報が果たす役割をご覧ください。



展示ホールD
【展示会場】



コミュニティゾーン

1F ピロティ
【G空間体験ゾーン】

「新マーケット」の開拓、「新技術・新サービス」

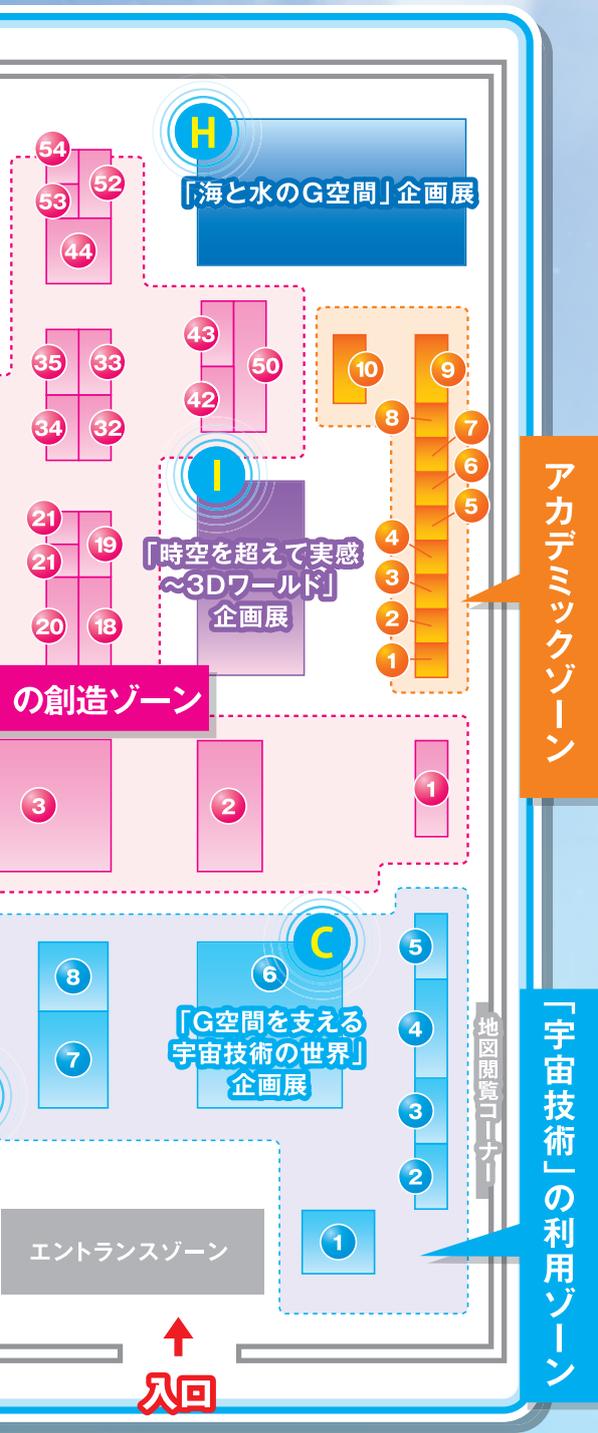
「安全安心」への
貢献ゾーン

出口

MAP!

@カフェテリア

展者やシンポジウム実施者が次々と
りに、気楽にお立ち寄りください。そこ
等がありましたら、ぜひ足を運んでみ
ンが展開されるかはお楽しみです。



- 「新マーケット」の開拓、
「新技術・新サービス」の創造ゾーン**
- 1 福井コンピュータ(株)
 - 2 ジオサーフ(株)
 - (有)ロッシュ
 - (株)ビーシステム
 - (株)オキシーテック
 - (株)昭文社
 - キャンバスマップル(株)
 - (株)昭文社デジタルソリューション
 - (株)マップル・オン
 - ジェイエムテクノロジー(株)
 - (株)アスコ
 - 一般財団法人 日本建設情報総合センター
 - (株)アイ・トランスポート・ラボ
 - (株)アイ・エス・ビー
 - 日本スーパーマップ(株)
 - パックスインターナショナル
 - (株)コーガ
 - ジビル調査設計(株)
 - 日本GPSデータサービス(株)
 - 社会基盤情報流通推進協議会
 - (株)ePI-NET
 - (株)ジオブレイン
 - 一般財団法人 日本デジタル道路地図協会
 - (株)みるくる
 - 東京カードグラフィック(株)
 - (株)ジオプラン
 - GEエナジー
 - (株)オークニー
 - (株)ダイナテック
 - アイサンテクノロジー(株)
 - オートデスク(株)
 - 国際航業(株)
 - (株)トブコン
 - (株)岩根研究所
 - (株)構造計画研究所
 - アクリーグ(株)
 - 関東職業能力開発大学校
 - 厦門銀据空間地理情報有限公司
 - 独立行政法人 産業技術総合研究所
 - 公益財団法人 統計情報研究開発センター
 - 国土交通省 国土政策局
 - (株)ヘミスフィア
 - パンフィックヴィジョン(株)
 - East View Geospatial
 - 多摩川精機(株)
 - 中日本航空(株)
 - (株)JM
 - (株)ソーキ
 - (株)リコー
 - (株)昌新
 - (株)イメージワン
 - (株)三英技研
 - 昭和(株)

- 43 社団法人 日本地図調製業協会
- 44 (株)バスコ
- 45 (株)コスモサウンド
- 46 (株)マップコン
- 47 NTT空間情報(株)
- (株)NTTデータ
- 48 (株)みるくる
- (株)日立製作所
- (株)日立アドバンスシステムズ
- 49 日立情報通信エンジニアリング(株)
- (株)日立ソリューションズ
- 50 東京測量調査設計事業協同組合
- 千葉県測量設計補償共同組合
- 51 (株)デバイスワークス
- 52 日本ヒューレット・パッカード(株)
- 53 (株)ゼンリン
- 54 (株)グランマップ
- 55 経済産業省情報プロジェクト室
- 56 測量共済会

- 「安全安心」への貢献ゾーン**
- 1 TIアサヒ(株)
 - (株)カクマル
 - 日立造船(株)
 - 日本土地家屋調査士会連合会
 - 独立行政法人 土木研究所
 - 一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
 - 公益財団法人 日本測量調査技術協会
 - (株)インフォマティクス
 - ESRIジャパン(株)
 - タマヤ計測システム(株)
 - (有)エム・ティプレジジョン
 - アジア航測(株)
 - 社団法人 日本測量協会
 - 独立行政法人 国立環境研究所
 - 環境省 自然環境局 生物多様性センター
 - 消防庁消防研究センター
 - 一般社団法人 日本測量機器工業会
 - 朝日航洋(株)
 - (有)牛方商会
 - 独立行政法人 防災科学技術研究所
 - 財団法人 岐阜県建設研究センター
 - (株)リプロ
 - (株)テイクオフ
 - 国土地理院
 - 「測量の日」実行委員会
 - 財団法人 日本地図センター
 - 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所
 - 独立行政法人 森林総合研究所

- 「宇宙技術」の利用ゾーン**
- 1 経済産業省 宇宙産業室
 - 財団法人 宇宙システム開発利用推進機構

- 2 (株)コア
- 3 (株)ジェノバ
- 4 エー・シー・エス(株)
- 5 日本電気(株)
- 内閣官房 宇宙開発戦略本部事務局
- 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
- 6 IMES コンソーシアム
- 測位衛星技術(株)
- 財団法人 衛星測位利用推進センター
- (株)日立ソリューションズ
- 7 DIGITAL GLOBE INTERNATIONAL, INC.
- 8 (株)ニコトリンブル
- 9 (株)ジオサイエンス
- 10 富士通(株)
- 11 日本スペースイメーシング(株)
- 12 一般財団法人 リモートセンシング技術センター

- 「時空を超えて実感
〜3Dワールド」企画展**
- 1 リーグルジャパン(株)
 - (株)守谷商会
 - 3D Network Japan
 - (株)計測リサーチコンサルタント
 - 3 クレアフォームジャパン(株)
 - フィアロコーポレーション(株)
 - 4 ビジューツール(株)
 - 5 動体計測研究会 (ARIDA)
 - 6 金沢工業大学 空間情報プロジェクト

- アカデミックゾーン**
- 1 一般社団法人 地理情報システム学会
 - 2 東京大学 工学系研究科
 - 3 芝浦工業大学
 - 4 東京農業大学
 - 5 日本大学
 - 6 公益社団法人 日本地理学会
 - 7 高知工科大学
 - 8 一般社団法人 日本リモートセンシング学会
 - 9 東京大学生産技術研究所
 - 10 東京大学空間情報科学研究センター

- 「海と水のG空間」企画展**
- 1 一般財団法人 日本水路協会
 - 2 ビジオテックス(株)
 - 3 Chesapeake Technology Inc.
 - 4 コデン(株)
 - 4 (株)海洋先端技術研究所
 - 5 (株)アーク・ジオ・サポート
 - 6 (株)エス・イー・エイ
 - 7 公益財団法人 函館地域産業振興財団
 - 8 日本海洋(株)

出展者数と小間数

		出展者数	小間数
企画展	❖G空間を支える宇宙技術の世界 ～新たな未来をひらく準天頂衛星システム～	5者	18小間
	❖時空を超えて実感～3Dワールド	9者	15小間
	❖海と水のG空間	9者	16小間
テーマ別 ゾーン	「新マーケット」の開拓, 「新技術, 新サービス」の創造	72者	194小間
	「宇宙技術」の利用	13者	31小間
	「安全安心」への貢献	29者	92小間
アカデミック・ゾーン		10者	12小間
合 計		147者	378小間
産 業 界		122者	308小間
学 界		11者	14小間
官		14者	56小間
合 計		147者	378小間

(備考) 小間の大きさ 2m×2m=4㎡

参考(1) 目標 (第13回実行委員会 平成23年9月26日) 150者 500小間

参考(2) G空間EXPO(2010)の実績 189者 630小間
平成22年9月19日(日), 20日(月・祝), 21日(火)
630小間の内訳 通常小間 (4㎡) 540小間+セット小間 (2.36㎡) 90小間

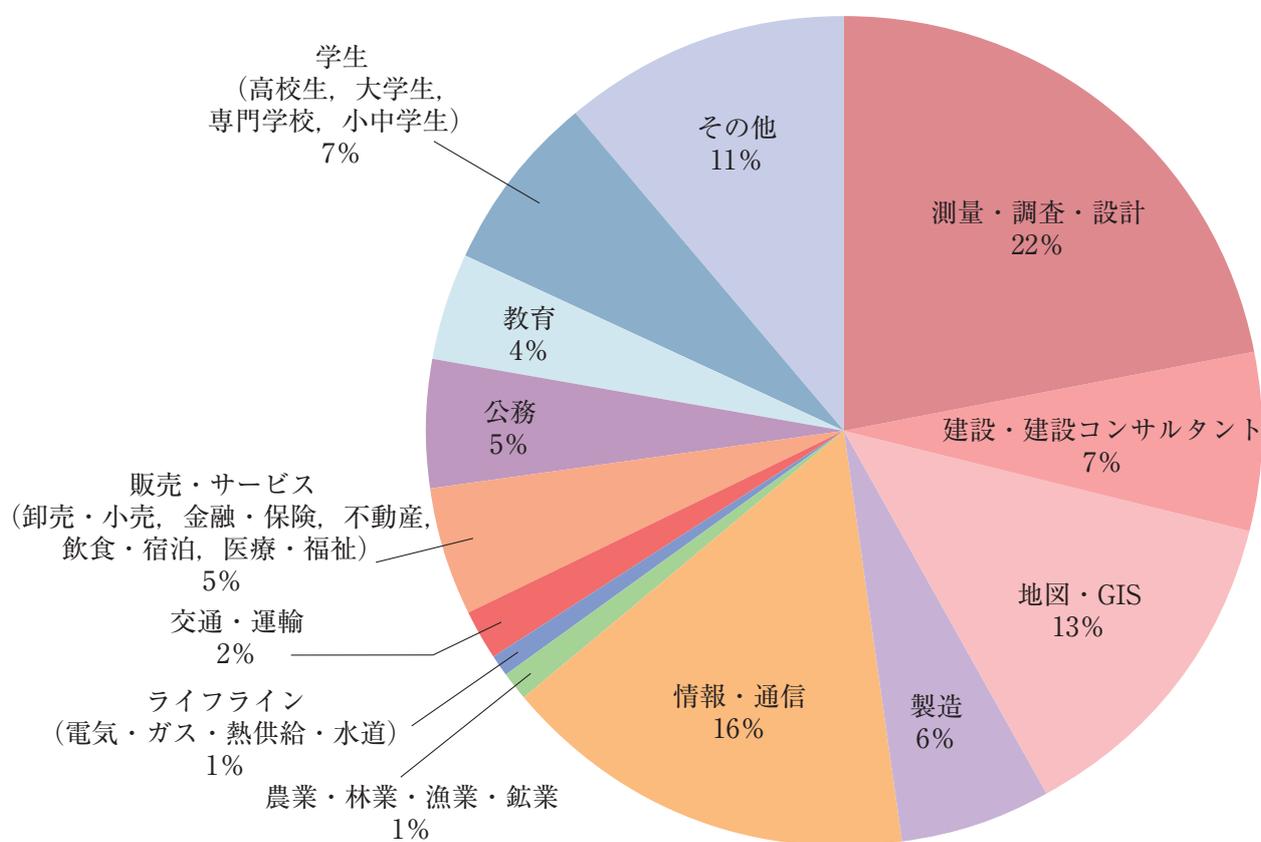
展示会来場者

開催日	展示会 来場者
6月21日(木)	5,015人
6月22日(金)	7,878人
6月23日(土)	5,250人
3日間合計	18,143人

参考(1) 目標 (第13回実行委員会 平成23年9月26日) 2万～3万人

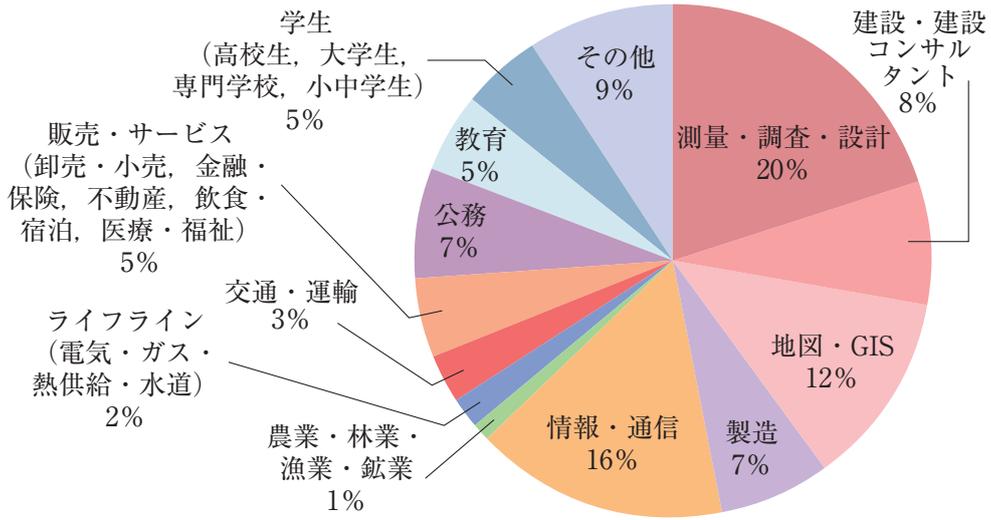
参考(2) G空間EXPO (2010) の実績 36,815人

G空間EXPO2012 展示会来場者の業種区分

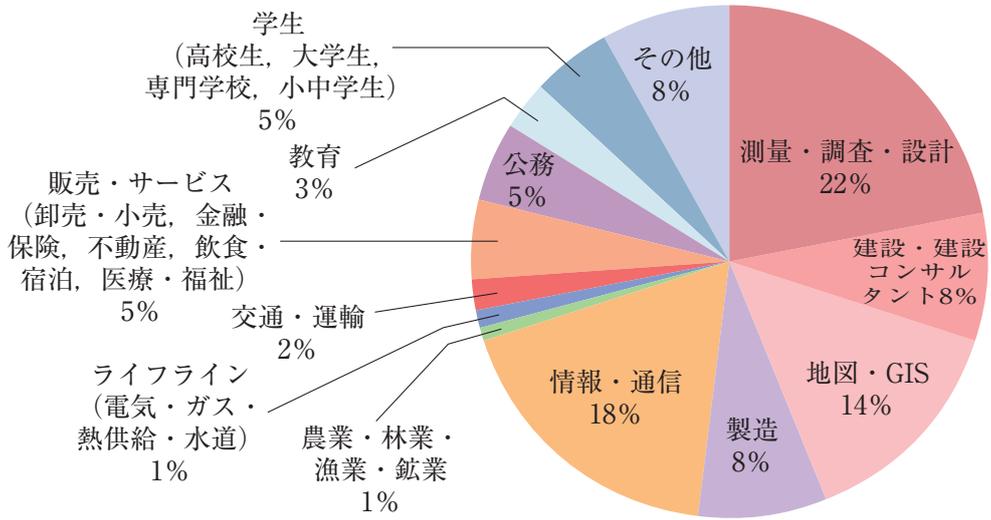


(備考) 6月21日～23日の合計

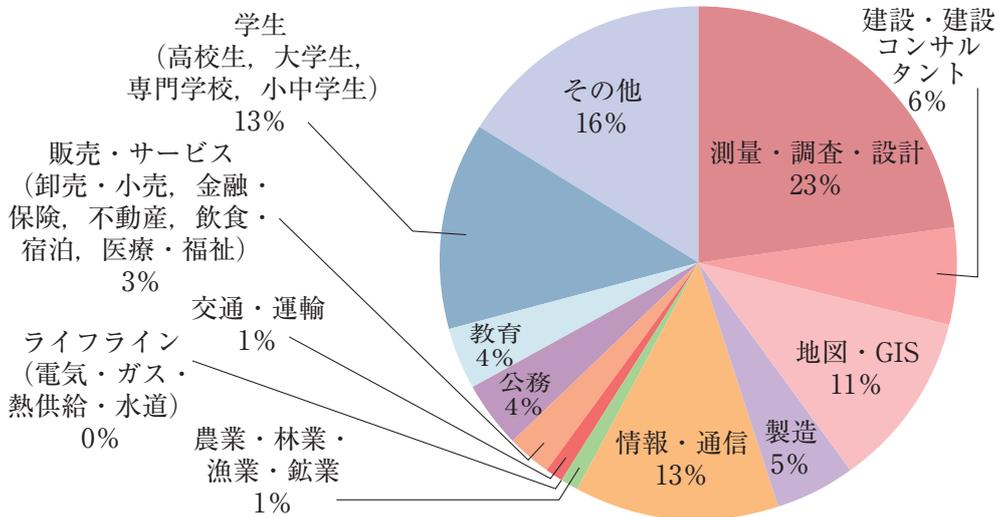
展示会来場者数 [6月21日(木)] 5,015人



展示会来場者数 [6月22日(金)] 7,878人



展示会来場者数 [6月23日(土)] 5,250人



ベンダーフォーラム（出展者技術説明会）

出展者による技術・製品・サービスの内容や事業の詳しい説明が行われました。来場者は興味のある出展者や展示品についての情報収集を行い、また、出展者と来場者の交流が行われました。

会 期

パシフィコ横浜 展示ホール2F会議室 E204 E205 E206

期 日

平成24年6月21日(木)、22日(金)

ベンダーフォーラム (展示ホール2F会議室)	会場	E204	E205
	時間		
	11:00～11:30		本格化するMMSデータとGISの連携 ～実務事例から見たMMSの活用と将来性～ ／(株)マブコン
	11:30～12:00		オープンガバメントの先にあるビジネスチャンス ～行政情報から始まるイノベーション～ ／社会基盤情報流通推進協議会
	13:00～13:30	GNSSオープンソース「RTK-LIB」を使った アプリケーション事例／(株)テイクオフ	
	13:30～14:00		
	14:00～14:30	“もっと簡単にGISを！”「マイマップを利用した ipad現地調査とEXCEL地図の連携ツールとは」 ／(株)デバイスワークス	
	14:30～15:00	オープンイノベーションとG空間ビジネス (オープンストリートマップを活用した世界ナビ) ／(株)グランマップ	
	15:00～15:30	日本初上陸！写真計測技術を用いた モバイルマッピングサービスのご紹介／(株)JM	
15:30～16:00	LocationSupporter (ロケサポ)のご案内 (スマートフォンを利用した外勤者支援・管理システム) ／ジェイエムテクノロジー(株)		

ベンダーフォーラム (展示ホール2F会議室)	会場	E204	E205	E206
	時間			
	11:00～11:30			
	11:30～12:00	LocationSupporter (ロケサポ)のご案内 (スマートフォンを利用した外勤者支援・管理システム) ／ジェイエムテクノロジー(株)	衛星データの利用及び提供について ／一般財団法人 リモート・センシング技術センター	Street Mapperによる移動体計測の最新技術 ／(株)みるくる
	13:00～13:30	マルチビーム測深機(一体型)を用いた 調査の現状／(有)ロッシュ		復興情報航と3・11アーカイブ ／(株)リプロ
	13:30～14:00	マルチビーム測深機(一体型)を用いた 調査の現状／(有)ロッシュ	RIEGLレーザーキャナー最新情報・事例紹介 ／リーグルジャパン(株)	測地成果2011における測量作業と境界復元・ 地積測量図作成・今後の見通し ／アイサンテクノロジー(株)
	14:00～14:30	インフォマティクスのクラウドサービス 「GeoCloud (R)」／(株)インフォマティクス	クラウド型地図連携アプリケーションの活用事例と それを支える地理情報のオープンソース技術解説 ／(株)オークニー	点群から始まる土木BIM (CIM) プロセスの実現／オートデスク(株)
	14:30～15:00	Hitzにおける衛星測位技術を利用した防災・ 減災システムの取り組み／日立造船(株)	GatewingX100 最新UAV (無人航空機)での写真測量 ／ジオサーフ(株)	地方にやさしいSuperMap ／日本スーパーマップ(株)
	15:00～15:30	Microsoft UltraCamによる 空中写真測量最新技術／(株)みるくる	新しいGPS測位方法の提案 ／(株)ジオブレイン	国際航業グループの屋内位置情報サービスへの 取り組み／国際航業(株)
15:30～16:00	GNSSオープンソース「RTK-LIB」を使った アプリケーション事例／(株)テイクオフ	Google Maps APIで作る、わかりやすい店舗地図 ／(株)ゴーガ	1/25000地形図でたどる伊能忠敬の全足跡 (伊能大図全国データベース) ／東京カートグラフィック(株)	

G空間EXPO

2012
展示会

出展ブース紹介

「新マーケット」の開拓，
「新技術，新サービス」の
創造ゾーン



(株)トプコン



(有)ロッシュ・(株)ビーシステム・(株)オキシテック



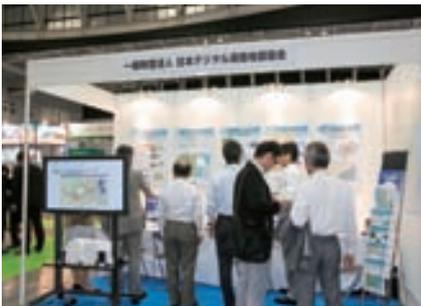
国際航業(株)



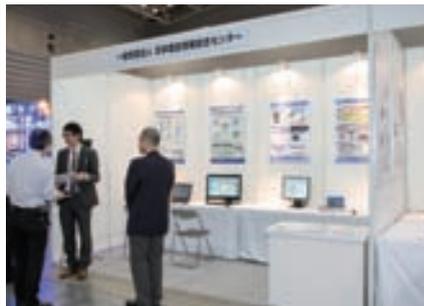
アイサンテクノロジー(株)・オートデスク(株)



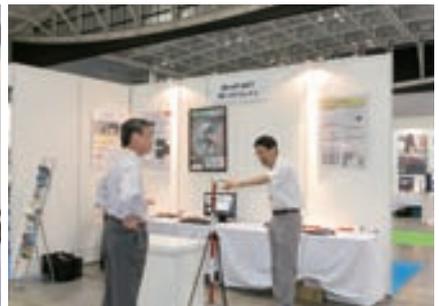
国土交通省 国土政策局



(一財)日本デジタル道路地図協会



(一財)日本建設情報総合センター



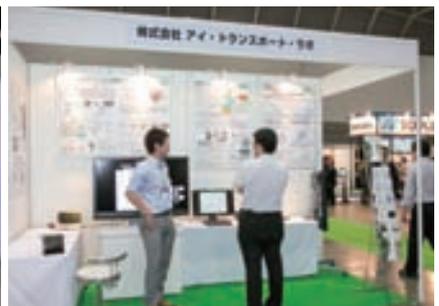
(株)eP-NET・(株)ジオブレイン



(株)JM



(株)アイ・エス・ピー



(株)アイ・トランスポート・ラボ

出展ブース紹介



(株)アスコ



(株)イメージワン



(株)ゴーガ



(株)コスモサウンド



(株)ジオプラン・GEエナジー



(株)ゼンリン



(株)ソーキ



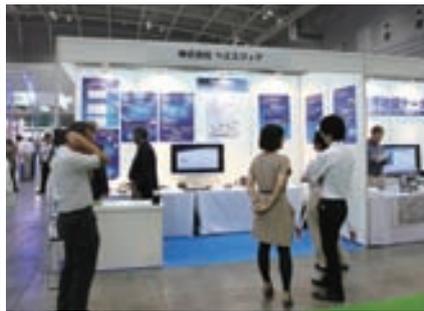
(株)オークニー／(株)ダイナテック



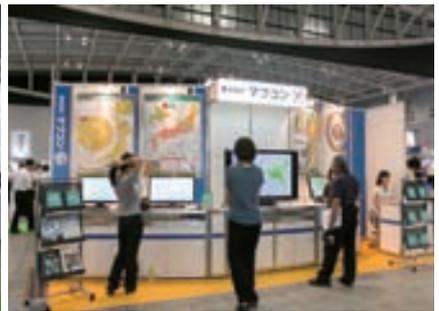
(株)デバイスワークス



(株)バスコ



(株)ヘミスフィア



(株)マップコン



(株)みるくるⅠ



(株)みるくるⅡ



(株)リコー

出展ブース紹介



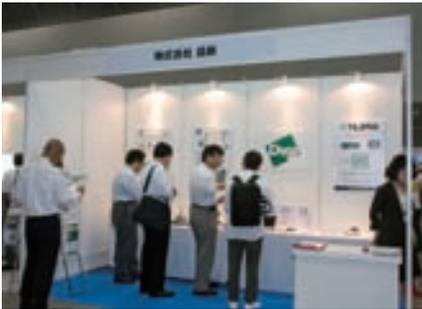
(株)岩根研究所



(株)構造計画研究所



(株)三英技研



(株)昌新



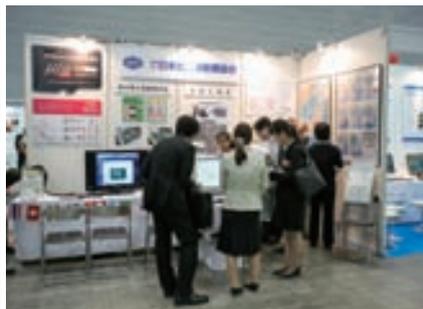
(株)昭文社・キャンパスマップ(株)・
(株)昭文社デジタルソリューション・(株)マップル・オン



(株)日立製作所・(株)日立アドバンスドシステムズ・
日立情報通信エンジニアリング(株)・(株)日立ソリューションズ



(公財)統計情報研究開発センター



(社)日本地図調製業協会



(独)産業技術総合研究所



(株)グランマップ



NTT空間情報(株)・(株)NTTデータ



アクリーグ(株)・関東職業能力開発大学校



ジェイエムテクノロジー(株)



ジオサーフ(株)



ジビル調査設計(株)

出展ブース紹介



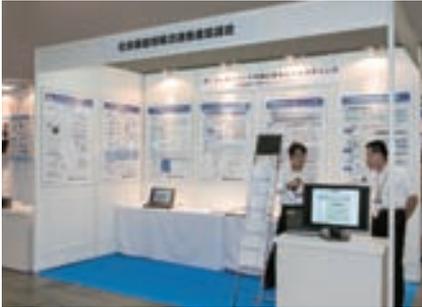
パシフィックビジョン(株)・EastView Geospatial



パックスインターナショナル



経済産業省情報プロジェクト室



社会基盤情報流通推進協議会



昭和(株)



測量共済会



多摩川精機(株)



中日本航空(株)



東京カートグラフィック(株)



東京測量調査設計事業協同組合・
千葉県測量設計補償協同組合



日本GPSデータサービス(株)



日本スーパーマップ(株)



日本ヒューレット・パカード(株)



福井コンピュータ(株)



廈門銀据空間地理情報有限公司

出展ブース紹介

「宇宙技術」の利用ゾーン



(一財) リモート・センシング技術センター



(株) コア



(株) ジェノバ



(株) ジオサイエンス



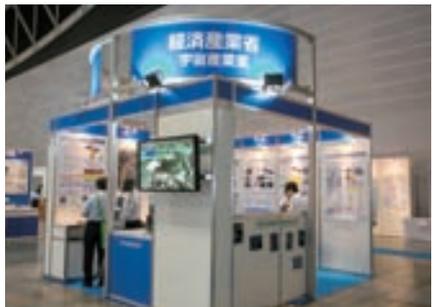
(株) ニコン・トリンプル



(株) 日立ソリューションズ・
DIGITAL GLOBE INTERNATIONAL INC



エー・シー・エス(株)



経済産業省宇宙産業室・
(財)宇宙システム開発利用推進機構



日本スペースイメージング(株)



日本電気(株)



富士通(株)

「安全安心」への 貢献ゾーン



(一社) 全国測量設計業協会連合会



(一社) 日本測量機器工業会

出展ブース紹介



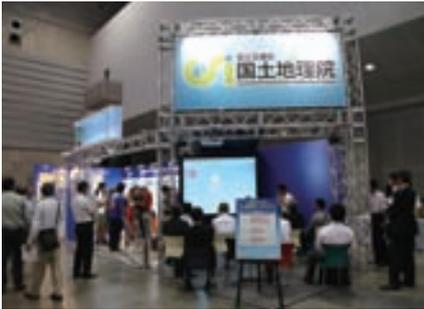
(株)インフォマティクス



(社)日本測量協会



アジア航測(株)



国土地理院



(株)カクマル



(株)テイクオフ



(株)リプロ



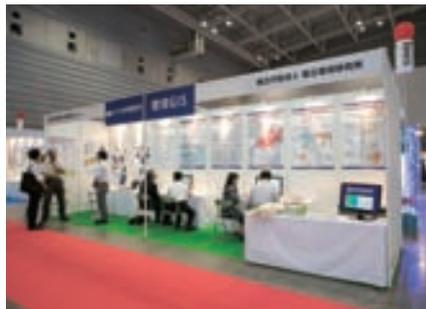
(公財)日本測量調査技術協会



岐阜県建設研究センター



(財)日本地図センター



(独)国立環境研究所・環境省自然環境局生物多様性センター



(独)森林総合研究所



(独)土木研究所



(独)農業・食品産業技術総合研究機構・農村工学研究所



(独)防災科学技術研究所

出展ブース紹介



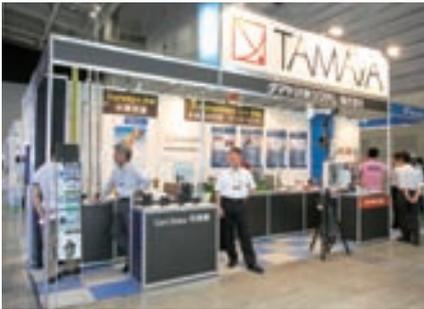
(有)牛方商会



ESRIジャパン(株)



TIアサヒ(株)



タマヤ計測システム(株)・(有)エム・ティプレジジョン



消防庁消防研究センター



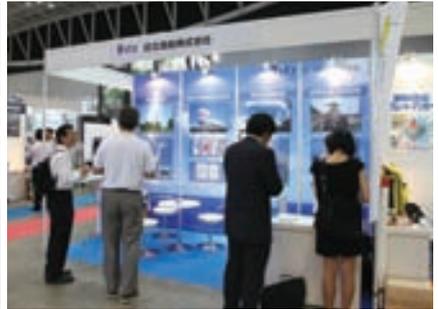
「測量の日」実行委員会



朝日航洋(株)



日本土地家屋調査士会連合会



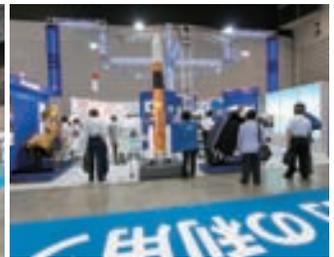
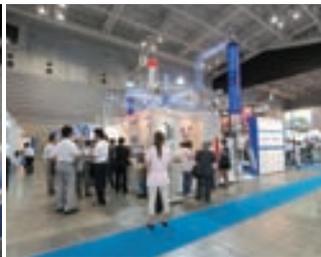
日立造船(株)



企画展
「G空間を支える
宇宙技術の世界
～新たな未来を
ひらく準天頂衛星
システム～」



内閣官房宇宙開発戦略本部事務局・(独)宇宙航空研究開発機構・(財)衛星測位利用推進センター・IMESコンソーシアム・測位衛星技術(株)



企画展
「時空を越えて実感
～3Dワールド～」



株計測リサーチコンサルタント・クレアフォームジャパン(株)・株フィアロコーポレーション



3DNetwork Japan



ビジュアルツール(株)

企画展・アカデミックゾーン



リーグルジャパン(株)・
株守谷商会

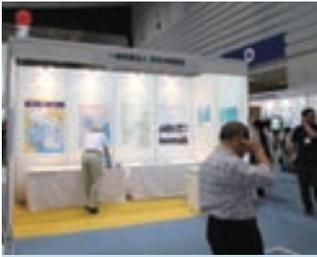


金沢工業大学
空間情報プロジェクト



動体計測研究会

企画展 「海と水のG空間」



(一財)日本水路協会



(株)アーク・ジオ・サポート



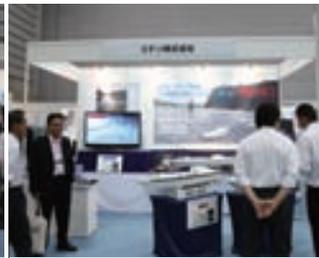
(株)エス・イー・エイ



(株)海洋先端技術研究所



(公財)函館地域産業振興財団



コデン(株)



ビジオテックス(株)・
Chsapeake Technology Inc



日本海洋(株)

アカデミック ゾーン



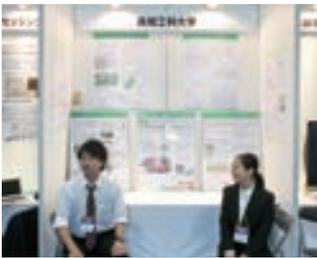
(一社)地理情報システム学会



(一社)日本リモートセンシング学会



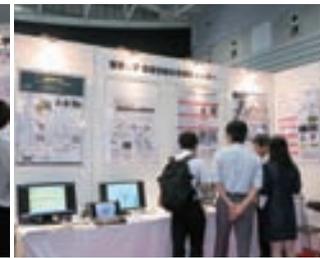
(公社)日本地理学会



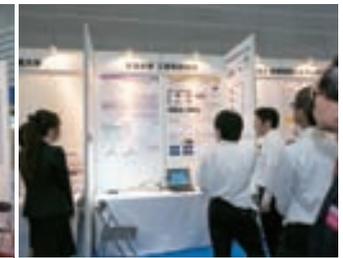
高知工科大学



芝浦工業大学



東京大学空間情報科学研究センター



東京大学工学系研究科



東京大学生産技術研究所



東京農業大学



日本大学理工学部社会交通工学科
空間情報研究室



展示会場のエントランス



展示会場の入場受付



図書展示「G空間社会の関連図書展示」



地図展示「陸から海まで、地図が一堂に集結」



アカデミック・ゾーン







4. 講演・シンポジウム・セミナー等

第一線で活躍する有識者らにより、G空間社会の最新情報や研究成果、業界・技術動向、事例紹介など21のプログラムが行われました。いずれの会場も立ち見が出るほど盛況で、G空間社会の更なる発展への関心の高さと、関連ビジネスの新しい展開が着実に具体化しつつある様子が伺えました。

1. 会 期 平成24年6月21日(木)、22日(金)、23日(土)

2. 会 場 パシフィコ横浜 アネックスホール

シンポジウム等の参加者数

開催日	プログラム	会場	参加者数	備 考
6月21日 (木)	第23回応用測量技術研究発表会	F201	202人	合計 893人
	地域における地理空間情報活用の広がりと展開 (公共測量の普及啓発セミナー)	F202	169人	
	アンビエント社会基盤—実空間データが新産業を創りだす—	F203	96人	
	オープンガバメントの先にあるビジネスチャンス ～行政情報から始まるイノベーション～	F204	103人	
	防災地理空間情報活用シンポジウム	F205	203人	
	震災に備えてG空間情報を有効活用する仕組みをどう作るか?	F206	120人	
6月22日 (金)	国際シンポジウム 「G空間関連ビジネスにおける海外展開の方向」	F201	148人	合計 1,651人
	国際シンポジウム「アジア・オセアニアにおける衛星測位・ 地理空間情報利用と海外貢献について」	F201	180人	
	知っ得、測量時事情報セミナー	F202	154人	
	情報流通のためのデジタル道路地図、今とこれから	F202	196人	
	Geoアクティビティフェスタ	F203	329人	
	空間情報による災害調査～東日本大震災以降の新展開	F204	148人	
	G空間WAVE2012 gコンテンツワールド+ジオメディアサミット Part-1	F205	179人	
第34回測量調査技術発表会	F206	317人		
6月23日 (土)	地理学から提言する新しい国土	F201	175人	合計 1,151人
	大震災からの復興へ向けて～新たな発想の提言	F201	177人	
	場所情報コードの利用技術に関する共同研究報告会	F202	125人	
	地理空間情報「地図」による効果的な防災教育を考える	F203	46人	
	女子の地図力最前線—“地図ガール”の感性と新マーケット	F204	210人	
	G空間WAVE2012 gコンテンツワールド+ジオメディアサミット Part-2	F205	160人	
	土地家屋調査士研究発表会 ～情報循環社会の構築が明日の日本を創る～	F205	121人	
G空間EXPO2012学生フォーラム	F206	137人		
合計(延べ人数)				3,695人

6月21日(木) シンポジウムプログラム

F201

10:00~16:30 研究発表会 社団法人日本測量協会

第23回応用測量技術研究発表会

時間	発表テーマ	発表者名
10:00~10:10	ご挨拶	応用測量論文集編集委員会 委員長 佐田 達典
◆座長 アジア航測株式会社 住田 英二		
10:10~10:30	MMSを用いた屋外広告物調査手法の有効性の検討	国際航業株式会社 光広 淳
10:30~10:50	地上型レーザ計測の標準化へ向けた実証実験	金井度量衡株式会社 坂木 祐一郎
10:50~11:10	固定資産税土地評価における標高データを利用した傾斜方位調査手法の検討	朝日航洋株式会社 酒井 拓也
11:10~11:30	崩壊斜面の三次元計測を目的としたXバンドSARデータによるDEM生成	福井工業高等専門学校 辻子 裕二
11:30~11:50	時空間ランダム効果モデルによる広域放射線量分布図作成の可能性	筑波大学大学院 爲季 和樹
◆座長 株式会社パスコ 坂下 裕明		
13:00~13:20	既存航空写真、旧版地形図等を利用した地震による家屋被害と地盤形成履歴との関係分析	大輝測量株式会社 星野 義典
13:20~13:40	基盤地図情報へのレベル25000道路ネットワークの位置マッチング方法の研究	アジア航測株式会社 松井 晋
13:40~14:00	独立偏位修正法を用いたマルチ画像マッチングに関する研究	国際航業株式会社 武田 浩志
14:00~14:20	色付き点群データを利用したカメラによる自己位置推定	芝浦工業大学 中川 雅史
14:20~14:40	モバイルマッピングシステムを用いた道路構造物データの抽出手法に関する研究	日本大学大学院 船戸 智也
◆座長 国際航業株式会社 小野 博之		
14:50~15:10	モバイルマッピングシステムによる路面形状計測実験	日本大学大学院 白井 美由貴
15:10~15:30	高密度DSMを用いた列車無線システムにおける電波伝搬シミュレーションの一検討	アジア航測株式会社 中嶋 幸宏
15:30~15:50	地方自治体による地理空間情報共同整備の推進方策に関する考察	(株)三菱総合研究所 中村 秀至
15:50~16:10	地方における"地図という情報"に関する一考	伊万里市役所 吉永 幸治
16:10~16:30	表彰式	

F202

11:10~16:15 セミナー 国土地理院

地域における地理空間情報活用の広がりと展開(公共測量の普及啓発セミナー)

時間	発表テーマ	発表者名
11:10~12:00	公共測量及び公共測量申請書作成サイトの紹介	国土地理院公共測量担当
13:10~13:15	挨拶	国土地理院関東地方測量部長
13:15~13:55	講演1「地理空間情報もたらすイノベーション」	横浜国立大学大学院 教授 佐土原 聡
13:55~14:35	講演2「地方公共団体における地理空間情報の整備・更新」	東京都北区まちづくり部 課長付主査 和田 陽一
14:45~15:25	公共測量作業規程「準則」における現在の取組と今後の課題	国土地理院公共測量担当
15:25~16:15	公共測量及び公共測量申請書作成サイトの紹介	国土地理院公共測量担当

F203

13:30~16:30 講演 マルチメディア推進フォーラム

「アンビエント社会基盤」—実空間データが新産業を創り出す—

時間	発表テーマ	発表者名
13:30~14:00	「アンビエント社会基盤とビッグデータ」	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 森川 博之
14:00~14:45	「アンビエント社会のビジョン」	東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授 田中 秀幸
14:45~15:00	休憩/意見交換/名刺交換等	
15:00~15:45	「都市環境とアンビエント社会基盤」	(株)日立製作所 研究開発本部 技術戦略室 担当部長 新谷 洋一
15:45~16:30	「実世界ログ:総記録技術が社会を変える」	新日鉄ソリューションズ(株) システム研究開発センター 上席研究員 桜井 新

F204

13:00～16:00 講演/パネルディスカッション/研究発表会 社会基盤情報流通推進協議会

オープンガバメントの先にあるビジネスチャンス ～行政情報から始まるイノベーション～

時間	発表テーマ	発表者名
13:00～13:05	開会挨拶	
13:05～13:35	基調講演 社会基盤情報の流通推進の意義(仮称)	柴崎 亮介 東京大学空間情報科学研究センター 教授
13:35～14:15	基調講演 東北大学によるアーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」と社会基盤情報	柴山 明寛 東北大学防災科学研究拠点 助教
14:25～16:00	パネルディスカッション	柴山 明寛 東北大学防災科学研究拠点 助教 神山 修 国土交通省国土政策局国土情報課 課長 村田 岳彦 ヤフー株式会社メディア事業統括本部地域サービス本部 本部長 生貝 直人 特定非営利活動法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン 理事 島田 孝司 富士通株式会社新規ビジネス開発本部 本部長代理 井上 修 オートデスク株式会社 テクニカルセールスマネージャ

F205

13:00～17:00 講演/パネルディスカッション 国土地理院

防災地理空間情報活用シンポジウム

時間	発表テーマ	発表者名
13:00～	開場・開会挨拶	(国土地理院)
13:10～	防災地理空間情報活用事例の紹介	長谷川 裕之(国土地理院) 五野井 盛夫(宮城県東松島市復興政策部) 佐野 誠市(新潟県十日町市総務部) 林 若巳(神奈川県県土整備局河川下水道部) 特別講演 岡村 真(高知大学教授)
15:40～	出席者によるパネルディスカッション	コーディネーター:岡村 真(高知大学教授)

F206

13:15～17:00 講演/パネルディスカッション 一般社団法人地理情報システム学会

震災に備えてG空間情報を有効活用する仕組みをどう作るか?

時間	発表テーマ	発表者名
13:15～13:20	挨拶	吉川 真(大阪工業大学教授・前GIS学会会長)
13:20～13:30	シンポジウムの趣旨	柴崎 亮介(東京大学)
13:30～14:00	東日本大震災における地理空間情報の利用:その効果と課題	長坂 俊成(防災科学技術研究所)
14:00～14:20	自治体における地理空間情報の利用:効果と課題	醍醐 恵二(浦安市)
14:20～14:40	ライフライン・交通事業者における地理空間情報の利用	小林 三昭(JR東日本コンサルタント(株))
14:40～15:00	カーナビゲーションデータの利用	八木 浩一(特定非営利活動法人 ITS Japan)
15:00～15:20	ボランティアによる地理空間情報の収集・統合・利用支援	古橋 大地(東京大学・空間情報科学研究センター、マップコンジェルジュ(株))
15:30～17:00	パネルディスカッション 「震災に備えて地理空間情報を有効活用する仕組みはどうあるべきか?どう作るべきか?」	司会:柴崎 亮介 パネラー:各講演者+内閣府(防災担当)

6月22日(金) シンポジウムプログラム

F201

10:00~12:00 講演/パネルディスカッション 国土交通省国土政策局

国際シンポジウム「G空間関連ビジネスにおける海外展開の方向」

時間	発表テーマ	発表者名
10:00	開会	
	<主催者挨拶>	川上 征雄 国土交通省大臣官房審議官(国土政策局担当)
	<基調講演> 「アジア・オセアニア地域におけるG空間技術のニーズと日本への期待」	Gil-Hong Kim アジア開発銀行地域・持続的開発局持続的インフラ課長
	<パネルディスカッション>	コーディネーター 柴崎 亮介 東京大学空間情報科学研究センター教授 パネリスト Gil-Hong Kim アジア開発銀行地域・持続的開発局持続的インフラ課長 東浦 亮典 東京急行電鉄株式会社都市開発事業本部企画開発部長 笹川 正 株式会社バスコ取締役衛星事業部長
12:00	閉会	

F201

13:00~17:00 講演 東京大学・空間情報科学研究センター、独立行政法人 宇宙航空研究開発機構

国際シンポジウム「アジア・オセアニアにおける衛星測位・地理空間情報利用と海外貢献について」

時間	発表テーマ	発表者名
13:00~13:40	Opening remarks	Prof. Ryosuke Shibasaki (EDITORIA and CSIS, University of Tokyo)
	Welcome address	Mr. Hirofumi KATASE, Deputy Secretary-General, Councillor, (Secretariat of Headquarters for Space Policy, Cabinet Secretariat)
	Keynote	Gil-Hong Kim (Director, Sustainable Infrastructure Division, Regional and Sustainable Development Department, Asian Development Bank)
13:40~15:40	Indonesia: Transportation and Disaster	Dr. Sutanto SOEHODHO (Professor of Transportation, University of Indonesia and Deputy Governor of Jakarta for Trade, Industry and Transportation, Jakarta Local Government Office) Dr. Sutopo Purwa Nugroho (Head of Data, Information and Public Relation Center, National Disaster Management Agency, Indonesia National Disaster Management Agency, Indonesia)
	Thailand: Disaster and Space/ geospatial technology	Mr. Tatiyat Chuentragun (Chief of Satellite Value-Added Products Division, Satellite Products Development Center, GISTDA, GNSS and Geospatial Data Status and Applications for Disaster Management in Thailand(GISTDA Perspective and Experience))
	Vietnam: Mobile phone technology	TBD, Viettel
	Singapore: Land Administration and GNSS	Dr. VICTOR KHOO (Senior Principal Surveyor, Land Survey Division, Regulatory Cluster, Singapore Land Authority)
16:00~16:50	Session 3 What could Space, Geospatial and IC Technologies do for Asia and Oceania Region?	Mr. Goro Yasuda (Director, Overseas Project Division, Policy Bureau, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism)
	JAXA	Mr. Satoshi Kogure (G2SS Mission Manager, Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA), Satellite Applications and Promotion Center)
	Multi- GNSS Asia	Prof. Akio Yasuda (Co-Chairperson Multi-GNSS Asia (MGA), Professor emeritus Tokyo university of marine science and technology)
16:50~17:00	Closing Remarks	Prof. Ryosuke Shibasaki (JMI, of Tokyo, EDITORIA and CSIS)

F202

10:00~12:00 セミナー 一般社団法人 全国測量設計業協会連合会

知っ得、測量時事情報セミナー

発表テーマ	発表者名
新潟県上越市板倉区国川地すべり災害について	設原 英明(新潟県測量設計業協会)
東北太平洋地震による液化化被災	司代 洋和(茨城県測量設計業協会)
長野県北部地震について	柳沢 洋一(長野県測量設計業協会)

F202

14:00~16:30 講演/パネルディスカッション 財団法人 日本デジタル道路地図協会

情報流通のためのデジタル道路地図、今とこれから

発表テーマ	発表者名
これからのITSのための情報基盤	山田 晴利 東京大学空間情報科学研究センター特任教授
わが国のITS施策について	奥村 康博 国土交通省道路局ITS推進室長
官民協働によるITSの取り組み	葛西 章史 NPO 青森ITSクラブ・常務理事・事務局長
自動車クラウドとサービス流通構造の構築と実用化	時津 直樹 インターネットITS協議会事務局長
道路情報基盤による道路情報流通の姿	浜田 隆彦 NPO ITS-Japan道路情報基盤活用委員会・委員長
道路の区間ID方式—何が変わるのか?どう役立つのか?	上田 敏 国土交通省国土技術政策総合研究所 高度情報化研究センター長

F203

10:00~17:00 研究発表会 国土地理院

Geoアクティビティフェスタ

F204

13:00~16:45 講演/研究発表会 一般社団法人 日本写真測量学会

空間情報による災害調査～東日本大震災以降の新展開

時間	発表テーマ	発表者名
13:00	開会 趣旨説明	清水 英範(東京大学)
13:10	セッション1:測量マッピング	司会 布施 孝志(東京大学)
	1. 航空レーザー測量データを活用した三次元建物データの試作	飯田 誠(国土地理院)
	2. MMSで求めた津波浸水深と津波被害の地形的特徴との関連	小荒井 衛(国土地理院)
	3. 広域災害におけるビッグデータの利活用と展望	池田 辰也(アジア航測)
	4. 航空レーザー測量を中心とした計測技術への取り組み	中野 一也(朝日航洋)
	5. 広域的空間データアーカイブの利用による被災地密着型モニタリング	鎌形 哲絵(国際航業)
14:20	<質疑・休憩>	
14:35	セッション2:衛星リモートセンシング	司会 須崎 純一(京都大学)
	1. 高分解能SARIによる災害観測事例と感度の向上についてー Pi-SAR-L2とPALSAR-2 ー	島田 政信(JAXA)
	2. ALOS-3の動向(PRISMからPRISM-2へ)	高橋 橋夫(JAXA)
	3. 東日本大震災における衛星画像地図の作成・配布と今後の展開	古田 竜一(RESTEC)
	4. 複数衛星による震災地域の多時期観測とそのデータ利用	李 雲慶(日本スペースイメーシング)
	5. 災害時に衛星データを直接受信できる可搬統合型小型地上システムの開発	高岸 且(バスコ)
15:45	<質疑・休憩>	
16:00	<特別講演>	村井 俊治(日本測量協会会長、東京大学名誉教授) 「東日本大震災に学ぶ～新たな国土の復興に向けて」
16:45	閉会	

F205

10:20~16:50 講演/パネルディスカッション gコンテンツ流通推進協議会

G空間WAVE2012 gコンテンツワールド+ジオメディアサミット(Part-1)

時間	発表テーマ	発表者名
10:20~11:10	講演1/準天頂衛星初号機「みちびき」とIMESによる屋外屋内シームレス測位実証実験報告 -北海道 網走監獄博物館-	ソフトバンクモバイル株式会社 情報システムCS統括情報システム本部システムサービス事業統括部新規事業準備室長 永瀬 淳
11:10~12:00	講演2/オープンデータによるビジネス創出～オープンガバメントからオープンデータへ	株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部 副本部長(主席研究員) 村上 文洋
13:00~13:40	講演3/街なかでの「想い」の収集と活用～行動ログ解析の実証をふまえて～	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所(Nii) 准教授 相原 健郎
13:40~14:20	講演4/ドコモが取り込む位置情報を活用したサービス	株式会社NTTドコモ スマートコミュニケーションサービス部 担当部長 太口 努
14:20~15:00	講演5/ICTを活用した鉄道空間におけるお客さま向け情報提供サービスの研究開発	東日本旅客鉄道株式会社 JR東日本研究開発センター フロンティアサービス研究所 課長 情報デザイングループ 中川 剛志
15:20~16:50	パネルディスカッション/スマホが加速させる位置情報サービスの展望とその課題(仮)	モデレータ:D4DR(株) 代表取締役社長 藤元 健太郎 パネリスト:ソフトバンクモバイル(株) システムサービス事業統括部 新規事業準備室 永瀬 淳 (株)三菱総合研究所 地域経営研究本部 副本部長 村上 文洋 国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系准教授 相原 健郎 (株)NTTドコモ コンシューマサービス部 担当部長 太口 努 東日本旅客鉄道(株) フロンティアサービス研究所 情報デザイングループ 中川 剛志

F206

10:00~16:50 研究発表会/講演 公益財団法人 日本測量調査技術協会

第34回測量調査技術発表会

時間	発表テーマ	発表者名
10:00~10:05	ガイダンス	測技協 技術普及部会長 土谷 学
10:05~10:10	開会挨拶	測技協 技術委員長 島村 秀樹
10:10~10:30	航空レーザスキャナと航空写真測量デジタルカメラによる同時撮影の利活用について	国際航業株式会社 太田 有紀
10:30~10:50	森林資源情報取得のための写真測量システムの開発について	株式会社バスコ 浦本 洋市
10:50~11:10	ダム貯水池上流部における極浅域の面的3次元データの取得～大規模出水に備えたダム維持管理に向けて～	中日本航空株式会社 高橋 弘
11:10~11:30	レベル2500道路ネットワークの位置補正方法の研究	アジア航測株式会社 松井 晋
11:30~11:50	航空レーザデータを用いたMMS データの高精度化～GNSS 受信状況が劣悪な山間地のMMS 計測における精度確保～	中日本航空株式会社 中村 勇貴
11:50~12:10	MMSを利用する為の様々なアプリケーション紹介と利用事例紹介	アイサンテクノロジー株式会社 根本 茂
13:30~13:50	ナローマルチビーム測深機を用いた港湾構造物被災状況調査	朝日航洋株式会社 中内 隆幸
13:50~14:10	東日本大震災による産業分野の被害状況の整理(仮)	国際航業株式会社 小早川 雅行
14:10~14:30	超音波ドップラー式流速計(ADCP)による河川航路図作成	朝日航洋株式会社 白井 正孝
14:30~14:50	新探査技術による河川管理手法の高度化	株式会社バスコ 吉岡 裕嗣
15:00~15:50	特別講演/「国土交通省水管理・国土保全事業と測量調査技術について」(仮)	国土交通省 水管理・国土保全局長 関 克己
15:50~16:10	WG1/東日本大震災におけるレーザWGの調査活動および今後の展望	レーザWG 横尾 泰広
16:10~16:30	WG2/MMS活用分野の検討ワーキングの報告	MMS応用WG 住田 英二
16:30~16:40	表彰	
16:40~16:50	総評 閉会挨拶	測技協 会長 岡部 篤行

6月23日(土) シンポジウムプログラム

F201

10:00～12:00 講演/パネルディスカッション 公益社団法人 日本地理学会

地理学から提言する新しい国土

時間	発表テーマ	発表者名
20分	大災害と新しい経済環境に対応可能な国土構造の在り方	戸所 隆 (高崎経済大学 教授)
20分	大震災・放射能汚染からの地域復興と地理学 ～うつくしまふくしま未来支援センターの活動～	山川 充夫 福島大学 学長特別補佐 (うつくしまふくしま未来支援センター長)
20分	広域放射能汚染災害に対する地理学者の役割	近藤 昭彦 (千葉大学 教授)
		コメンテーター 宮原 育子 (宮城大学 教授) コメンテーター 瀬川 茂子 (朝日新聞社)

F201

13:30～15:30 講演 社団法人 日本測量協会

大震災からの復興へ向けて～新たな発想の提言

時間	発表テーマ	発表者名
13:30～13:45	シンポジウムの趣旨説明	村井 俊治((社)日本測量協会 会長)
13:45～14:15	スマートコミュニティ参画によるビジネスチャンスの創造	内田 憲男((株)トブコン 社長)
14:20～14:50	新たな国土づくりに貢献する空間情報コンサルタント	小川 紀一郎(アジア航測(株) 社長)
14:55～15:25	グリーンコミュニティの実現に向けた取り組み	中原 修(国際航業(株) 社長)
15:25～15:30	総括	村井 俊治((社)日本測量協会 会長)

F202

13:30～15:30 研究発表会 国土地理院

場所情報コードの利用技術に関する共同研究報告会

時間	発表テーマ
〈 Session1:場所情報コードとその運用管理について 〉	
13:30～13:40	国土地理院
13:40～13:55	(株)日立製作所
〈 Session2:実証実験報告 〉	
14:00～14:10	(株)日立産機システム
14:10～14:30	測位衛星技術(株) / 自治医科大学
14:30～14:45	(株)リプロ / 基盤地図情報活用研究会
14:45～14:55	国土地図(株)
〈 Session3:今後に向けて 〉	
15:00～15:10	(社)日本測量協会
15:10～15:15	慶應義塾大学
15:15～15:25	(財)日本情報経済社会推進協会
15:25～15:30	国土地理院

F203

13:00～17:00 講演/パネルディスカッション 財団法人 日本地図センター

地理空間情報「地図」による効果的な防災教育を考える

表テーマ	発表者名
地図教育・防災教育への支援と普及啓発の事例	津沢 正晴 (財団法人日本地図センター)
地図による防災教育のありかたと実践	志村 喬 (上越教育大学)
教育現場からのコメント	池下 誠 (練馬区立開進第一中学校)
	梅津 譲 (宮城県美田園高校)

F204 13:30~16:00 講演/パネルディスカッション 日本国際地図学会 女子の地図力最前線—“地図ガール”の感性と新マーケット

時間	発表テーマ
13:30~13:35	開会 ナビゲーター:太田 弘(慶應義塾普通部)×高橋 則雄(武揚堂)
13:35~14:10	起点トーク「女子力が創り出す環境、地図の健全な進化」有川 正俊(東京大学 空間情報科学研究センター)
14:10~15:50	ライトニングトークと総合パネル「女子力と地図力」 (1)渡辺 英恵(早稲田大学学部生)「地図史から見た女子の地図力」 (2)宮崎 朋美(東急電鉄なでしこチーム)「公共交通から見た女子の地図力」 (3)未定(昭文社ことりっぷチーム)「旅行ガイドブックから見た女子の地図力」 (4)三橋 ゆかり(テックドール)「ITライターから見た女子の地図力」 (5)八代 愛(ゼンリンデータコム)「ナビから見た女子の地図力」 (6)新垣 紀子(成城大学 社会イノベーション学部教授)「社会心理学から見た女子の地図力」 (7)有川 正俊(東京大学 空間情報科学研究センター教授)「男性目線から見た女子の地図力」
15:50~16:00	まとめ 閉会「地図ガールの未来」ナビゲーター:太田 弘(慶應義塾普通部)×高橋 則雄(武揚堂)

F205 9:30~12:30 講演/パネルディスカッション gコンテンツ流通推進協議会 G空間WAVE2012 gコンテンツワールド+ジオメディアサミット(Part-2)

時間	発表テーマ
9:30 ~ 9:35	開始、主催者挨拶
9:35 ~ 10:20	ライトニングトーク7本程度
10:30~11:00	講演1(30分)
11:00~11:30	講演2(30分)
11:30~12:30	パネルディスカッション(60分):モデレータ 古橋 大地

F205 14:10~16:05 研究発表会 日本土地家屋調査士会連合会 土地家屋調査士研究発表会~情報循環社会の構築が明日の日本を創る~

時間	発表テーマ	発表者名
14:10~14:45	国土調査法第19条第5項について	三嶋 元志 日本土地家屋調査士会連合会研究所研究員 東京土地家屋調査士会会員 土地家屋調査士
14:50~15:25	地籍に関する国際標準と日本の地籍のあり方	藤原 豪紀 日本土地家屋調査士会連合会研究所研究員 広島県土地家屋調査士会会員 土地家屋調査士
15:30~16:05	土地家屋調査士業務情報公開システム 「権利の明確化の使命と履歴社会への対応」	児玉 勝平 日本土地家屋調査士会連合会常任理事 宮崎県土地家屋調査士会副会長 土地家屋調査士

F206 9:00~17:00 研究発表会/講演 学生フォーラム運営委員会 G空間EXPO2012学生フォーラム

時間	発表テーマ
9:30~11:00	開会式・研究室紹介
11:00~12:00	GIM International 編集発行人 Mr. Durk Haarsma講演
13:00~13:50	ポスターセッション 第1セッション
13:50~14:40	ポスターセッション 第2セッション
14:40~15:30	ポスターセッション 第3セッション
15:40~16:40	交流イベント
16:45~17:00	閉会式・表彰式

第23回 応用測量技術研究発表会

●主催 社団法人日本測量協会

発表会の内容

今年で23回目となる技術研究発表会である。投稿された19編の論文の中から、査読審査に合格した14編の論文が発表された。

論文の投稿条件は、「地理空間情報の発展に寄与する研究成果・技術成果であって、未発表のもの」で、完結しているもの。なお論文の種別は次のとおり。

招待論文	広く関連学協会誌等の発表論文中から注目され、本論文集の主旨に沿って改めて執筆された論文等。
論文	地理空間情報分野のテーマに関する研究成果で新規性、実証性、有用性のあるもの。
報告	地理空間情報分野における実務、計測データ、システム開発、利活用等の技術的な事例報告、新たな測量技術の紹介、あるいは測量教育、測量分野の現状等に関する事例報告等で、有用性のあるもの。

発表会の実施状況

まず主催者を代表して、応用測量論文集編集委員会の佐田達典委員長（日本大学教授）より開会の挨拶が行われ、「日本測量協会は、日本学術会議から日本学術会議協力学術研究団体としての指定を受けたので、この研究発表会や論文集の学術的価値がより一層高まる」と紹介された。

今回の発表内容は、「論文」が10編、「報告」が4編である。発表された主なテーマは、モバイルマッピングシステム(MMS)関連が3編、マルチ画像マッチング関連が3編、地震による崩壊斜面の三次元計測や家屋被害関連が2編、地上型3次元レーザ計測が1編、地方自治体における“地図情報”や地理空間情報共同整備の推進に関するものが2編、その他3編の計14編であった。入場者には、この技術研究発表会の「発表概要」を無償で配布した。また併せて、この発表論文を収録した「CDによる応用測量論文集23」が発刊され、定価 2,000円（税込）で販売された。今回の発表会の入場者は、200名を超え一昨年実施した時より倍増した。

発表テーマ	発表者
MMSを用いた屋外広告物調査手法の有効性の検討	国際航業(株) 光広 淳
地上型レーザ計測の標準化へ向けた実証実験	金井度量衡(株) 坂本祐一郎
固定資産税土地評価における標高データを利用した傾斜方位調査手法の検討	朝日航洋(株) 酒井 拓也
崩壊斜面の三次元計測を目的としたXバンドSARデータによるDEM生成	福井工業高等専門学校 辻子 裕二
時空間ランダム効果モデルによる広域放射線量分布図作成の可能性	筑波大学大学院 爲季 和樹
既存航空写真、旧版地形図等を利用した地震による家屋被害と地盤形成履歴との関係分析	大輝測量(株) 星野 義典
基盤地図情報へのレベル25000道路ネットワークの位置マッチング方法の研究	アジア航測(株) 松井 晋
独立偏位修正法を用いたマルチ画像マッチングに関する研究	国際航業(株) 武田 浩志
色付き点群データを利用したカメラによる自己位置推定	芝浦工業大学 中川 雅史
モバイルマッピングシステムを用いた道路構造物データの抽出手法に関する研究	日本大学大学院 船戸智也
モバイルマッピングシステムによる路面形状計測実験	日本大学大学院 白井美由貴
高密度DSMを用いた列車無線システムにおける電波伝搬シミュレーションの一検討	アジア航測(株) 中嶋 幸宏
地方自治体による地理空間情報共同整備の推進方策に関する考察	(株)三菱総合研究所 中村 秀至
地方における“地図という情報”に関する一考	伊万里市役所 吉永 幸治

第23回応用測量論文奨励賞

全員の発表が終了後、表彰式を行った。表彰式では、発表された14編の論文の中から優秀な論文3編に、当協会の瀬戸島専務理事より「論文奨励賞」が贈られた。論文奨励賞受賞論文は次のとおり。

受賞論文名	受賞者
既存航空写真、旧版地形図等を利用した地震による家屋被害と地盤形成履歴との関係分析	星野義典(大輝測量(株)) 小泉俊雄(千葉工業大学) 阿部三樹((株)道路建設コンサルタント)
高密度DSMを用いた列車無線システムにおける電波伝搬シミュレーションの一検討	中嶋幸宏(アジア航測(株)) 柿元勇樹・森崇(西日本旅客鉄道(株))
地方における“地図という情報”に関する一考	吉永幸治(伊万里市役所)

第24回応用測量論文募集

平成25年度の応用測量論文は、平成24年10月頃から募集を開始し、応募締切は平成25年1月31日の予定である。

応用測量論文集の論文募集の最新情報は、<http://www.jsurvey.jp/ouyou.htm> をご覧いただきたい。

(社団法人日本測量協会 広瀬 静雄)



論文奨励賞受賞者

地域における地理空間情報活用の広がりと展開 (公共測量の普及啓発セミナー)

●主催 国土交通省国土地理院

1. はじめに

公共測量で得られた地理空間情報は、本来の行政目的のみならず様々な場面で有効に活用される、大変貴重な情報インフラでもあります。当セミナーでは、《地域における地理空間情報活用の広がり」と展開》と題して、都市・地域研究からみた地理空間情報の活用やその可能性、地方公共団体での地理空間情報の有効活用に焦点を当て、それぞれ第一線で御活躍の研究者・行政担当者からの講演を企画しました。併せて、国土地理院の取り組みとして、GNSS測量などの新しい測量技術に対応した公共測量の作業規程の準則改正や、モバイルマッピングに関するマニュアル整備など、ポイントとなる改正内容と今後の展開について紹介するとともに、公共測量手続きや申請書をネット上で簡単に作成できるシステムについて、Webページ上での実演を交えて紹介しました。

2. 講演1 「地理空間情報をもたらすイノベーション」

(横浜国立大学 都市イノベーション研究院

工学博士 佐土原聡教授)

地球環境問題への対処や自然災害対策など都市・地域運営に対する課題が山積する中、少子高齢化の進む日本では社会資本に投資できる原資が減少しており、限られたリソースを如何に活用するかが喫緊の課題になっています。地理空間情報の活用が、様々な課題を効果的に解決するためのカギとなることについて御講演を頂きました。

3. 講演2 「地方公共団体における地理空間情報の整備・更新」

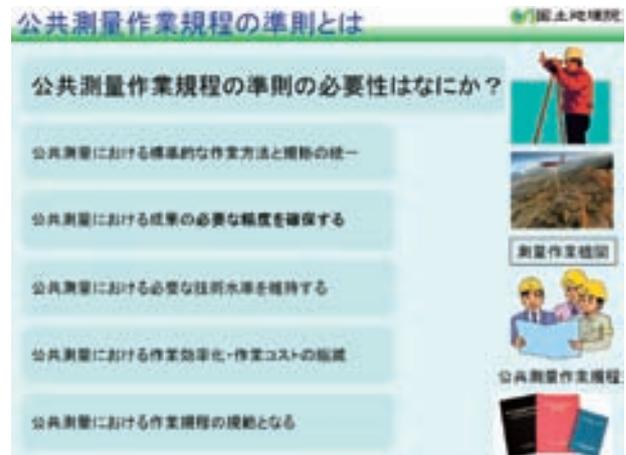
(東京都北区役所 交通担当課 和田陽一課長付主査)

公共測量として得られた測量成果を庁内で蓄積共用する際のポイント、道路建設を例にして施工者と管理者を“つなぐ”情報インフラとしての製品仕様書の作成手法、ユビキタス社会における地理空間情報の活用について御講演頂きました。

4. 公共測量の作業規程の準則

公共測量の作業規程の準則は、測量法第34条に基づき国土交通大臣が定めるもので、標準的な作業方法、規格の統一、品質の確保等を目的に策定されており、いわば各測量計画機関の公共測量作業規程の規範となっているものです。

本セミナーでは、作業規程の準則について、「準則の必要性」、「準則の変遷」、「準則の役割」等について説明を行いました。また、作業規程の準則は、平成20年3月に全部改正、平成23年3月に一部改正を行っていますが、これらについて改正を行った内容について紹介を行いました。紹介した内容は、平成20年3月の全部改正については、「改正の背景」、「改正のポイント」、「改正後の国土地理院の取組」



等、事例を含めて紹介しました。また、平成23年3月の一部改正については、「改正の背景」、「改正の概要」、「改正の内容」等について事例を含めて紹介しました。さらに作業規程の準則は、今年度も一部改正を予定していますが、現在検討している課題や問題点、今年度改正を予定している内容等について紹介しました。

5. 公共測量及び公共測量申請書作成サイト

地理空間情報活用推進基本法では、国民が安心して豊かな生活を営む事ができる経済社会を実現する上で、地理空間情報を高度に活用することが極めて重要としています。そこで、地理空間情報の活用を推進する上では、精度の確保された公共測量成果による整備が不可欠のものとなってきています。

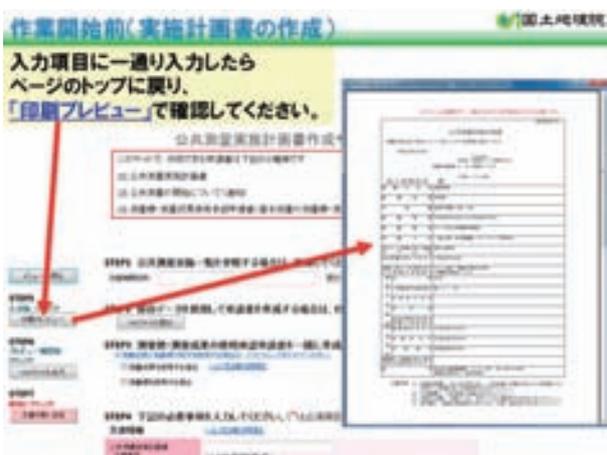
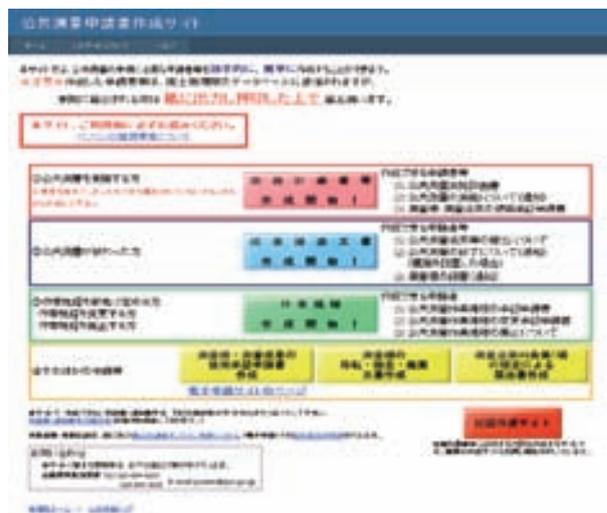
本セミナーでは、測量法と公共測量、効率的な地理空間情報の整備・品質の確保及び最近の話題について紹介するとともに、公共測量の実施にあたり、必要な申請書・通知書等を作成することができる「公共測量申請書作成サイト」の紹介をしました。このサイトは、公共測量の実施計画書の提出に際し、申請者の負担を軽減でき、公共測量業務を支援するシステムです。今回は、いくつかの申請書の作成を事例にWebページ上での実演を交えて紹介しました。

なお、申請された公共測量実施計画やその成果情報については、公共測量データベースに登録され、国土地理院のホームページで閲覧することができ、他の測量との重複実施排除等に利用されています。

6. おわりに

セミナーの来場者からは、「限られた予算・技術力の中で、どのように地理空間情報を活用するかという点で参考になった。」等の感想や御意見を聞くことができました。

国土地理院では、公共測量が、品質、期間、経費、



公共測量申請書作成サイト

作業量等の観点から適切に実施され、その成果が地理空間情報として活用促進されるよう、一層の理解を深めるための普及・啓発を引き続き行っていきますので、関係機関の皆様にはご協力をお願いします。

国土交通省国土地理院
 企画部 技術管理課
 〃 測量指導課
 関東地方測量部

アンビエント社会基盤

—実空間データが新産業を創り出す—

●主催 マルチメディア推進フォーラム

(講師)

東京大学 先端科学技術研究センター
教授 森川博之
東京大学 大学院情報学環・学際情報学府
教授 田中秀幸
㈱日立製作所 研究開発本部 技術戦略室
担当部長 新谷洋一
新日鉄ソリューションズ㈱ システム研究開発センター
上席研究員 桜井新

(シンポジウムの概要)

都市、交通、農業、医療、介護、バリアフリー、環境、教育、労働などのそれぞれの産業に情報通信技術が適用されてこそ、産業構造、経済構造、社会構造の大きな変革につながります。これに向けては、GISからのデータを含む「実世界データ」が鍵を握ることになります。膨大なデータを集めるとともに、データの利用方法をいろいろな分野の方々と一緒に考える「場」を作ることも必要です。異分野・異業種の方々と一緒に将来の社会像に想いを巡らせながら、産業、経済、社会が変わるプロセスの一翼を担わなければなりません。広範なグローバル化と急激な技術革新がもたらす、歴史的パラダイムシフトに直面しています。このような歴史的転換期においてこそ、アンビエント社会基盤（知恵基盤）の確立を産学官で共創して追求することが求められています。

「アンビエント情報社会」、あるいは「アンビエント社会」とは、将来の情報社会像を表す概念です。「ユビキタス情報社会のさらに進化した段階」という意味で使われます。

“アンビエント”とは、周囲を取巻く、環境などを意味する英単語「ambient」から来ています。その名前が示すとおり、人間の周囲、環境のあらゆる場所にコンピュータやIT機器が存在し、意識せずにそれらの機器を使える社会を「アンビエント社会」と呼びます。

本シンポジウムでは、ビッグデータからみたアンビエント社会基盤、アンビエント社会のビジョン、都市デザインのあり方、実世界ログが切り拓く世界

について講演を行い、アンビエント社会基盤のあり方について議論を行いました。

(基調講演)

「アンビエント社会基盤とビッグデータ」と題する基調講演で森川博之氏（東京大学 先端科学技術研究センター 教授）は、本年4月に東京大学で活動を終えた「アンビエント社会基盤研究会」の活動概要を紹介し、人口爆発、食糧枯渇、資源枯渇、大規模自然災害、環境など地球規模で解決しなければならない課題が顕在化してきているとともに、国内では人口減少や少子高齢化の進展といった事態を直視した上で、持続的な成長が可能な新たな国づくりが求められていることを指摘しました。

ドラッカーの蒸気機関車が鉄道を促し結果として郵便、新聞、銀行の登場を促した旨の言葉を取り上げ、ICT技術を蒸気機関車に代えた発展を考える必要があるとの見解を述べ、議論を引き継ぎました。

(アンビエント社会のあり方)

「アンビエント社会のビジョン」と題する講演で田中秀幸氏（東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授）は、日本がアンビエント社会基盤を通じて新たな社会を実現し、それを通じて世界をリードし、地球規模の課題解決に貢献することを中長期（20-30年）の時間軸で考えていく必要があることを指摘しました。

アンビエント発展先進国を目指す為には、「成長」と「発展」の2つの軸でアンビエント社会基盤を構築すること及びイノベーションが重要であるとし、さらに世界的な視野で、地球規模の共有価値創造（CSV）を目指すべきとの見解を述べました。

(都市におけるアンビエント社会に求められること)

「都市環境とアンビエント社会基盤」と題する講演で、新谷洋一氏（株式会社日立製作所 研究開発本部 技術戦略室 担当部長）は、都市が抱える様々な課題を人間中心の目線で分析を行うことが重要であり、特に①さりげなく（システム側が自律的にサー

ビス提供し、利用者負担を最小化する。)②隔てなく(プロフィールを基に利用者インターフェースを個人毎に最適化し、高齢者や外国人等でも誰でも隔てなくサービスを受けられる。)③途切れなく(個人データや個人毎のICTプラットフォームをクラウド上の安全な場所に置き、情報を喪失する危険性を最小化する。)という3点が、人間中心の社会基盤技術への要求と開発の方向性に対して重要であると述べました。

鳥取県智頭町「Chizu Town」や千葉県西千葉地区「あみっぴい」他の事例紹介を行いながら、アンビエント社会基盤の構築には都市に関わる全ての人々がそれぞれの価値を活かせる仕組みが重要であることを指摘しました。

(実世界のログの活用)

「実世界ログ：総記録技術が社会を変える」と題する講演で、桜井新氏(新日鉄ソリューションズ株式会社 システム研究開発センター 上席研究員)

は、ライフログの試みは、いわばICTによるミーム(1976年に動物行動学者のリチャード・ドーキンスが著書「セルフイッシュジェン」の中で使った言葉で、脳から脳へ伝わる文化の単位)形成の試みであるとの哲学的見解を述べました。さらにミームは会話や人々の振る舞い、文字、儀式等によって人の心から心へと伝達されていくものであり、その意味ではライフログはミーム伝達の強力な装置になる筈であるとの見解を述べました。

IT業界ではシステム中心からコンテンツ中心のパラダイムシフトが起こり、技術の選択から実現対象の選択へ時代が変化し、さらに実証の在り方もベータ版の早期導入を行うオープンスパイラルモデルへと変化している現状を見据えて、アンビエント社会の実現に向け努力することで、社会が活性化し、新しい経済分野の創出に繋がることを指摘しました。

(マルチメディア推進フォーラム事務局
株式会社ハイテクノロジー推進研究所 西田隆史)

オープンガバメントの先にあるビジネスチャンス ～行政情報から始まるイノベーション～

●主催 社会基盤情報流通推進協議会

1 はじめに

「社会基盤情報流通推進協議会（以下、当協議会という）」では、平成23年9月より、社会インフラに関わる情報の収集・配信・利活用等の流通環境の整備を行うことを目的に、産官学の関係機関が連携して活動を進めております。

今回のシンポジウムにより、協議会の活動をより多くの人に知っていただくことや、社会インフラに関わる情報を流通・活用するための方策等について議論を深めることを目的に開催しました。

2 シンポジウムの概要

2-1 基調講演1

当協議会の事務局長である東京大学 空間情報科学研究センター 関本義秀特任准教授より以下のテーマで講演を行いました。

基調講演テーマ：「社会基盤情報流通における現状と課題～AIGIDの活動を通じて」

当協議会の意義や活動内容、社会インフラの流通推進に向けて解決すべき技術的な課題（データやシステムのあり方等）・制度的な課題（行政機関の関与のあり方等）等について説明を行いました。

2-2 基調講演2

東北大学防災科学研究拠点 柴山明寛准教授より以下のテーマで基調講演いただきました。

基調講演テーマ：東北大学によるアーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」と社会基盤情報

講演では、東日本大震災等の災害記録として、学術的な観点からあらゆる「記憶」、「記録」、「事例」、「知見」を収集し、アーカイブする「みちのく震録伝」について紹介いただきました。

3 パネルディスカッション

「オープンガバメントの先にあるビジネスチャンス～行政情報から始まるイノベーション～」と題し

て、以下のメンバーにてパネルディスカッションを行いました。

〈コーディネータ〉	
・東京大学空間情報科学研究センター	関本義秀 特任准教授
〈パネラー〉	
・東北大学防災科学研究拠点	柴山明寛 准教授
・国土交通省国土政策局国土情報課	神山修 課長
・特定非営利活動法人クリエイティブ・コモンズ・ジャパン	生貝直人 理事
・富士通株式会社新規ビジネス開発本部	島田孝司 本部長代理
・オートデスク株式会社	井上修 テクニカルセールスマネージャ
・国際航業株式会社技術開発部	政木英一 地理空間情報担当部長

パネルディスカッションでは“産学の立場から政府等で決めて欲しいこと”“政府の立場として取り組めること”“産学の立場で取り組んで欲しいこと”“ビジネス対象とすべき範囲（競争領域）と関係者で協力すべき範囲（協調領域）”等について、それぞれの専門分野の観点から意見交換を行いました。

4 さいごに

今回のシンポジウムにより、行政情報のビジネス活用に向けて検討すべき課題や解決の方向性について、議論を深める良い機会となりました。

協議会では、今回のシンポジウムで得た貴重なご意見等を基に、社会インフラに関わる情報の流通に向けて鋭意活動を進めていきたいと思っております。



写真 パネルディスカッションの様子

防災地理空間情報活用シンポジウム

—地理空間情報を活用して今後の大規模災害に国土地理院・自治体はどう備えるか—

●主催 国土交通省国土地理院

1. はじめに

国土地理院では、6月21日に地方公共団体等の防災行政担当者を主な対象に、東日本大震災からの復興や今後の災害に備えた地理空間情報の効果的な活用について、シンポジウムを開催しました。有識者や震災に直面した地方公共団体の担当者、防災・減災に地理空間情報を有効に活用している地方公共団体の現場担当者を招き、地理空間情報の活用事例を交えた今後の防災・減災に役立つ現場の情報について講演及びパネルディスカッションを行いました。当日の参加者は203名でした。

2. 講演の概要

主催者側として国土地理院参事官小出正則が開会挨拶を行い、その後、以下の講演が行われました。

(1) 災害対応及び防災活動に寄与する国土地理院の地理空間情報

(国土地理院基本図情報部国土基盤情報調整官
長谷川裕之)

国土地理院は、測地学的な電子基準点・三角点・水準点等の情報、地図の基礎となる基盤地図情報・電子国土基本図・空中写真等の情報、刊行している2万5千分1地形図や20万分1地勢図等の地図情報、防災対策の基礎情報としての主題図情報等の地理空間情報を提供している。地理空間情報を組み合わせたり重ね合わせることで、地形の把握、建物密集地の把握、浸水予測の資料、液状化の把握等ができる。

(2) 【活用事例紹介】東日本大震災における地理空間情報の復興計画の活用紹介

(宮城県東松島市復興政策部復興都市計画課技術副参事 五野井盛夫氏)

被害の状況は、平成20年と被災翌日の平成23年3月12日に撮影した空中写真を見比べて、罹災状態をポイントで地図に落とし把握した。復興まちづくり計画には、GISを活用して住宅移転計画の資料を作成している。また、これらの意志決定をするには、

GISによる津波の再現が必要となる。他市町村との連携、各分野別工事等のデータ管理、整理、統合が問題となっている。地理空間情報のデータを集めることが必要だが、GISの有効活用にはまだ課題がある。

(3) 【活用事例紹介】新潟県十日町市における統合型GISの活用事例

(新潟県十日町市総務部総務課副参事 佐野誠市氏)

平成23年から2度の激甚災害、2度の災害救助法が適用され、いまま復興の途中である。平成19年の合併を機に4カ年で統合型GISを構築し、個人情報扱う基幹系GIS、個人情報と連携しない内部情報系GIS、個別情報を扱う個別系GISを作成した。災害対策本部では、共通の地図の上に災害位置と現場の写真がほしいとの要望がある。職員の知恵出し事業としてスマートフォン活用事業を自治体初の試みとして実施している。

(4) 【活用事例紹介】新たな津波予測図について

(神奈川県国土整備局河川下水道部流域海岸企画課河川なぎさグループ技幹 林若巴氏)

東日本大震災により沿岸市町から見直し要望が知事に出されたことを受け、専門家の意見を基に歴史上の12地震津波を検討して新たな津波予測図を作成し、平成24年3月30日に公開した。市民からは、見方がわからない、津波の深さはどの位なのか等の反響があり、関心の深さが伺えた。5月1日から「e-かなマップ」でも公開を開始した。避難は最大津波時ではなくて、地震発生後すぐに避難することが重要である。

(5) 【特別講演】過去4000年間に記憶された巨大津波履歴

(高知大学総合研究センター特任教授 岡村眞氏)

我々が扱っている情報は一般市民の心に届かなければ、情報として役立たない事を理解すべきだ。ハザードマップは一般の人にとっては自宅が安全か、安全でないかしか興味がないため、想定を超えた災

害時に逃げない人がいる。短い期間ではあるが東日本大震災被災調査に3回ほど出向いた。

宮城県名取市では、3m～4mの津波で耐震木造家屋の1階が全部流出したが、柱は残っていた。耐震家屋以外の古い家はばらばらであった。

地震で倒れた家屋は千葉県、茨城県、岩手県南部位までは一軒も見えていない。

高知で過去に消えた町が古文書に「亡所津波山まで」と記載されている。この7文字が理解できなかったが津波の被災地を見て、津波は平野で止まらない、山で止まると伝えているのだと感じた。これまで、30数カ所の池でボーリング調査をし、1つの池で200点位おこなった。高知県須崎市の糺ヶ池（ただすがいけ）では、約3,500年の間に14回、海砂が運ばれていた記録がある。

九州大分の龍神池では、1707年の宝永の津波で10.4mという文献がある。名も無い小さな池が、数千年間の津波を記憶してきた。これは過去に起きたことは、必ずこれから起こることを池が教えている。これから起こりうる大地震に対し、まちづくりをどうすればよいかということを考えていくべきである。

3. パネルディスカッションの概要

岡村教授をコーディネーターとして、地理空間情報は実際の災害対応で活用できたか、どのような課題が明らかになったか、今後の災害に備えるためにどのように活用できるのかについて、パネリストに討論していただきました。

・東松島市 五野井氏

津波シミュレーションマップを全戸配布したがそれでも逃げなかった。国からは高台移転を工夫しろといわれているが難しい。手続きが山のようにある。

・十日町市 佐野氏

キーワードは「共有」である。いざという時に

データや位置が共有できないと、その後の復興はうまく進まない。GISで場所が明確にわかり、何が起きているか共有できることが重要だ。GISは普段から使っていないと災害時には使えない。

・神奈川県 林氏

沿岸の市町が避難態勢の整備を行う。県は必要なデータを提供する。避難ビル指定、避難タワー整備を進める。市町と連携を取りながら対策を行う。

・国土地理院 長谷川

各段階で必要なデータが違ってくる。最初は使えるリソースがないことを想定し、ノートパソコンとバッテリーで動くプリンタを用意しておくことが必要。国土地理院ではこれからも地方公共団体等に必要な地理空間情報を提供していく。

・岡村教授

自分の住む所がどういう土地で、どういう成り立ちをしているのか、どのような災害があるのかということを説明することが大事だ。丁寧に説明すれば小学校1年生でも理解するし、難しいということはない。「国土地理院が情報を出していますよ」というだけではなく、我々はトランスレーターだと思っていて、これをどう見れば良いのかを直接訴えることが必要だ。

等々、活発な意見交換や情報提供が行われ、会場は聴講者で立見が出る盛況ぶりでした。聴講者からは、「実際の現場のリアルな話を聞くことができ良かった。」等の感想が寄せられ、大変有意義なシンポジウムを行うことができました。最後に、開催に当たり、御協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

(国土地理院企画部 中野 修,
国土地理院企画部 地理空間情報企画室 伊藤広治)



国際シンポジウム

G空間関連ビジネスにおける海外展開の方向

●主催 国土交通省国土政策局

〈概要〉

地理空間情報、いわゆるG空間情報は近年、重要な社会基盤の一つとして注目を集めており、国内外において大きなビジネスチャンスに繋がると期待されている。本シンポジウムは、ビジネス層及び一般の方々へG空間情報の利活用について広く普及啓発を図るとともに、我が国のG空間関連技術を広く海外に展開させていくことを目的とし、海外の有識者による国外でのG空間情報活用に関する取組みと、日本企業による国内のG空間関連技術の先駆的な事例等についての講演を行い、我が国の海外展開の方向性についてパネルディスカッションを行った。

〈背景説明〉

本シンポジウムの開催にあたり、国土交通省国土政策局より、G空間情報をめぐる国の取組み、特に新たな地理空間情報活用推進基本計画（以下「基本計画」という。）*について説明した。今年3月に閣議決定された新しい基本計画では海外展開にも注目していること、平成22年に打ち上げられた準天頂衛星システムは、日本のみならず東南アジア・オーストラリアでも使うことが出来ることなどを挙げ、本シンポジウムでアジアの専門家から現地の情報やニーズについて講演していただくとともに、日本の先駆的な取組みについて紹介していただくことで、G空間関連ビジネスの方向性について議論したい旨、説明した。

〈基調講演〉

アジア開発銀行（ADB）Kim氏による基調講演では、開発途上国でのG空間関連技術導入事例をもとに、現地での本格導入に向けて克服すべき主な課題として、アプリケーションやデータの初期整備や維持管理コストを挙げた。この課題への対処方法として、Kim氏は、日本のG空間関連技術を開発途上国へ導入していく際には各開発途上国の人材能力や財

政状況、ニーズを十分に把握したうえで適合したシステムを導入する必要がある、と主張された。

〈パネルディスカッション〉

東京大学空間情報科学研究センター柴崎教授がコーディネーターとなり、パネルディスカッションが行われた。

初めに東京急行電鉄株式会社東浦氏より、同社のG空間関連取り組みについて紹介された。同社では広範囲における事業基盤の中で、渋谷、二子玉川、横浜市の開発エリアに特に力を入れているという。また同社の事業展開においては、地下空間のWi-Fi環境を含む都市中でのインフラ環境の整備、地元の商店街やパートナー企業と連携し、位置情報を使ったサービスの展開など、IT融合した先進的な取組みを行っていると説明頂いた。

株式会社パスコ笹川氏より、パスコのG空間関連の取り組みと海外展開について紹介された。同社では、企画から管理・維持までのパッケージを海外に輸出し、パスコの技術を現地に定着させてオペレーションする「インフラ輸出パッケージ」というビジネスモデルに注目しているという。その為に、インフラを整備するための基盤、国からの支援、現地化するための投資が必要になってくると主張された。

インドネシア国家防災庁ストポ氏より、アジア地域におけるGIS技術について話を伺った。ストポ氏は、現在アジアで起こっている全ての災害においてGIS技術が必要であると主張された。また、アジアでGIS技術を進める上で情報をいかに迅速にコミュニティに伝えていくか、またシステムをどのようにメンテナンス・改善して持続可能にしていくかが、重要な課題となっていると主張された。

柴崎教授より、日本は新しい技術を使った試みを多く行っているが、技術や試みを「パッケージ化」し、今後の海外展開においては、ローカライゼーション、今後の事業展開においては、上流工程を丁寧に

* 地理空間情報活用推進基本計画—平成19年に施行された地理空間情報活用推進基本法（平成19年法律第63号）に基づき、地理空間情報の活用の推進に関する施策の総合的かつ計画的に推進を図ることを目的に策定された基本計画。

行っていく事が非常に重要であるとして、一つの方 向性が示され、シンポジウムが閉会となった。

Infrastructure development in real-world

駅や大規模商業施設における各種インフラ整備

(Infrastructure development at stations and large-scale commercial facilities)

①通信環境整備(Development of communication environment)

- ★スマホ・タブレットの急速な普及で、街中ネット需要が急増
⇒拠点商業施設や駅施設におけるWiFi環境の整備を推進
田園都市線渋谷～二子玉川間等、地下路線の通信環境整備



②デジタルサイネージの整備(Development of digital signage)

- ★ネットに集まるリアルタイム情報を街中にも掲示
⇒拠点施設を中心に、街中にネットワーク型のサイネージを整備

次世代インフラ研究

(Research of Next-generation Infrastructure)

①屋内測位インフラ研究

- (Research of indoor positioning infrastructure)
★人の生活の7割はGPSが届かない屋内で過ごされる
⇒IMES (Indoor Messaging System)・NFCなど、新しいインフラの実証実験



②関連情報の研究(地図等) (Relational research)

- ★ネット上で表わされるコンテンツや地図表現が重要
⇒屋内パノラママップやAR含めた実証プロジェクトを展開



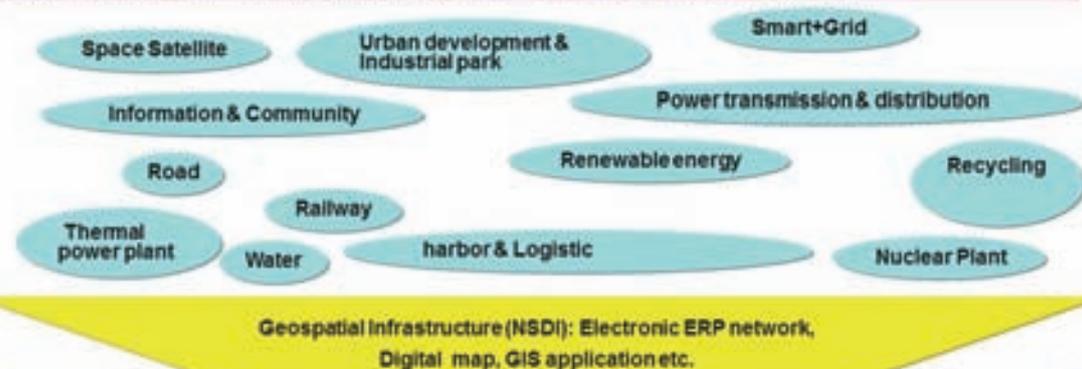
© 2012 TOKYU CORPORATION All Rights Reserved.

World's Leading Geospatial Group

Export Package of Infrastructure

- Interests of total project :Master Plan, Design, Supply, Construction, Finance, Management & Operation.
- New Business model to hold wide market with total project, through technology introduction and operation.

Private sector: Scheme making, Overseas investment, Technology competitive strength



© PASCO CORPORATION 2012

知っ得！測量時事情報セミナー

●主催 (一社) 全国測量設計業協会連合会

— 講師 —

(社) 茨城県測量設計業協会
 (社) 新潟県測量設計業協会
 (社) 長野県測量設計業協会

司代 洋和
 葭原 英明
 柳沢 洋一

～はじめに～

「知っ得！測量時事情報セミナー」は、毎回その年の話題を皆様に提供すべく開催してきたところです。

すでに東北地方太平洋沖大地震から1年3ヵ月以上が過ぎ、行政を中心に復旧・復興のための多くの事業が進められているところです。今後、復興事業に関連してあらゆる測量関連業務が多く発注されるものと推測しております。

今後、想定される東海・東南海等の地震に備えるためにも、過去のあらゆる災害を再認識する必要があります。いつ、どこで、どのような災害が起こるのかだれも解りません。

今回、ご紹介する講演は、過去に起こった災害がどのような災害であったか、また、われわれ測量業界がどのような対応をしたのかをご紹介いたしました。

～概要～

一つ目の講演といたしまして

茨城県測量設計業協会の司代様より、「東北太平洋沖地震による液状化被災」について、液状化のメカニズム・液状化の被災状況・液状化への対応等の

茨城県内における液状化被災状況

1) 潮来市



市民公民館の敷地内マンホール



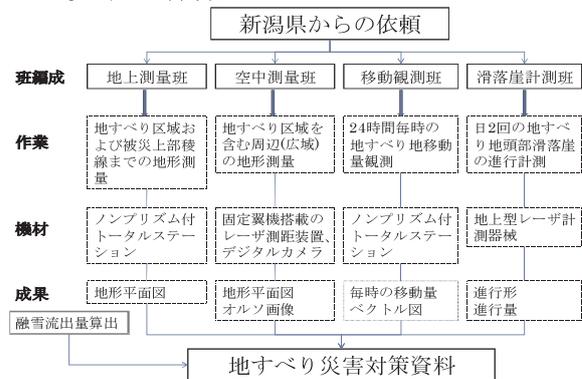
地下水が吹き出し家屋もブロック塀も傾いた。

ご講演いただきました。液状化現象に伴い境界点の移動・転倒が広範囲に起こり、道路境界並びに各筆の境界の確認が必要になったことの発表がありました。

二つ目の講演といたしまして

新潟県測量設計業協会の葭原様より、平成24年3月7日に発生しました「新潟県上越市板倉区国川地すべり災害」についての災害応援活動報告を含め講演いただきました。本災害では、地形測量・移動観測・滑落崖進行計測・融雪流出量計算等のデータ提供ができたことに関する発表がありました。

現場の作業フロー



三つ目の講演といたしまして

長野県測量設計業協会の柳沢様より、東北太平洋沖地震の翌日に長野県北部にて震度6強の大きな地震が発生した「長野県北部地震について」の被害状況及び復旧状況等ご講演をいただきました。特に、橋梁災害及び道路災害についての対応や査定状況についての発表がありました。



村道 青倉 12 号線 栄村 中条橋

(長野県建設部資料より)

～終わりに～

災害時における対応には、時間的な制約と複数の作業項目がある中、技術とマンパワーにより必要な成果を挙げなければなりません。作業現場は、被害の拡大や応急工事などと常に同時作業で危険を伴う場面もありますが、復旧・復興作業であることを自覚し作業に取り組むことが大切です。

今後も発生するであろう災害に対し、復旧、復興事業においては、我々業界の存在価値を社会に再認識していただく機会であると考えていますので、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本シンポジウム講演要旨は、<http://www.zensokuren.or.jp>でご覧いただけます。

情報流通のためのデジタル道路地図, 今とこれから

●主催 一般財団法人 日本デジタル道路地図協会



写真 シンポジウムの様子

〈A-プレゼンテーション〉(敬称略, 機関名略称)

- A1. 東大・山田晴利特任教授 (座長) : これからのITSのための情報基盤
- A2. 国交省ITS推進室・奥村康博室長 : わが国のITS施策について
- A3. NPO青森ITSクラブ・葛西章史事務局長 : 官民協働によるITSの取り組み
- A4. インターネットITS協議会・時津直樹事務局長 : ITSにおける自動車IT化の方向
- A5. ITS Japan道路情報基盤活用委員会・浜田隆彦委員長 : 道路情報基盤による道路情報流通の姿
- A6. 国交省国総研高度情報化研究センター・上田敏センター長 : 道路の区間ID方式—何が変わるのか? どう役立つのか?

各プレゼンテーションの概要は以下のとおり。

- A1. これまでのITSの展開—カーナビ・ETC・地図基盤動向を概観。東日本大震災におけるプローブ情報を利用した通れる道マップが注目を集めた。他方で、VICSリンクない道路ではカーナビで情報を呈示できないという位置参照の課題が明らかになった。

様々な位置参照方式—各方式を体系的に整理。

- A2. 深化し続けるITS—VICS・ETCの実用化, さらにITSスポット。広域のデータに基づくDRG¹, 写真を利用したより分かりやすい注意喚起, プローブ情報の収集が可能。

今後のITSへ高まる期待—物流支援サービスの実証実験, 公共駐車場・ドライブスルーでのキャッシュレス決済実験中。道路状況の提供を受けたACC²車両との連携によるサグ部渋滞対策, オートパイロット実現のロードマップ, 車線逸脱防止注意喚起などへの期待。

- A3. 除排雪車運行管理システム—冬期間の除排雪の遅れによる交通渋滞が慢性化。官民連携のシステムにより除排雪状況が分かり, 多くのメリットを生んだ。

観光や防災へITSの応用—観光コンシェルジュ事業の実現。フェイス・トゥ・フェイスによる安心と笑顔, 雇用への貢献。防災ITSでは防災情報の一元化とPC・スマホ等へ情報提供。プラットフォーム地図, 統一フォーマット等が課題。

- A4. 全自動車のネットワーク化の意義—ITS技術進化は, いつでも情報にアクセスできる世界を創る, その先に巨大情報マーケットの創出の期待。EVの普及により自動車の端末化は加速と予測。

4つの新しいプロジェクト—プローブ情報利

1 ダイナミック・ルート・ガイダンス

2 Adaptive Cruise Control;走行時に車速や車間制御を行う機能

活用事業、次世代SSシステム、スマートフォンITS、自動車クラウド事業。

A5. 様々な位置情報の表現が利用されてきているが、地図は縮尺・精度によってずれが生ずる、この作業に時間が必要で動的情報では情報の遅れが発生。これらを解消。様々なデータを区間IDで結び付けることで道路に関連する様々な情報を一つのプラットフォーム上で扱うことが可能。

A6. 区間IDで何が変わるのか—区間IDの番号は不変のためネットワーク変化に左右されない、シンプルな概念でデータレコードが少なく、情報の流通が容易。

区間IDはどう役立つのか—交通センサスの観測データの整備、常時観測データの収集・蓄積、施策立案・交通情報発信、プローブデータの流通・重ね合わせに活用。マルチモーダルナビ、様々なコンテンツと連携したサービスも可能。

〈B-パネルディスカッション〉

- B1. 情報基盤としての地図と区間ID
- B2. 区間IDの可能性

議論の要約を記す。

B1. 統一的なプラットフォーム地図の整備はどうかとの問いに対し、官は事業目的に基づき地図を整備、その活用は民、官を繋ぐような地図を官民で役割分担し作ることが提案された。その地図上に色々な情報を載せていければいい。

情報を地図から切り離し、区間IDのようなツール上で情報交換する。今まで使ってきたものを変えるのではなく、変換して情報交換する。

B2. 例えば地図ではなく映像が送られてきてナビゲーションを行うような取組みもある。そうした中で区間IDのようなシンプル化した交換の仕組みは役に立つと思う。

区間ID整備済み道路延長20万kmは道路全体120万kmから見ると少ないが、できることはたくさんある。先ずツールを使ってみよう。

むすび

区間IDを介した様々な情報の連携・流通が、今後のITSのカギの一つになることが本シンポジウムで示されたように思います。ご協力ありがとうございました。

((一財)日本デジタル道路地図協会
特別研究員 池村 雅司)

Geo アクティビティフェスタ

●主催 国土交通省国土地理院

1. はじめに

「Geoアクティビティフェスタ」とは、世の中にある様々な地理空間情報の活用に関する独創的なアイデア、ユニークな活用事例、研究成果等について、展示やプレゼンテーションを行う場を設け、関係者間の交流による地理空間情報の利活用の促進及び拡大を目指すイベントです。

国土地理院では、使いやすい地理空間情報の活用推進のため、日頃よりユーザー目線でのサービスの提供に努めており、今回、国土地理院として初めて「ユーザー参加型」のイベントを企画いたしました。本イベントは、世の中における地理空間情報の裾野

を広げたいとの思いから、優れたアイデアや斬新な考えを持ちながらも、その披露の機会が少ないと思われる、学生、NPO、ベンチャー企業、地方の中小企業にスポットをあて、地理空間情報を活用したシステム、サービス、技術、地図成果、研究成果、活用事例などについて課題を募集しました。

昨年12月から約3ヵ月間募集したところ、予想をはるかに超える応募をいただき、急遽イベントの規模を拡大することとなりました。書類審査等を行った結果、21の応募課題が選考され、北は北海道から、南は沖縄まで、21プレゼンターが決定いたしました。

2. 発表課題名とプレゼンター名

	発表課題名	プレゼンター名 (敬称略)
1	GIS自治体クラウドサービス～より安全に、より安価に、より高度に～	北川 正己 ((株) バスコ 営業推進部)
2	地域活性化情報サイト うつのみやマップ	第一測工(株) (代表:小堀 俊明・野田 剛太郎)
3	官民連携による道路占用協議・埋設物調査・申請システムの構築	GIS官民協議会GIS支援グループ (安井嘉文・一氏昭吉)
4	iPadで現地調査・施設管理!使い慣れた地図が使えます。「カンタンマップ for iPad」	あっとクリエイション(株) (代表:黒木 紀男)
5	基盤地図情報WMS配信サービス	寺元 郁博 (農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター 営農・環境研究領域)
6	FOSS4Gツールを使って基盤地図情報をスタイリング!	(株) オークニー
7	沖縄の防災における地理空間情報の活用例	渡邊 康志 (GIS沖縄研究室)
8	無線を活用したモバイル防災GISの開発	金子 正美 (酪農学園大学 環境共生学類)
9	産学官連携による AED設置情報提供システム「あいらAEDマップ」の活動について	NPO法人かごしまGIS・GPS技術研究所 (市園 成一郎)
10	トリアージ情報共有を目的としたWebGIS情報配信システム	新潟大学工学部情報工学科 (代表:牧野 秀夫)
11	地理空間情報ボランティアを支える枠組みの提案	河口 信夫 (NPO法人 LISRA 設立準備委員会/名古屋大学)
12	地方公共団体向け家畜伝染病対策システム「防疫マップ」	(株) 日建コンサルタント (代表:吉田 靖)
13	GISで創る空間情報社会の実践事例	後藤 真太郎 (立正大学 地球環境科学部 環境システム学科)
14	電子国土Webシステムを活用した道路台帳管理システム	国際技術コンサルタント(株) (代表:山下 伸行)
15	「基盤地図」+「Web-GIS」×「測量及びコンサルタント向けデータバックアップ」=「Map Labクラウド」	NPO法人 地域マップ研究所
16	手持ちのEXCELデータを簡単にGoogleMAPとリンク。地図管理への第一歩～営業リスト見える化ツール～	(株) デバイスワークス (代表:加賀屋 太郎)
17	時空を越えた地図共有サービスの提案	大塚 恒平
18	みんなの地図	(株) ネオ・ジーアイエス (代表:西村 正直)
19	3次元都市空間データの構築と活用について	NPO法人浜松ソフト産業協会 (HSIA)
20	GISを用いた明治地籍図の景観復原	稲松 朋子 (國學院大学 歴史地理学教室 研究生)
21	眼魅3Dで体験するG空間	広島工業大学 環境学部 地球環境学科 菅 雄三研究室 (代表:菅 雄三)

3. イベントの概要

Geoアクティビティフェスタでは、地理空間情報を活用した様々なアイデアや製品等を紹介する展示と発表会を行いました。

(1) 展示

6/21～6/23のEXPO開催期間を通してアネックスホールのフォワイエに展示ブースを設けました。展示ブースでは、工夫を凝らした展示や人目を引くデモンストレーション、研究やシステム等の詳細な説明などで来場者を楽しませていました。また、来場者だけでなく、プレゼンター同士の交流も盛んに行われ、活気のある展示が行われました。6/22(金)の正午には全プレゼンターが一同に展示ブースに集結するコアタイムを設け、展示会場であるフォワイエではたくさんの来場者が訪れ、大変な盛り上がりを見せていました。

(2) 発表会

発表会は6/22(金)に開催され、冒頭に国土地理院の稲葉企画部長より、イベントの趣旨等について挨拶がありました。プレゼンターの発表内容や展示について優秀な課題には賞をおくことを想定し、千葉工業大学の小泉先生に審査委員長を、また

地理空間情報に関する各分野で活躍されている方々や一般公募で選出された方々で構成される審査委員会において審査していただきました。各プレゼンター10分の大変短い発表時間ではありましたが、地理空間情報の活用に関する研究やシステム、製品等や国土地理院に対する要望や提言等も織り交ぜながら要点を簡潔にまとめた発表は、審査委員や聴講者の心を魅了していました。来場者からの投票の結果も踏まえ、審査委員会での審議の結果、最優秀賞1名、優秀賞5名が選ばれました。最優秀賞には、河口信夫先生(NPO法人 LISRA設立準備委員会/名古屋大学)が発表した「地理空間情報ボランティアを支える枠組みの提案」が選ばれました。

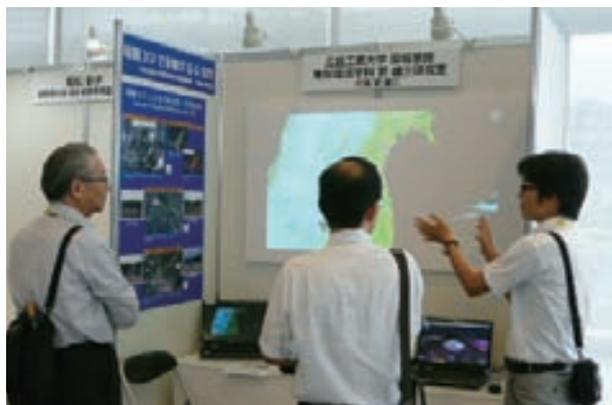
4. おわりに

Geoアクティビティフェスタはユーザーを意識したイベントをめざし、プレゼンター募集時より、国土地理院では初めての情報発信としてTwitterを活用し、広報活動にも力をいれて取り組んで参りました。発表会においても、Twitterを活用しリアルタイムで情報発信を行いました。

プレゼンターやご来場・ご参加いただいた方々を



コアタイムの様子



プレゼンターと来場者の交流



発表会



審査の様子

はじめとして、多くの方々にGeoアクティビティフェスタに関心を寄せて頂いたことを心よりお礼申し上げます。本イベントで得た貴重な情報やご意見を基に、今後も地理空間情報の活用のために努めていきたいと考えております。

「Geoアクティビティフェスタ」の概要や優秀賞などの公表、配布資料のダウンロードについてはhttp://www.gsi.go.jp/g-event/geo_fesにて公開しております。



プレゼンターとの集合写真

【番外編】 ～電子国土賞表彰式及び作品紹介（22日）～

6/22(金)電子国土賞の表彰式を、展示会場Dホールコミュニティゾーンで行いました。表彰式には、モバイル部門、PC部門、コンテンツ部門の電子国土賞受賞者と電子国土功績賞の受賞者並びに電子国土賞ロゴマークの最優秀賞受賞者の14名が参加し、岡本国土地理院長より、賞状と盾が授与されました。表彰式会場には各賞の受賞者の関係者等が集まり、

盛り上がりを見せました。なお、表彰式後、Geoアクティビティフェスタの会場にて、電子国土賞を受賞したソフトウェア等の紹介も行われました。

電子国土賞の詳細についてはホームページ(<http://psgsv.gsi.go.jp/koukyou/G-award/index.html>)をご覧ください。



発表会



審査の様子

(国土地理院 企画部

地理空間情報企画室 菅原 友恵)

空間情報による災害調査～東日本大震災以降の新展開

●主催 一般社団法人 日本写真測量学会

シンポジウムの趣旨・内容

多くの空間情報技術者が東日本大震災の緊急・初動調査に尽力された。日本写真測量学会では、昨年の年次学術講演会において、特別セッション「東日本大震災における測量分野の初動調査～空中写真・衛星画像による災害調査と分析～」(5月23日)を開催するとともに、学会誌「写真測量とリモートセンシング」(Vol. 50, No.4, 2011)において、特集記事「東日本大震災への写真測量分野の活動」を組んだ。

本シンポジウムでは、緊急・初動調査等に尽力された関係機関・会社の皆様が、その後、どのような問題意識をもって、災害調査や防災・減災に関する研究開発に取り組んでいるのか、についてご報告いただいた。また、シンポジウムでは、災害論・防災論に造詣の深い村井俊治教授(日本測量協会会長、東京大学名誉教授)をお招きし、「東日本大震災に学ぶ～新たな国土の復興に向けて」と題して特別講演をいただいた。以下は、各ご発表及び特別講演の概要である。なお、セッション1の司会は布施孝志氏(東京大学)、セッション2の司会は須崎純一氏(京都大学)にお願いした。

セッション1：測量・マッピング

①航空レーザ測量データを活用した三次元建物データの試作／飯田誠氏(国土地理院)

国土地理院では、航空レーザ測量によるオリジナルデータ、DEM及び基盤地図情報を活用して三次元建物データを試作した。三次元建物データは、津波浸水シミュレーションなど様々な分野での活用が想定される。発表では、データ作成の考え方と活用想定例について紹介された。

②MMSで求めた津波浸水深と津波被害の地形的特徴との関連／小荒井衛氏(国土地理院)

国土地理院では、津波浸水範囲で撮影したMMSの画像記録から建物等に残された浸水痕跡を読み取り、写真測量的な手法で浸水深を計測した。発表では、その結果と土地利用データ、地形分類、LiDARDEM、写真判読による津波被害状況とオーバレイし、相互の関連性を解析した結果

について紹介された。

③広域災害におけるビッグデータの利活用と展望／池田辰也氏(アジア航測)

発表では、大規模・広域震災に必要な空間情報をビッグデータ(大容量かつ構造化・半構造化・非構造化データの混在するデータ群)として位置づけ、その中での課題、LVSquare等によるアジア航測の対応、今後の展望について紹介された。

④航空レーザ測量を中心とした計測技術への取り組み／中野一也氏(朝日航洋)

東日本大震災においては、広範囲の災害状況を早期に把握するために様々な空間情報技術が活用された。発表では、同社による航空レーザ測量を中心とした計測事例や、それらの活動の中で重要と認識された計測機器等が紹介された。

⑤広域的空間データアーカイブの利用による被災地密着型モニタリング／鎌形哲稔氏(国際航業)

復旧・復興を進めるにおいては、被災地の地形的特性、被災状況、防災、地域住民の意向等を考慮する必要がある。これらを勘案した最適な復旧・復興の実施方針を決める上で、意思決定支援の一助となるような空間情報を関係機関に提供することが重要である。発表では、東日本大震災被災地の復旧・復興における同社の対応と将来展望が示された。

セッション2：衛星リモートセンシング

①高分解能SARによる災害観測事例と感度の向上について—Pi-SAR-L2とPALSAR-2—／島田政信氏(JAXA)

JAXAではPALSAR-2の事前検証を目的としたPi-SAR-L2を開発し、2012年4月より試験飛行を実施している。発表では、東日本大震災の事例を中心として、PALSAR/Pi-SAR-L/Pi-SAR-L2による分解能の向上と得られた画像の比較について紹介された。

②ALOS-3の動向(PRISMからPRISM-2へ)／高橋陪夫氏(JAXA)

ALOS-3は、FY2015打ち上げ予定のALOS光学センサの後継機である。搭載センサ(予定)は、

パンクロマチックセンサであるPRISM-2 (JAXA開発), マルチスペクトルセンサ, ハイパスペクトルセンサ (METI殿開発)である。発表では, ALOS-3の仕様, シミュレーション画像, 動向等について紹介された。

③東日本大震災における衛星画像地図の作成・配布と今後の展開／古田竜一氏 (RESTEC)

震災発生当時, 「だいち」データの主提供業者であったRESTECは, その標準処理データの無償配布, 「だいち」とTHEOS画像の衛星画像地図作成と無償配布活動を企業・大学と連携して実施した。発表では, これらの活動から得られた課題等に基づき, 今後の展開・展望について, 意見が述べられた。

④複数衛星による震災地域の多時期観測とそのデータ利用／李雲慶氏 (日本スペースイメージング)

同社では, 東日本大震災直後から複数の光学およびSAR衛星を利用して, 震災地域における緊急観測を実施し, 関係機関に画像を提供するとともに, その後も多時期に渡って複数衛星による同震災地域の観測を継続的に行っている。発表では, 取得された画像データについて紹介, 解説された。

⑤災害時に衛星データを直接受信できる可搬統合型

小型地上システムの開発／高岸且氏 (パスコ)

ASNARO衛星は2012年12月に打ち上げが予定されている。発表では, その衛星データの国内外での利用拡大を目的として研究が進められている, 高性能な小型地球局の開発と災害等の有事に迅速にデータ収集・解析処理が行える可搬統合型地上局システムについて, その機能, 特長等が紹介された。

特別講演

東日本大震災から1年有余が経つ。未曾有の地震・津波による大災害に加えて, 福島原子力発電所のメルトダウン事故の実態が明らかになるにつれて, 国民はこれまでの「国のありかた」あるいは生活モデルに懐疑的になっている。将来ありうる巨大災害あるいは過酷事故に対して, どう対応したらよいかを根本的に再考することが問われている。特別講演では, 新たな国土の復興に向けて, 東日本大震災から学んだことをどう反映させるかについて, 村井俊治教授の考え方が示された。

(文責：清水英範)

G 空間WAVE2012

gコンテンツワールド+ジオメディアサミット

第一部 gコンテンツワールド

●主催 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 / gコンテンツ流通推進協議会

司会：一般財団法人日本情報経済社会推進協会

鈴木 潤一

《挨拶 10:00-10:15》

経済産業省商務情報政策局情報政策課

情報プロジェクト室 古川 氏

《講演 1 10:20-11:10》

■ソフトバンクモバイル株式会社

情報システム・CS統括情報システム本部システム
サービス事業統括部 新規事業準備室長 永瀬 氏

「準天頂衛星初号機「みちびき」とIMESによる屋
外屋内シームレス測位実証実験報告～北海道網走監
獄博物館～」

《講演 2 11:10-12:00》

■株式会社三菱総合研究所

地域経営研究本部副本部長 主席研究員 村上 氏

「オープンデータによるビジネス創出～オープンガ
バメントからオープンデータへ」

《休憩 12:00-13:00》

《講演 3 13:00-13:40》

■大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所 准教授 相原 氏

「街なかでの「想い」の収集と活用～行動ログ解析
の実証をふまえて～」

《講演 4 13:40-14:20》

■株式会社NTT ドコモ

スマートコミュニケーションサービス部 担当部長
太口 氏

「ドコモが取り組む位置情報を活用したサービス」

《講演 5 14:20-15:00》

■東日本旅客鉄道株式会社

JR東日本研究開発センター

フロンティアサービス研究所

課長 情報デザイングループ

中川 氏

「ICTを活用した鉄道空間におけるお客さま向け情
報提供サービスの研究開発」

《パネルディスカッション 15:20-16:50》

テーマ：スマホが加速させる位置情報サービスの展
望とその課題

■モデレータ：D4DR(株) 代表取締役社長

藤元 氏

■パネリスト：(すべての登壇者)

ソフトバンクモバイル(株)

永瀬 氏

(株)三菱総合研究所

村上 氏

国立情報学研究所

相原 氏

(株)NTT ドコモ

太口 氏

東日本旅客鉄道(株)

中川 氏

実施報告

技術の進歩によるユビキタス社会の実現が本格化
しつつある今日、あらゆる場所で位置情報が利用さ
れるようになった。特にユーザーのケータイからス
マートフォンへの「乗り換え」により、位置情報市
場もさらに急成長する分野であることは容易に予想
することができる。2011年の調査ではスマートフォ
ン出荷数は前年比3.6倍、2012年には3000万台を超
えると予想されている。(IDC Japan 3月26日発表)

スマートフォン+位置情報の多様なサービスが見
られるようになり、ビジネスから安心安全の分野、
人ナビなどの移動支援、また、マラソンなどのスポー

ツと位置情報を組み合わせたアプリケーションや友人同士のコミュニケーションやSNSなどでも位置情報サービスが提供されている。

震災時、電話やメールが不通のなか、スマートフォンのアプリケーションで家族の居場所が確認できた、チャット機能で連絡をとることができた、という事例もあり、位置情報の利活用において、エンターテインメント性のみならず、インフラとしての期待も高まっている。

G空間WAVE2012gコンテンツワールドでは、スマートフォンをキーワードに、急速に広がる位置情報の最新技術やサービスの動向についての講演を行った。また、G空間EXPO2010に引き続き、翌23日には第二部としてジオメディアサミットを開催することとなった。ジオメディアサミット殿と2日間にわたり合同でシンポジウムを行うことにより、講演イベントとしての広がりをもって普及啓発することができた。

第一部のgコンテンツワールドでは、5人の登壇者によりそれぞれに講演が行われ、その後、モデレータを迎えた計6名でパネルディスカッションが行われた。

講演が行われる前には、経済産業省商務情報政策局情報政策課情報プロジェクト室古川氏より、挨拶に続き商務情報政策局の取り組みである公共データの開放・利活用の推進について紹介された。

講演1ではソフトバンクモバイル株式会社情報システム・CS統括情報システム本部システムサービス事業統括部新規事業準備室長 永瀬氏により準天頂衛星初号機「みちびき」とIMESによる屋外屋内シームレス測位実証実験報告（北海道網走監獄博物館）について講演が行われた。

準天頂衛星初号機「みちびき」がもたらす正確な屋外位置測位情報とIMESがもたらす正確な屋内位置測位情報の両者を組み合わせた屋内屋外シームレス測位の精度検証と、人々の行動にもたらす変化を検証する実証実験の様相について講演が行われた。

講演2では株式会社三菱総合研究所 地域経営研究本部副本部長（主席研究員）村上氏からオープンデータによるビジネス創出～オープンガバメントからオープンデータへ～について講演された。

海外では、行政保有データの再利用（PSI-reuse）によるビジネス創出の取り組みが本格化しており、わが国においてもオープンデータ戦略の策定が進められている中、データ形式や著作権など、解決すべき課題について説明され、また、行政保有データのオープン化により実現されるサービスや、実現に向

けて取り組むべき事項などについて、内外の事例などを交え紹介された。

昼の休憩後に行われた講演3では、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所 准教授相原氏より、街なかでの「想い」の収集と活用～行動ログ解析の実証をふまえ～について講演が行われた。

「データさえあれば、それらを解析しているんなことが出せる。」とするデータ解析を専門とする研究者や技術者の意見に対し、実際には解析可能な状態にするまでの、データの収集から整形までのプロセスが重要であり、その実例として、渋谷で行われた「pin@clip(ピナクリ)」や二子玉川での「ニコトコ」などでのログ活用の事例を紹介するとともに、一歩進んだデータの解析により、人々の街なかでの感情などをも捉えようとする「状況センシング」への取り組みについて述べられた。

続いて講演4では株式会社NTTドコモスマートコミュニケーションサービス部 担当部長 太口氏によりドコモが取り組む位置情報を活用したサービスについて説明された。

モバイルサービスの付加価値として位置情報を利用した様々な機能・サービスが提供され、一般的な日常生活・行動の支援やビジネスユースでの活用などは、今や無くてはならないものとなっている状況を、実際に提供されているサービスとともに説明された。また、様々なニーズに対し、便利かつ安心安全に利用できる位置情報サービスのポリシーや、今後の方向性についても解説された。

講演5では東日本旅客鉄道株式会社JR東日本研究開発センター フロンティアサービス研究所課長 情報デザイングループ 中川氏より、ICTを活用した鉄道空間におけるお客さま向け情報提供サービスの研究開発について講演が行われた。

JR東日本研究開発センターフロンティアサービス研究所での、最先端の技術とカスタマー視点による駅・車内サービスと、それを支える安心な構造物の実現を目標とした研究開発について紹介された。ICT（情報通信技術）を活用して、わかりやすい情報を位置や状況に応じて提供する研究開発の取組について、ITかかし、山手線トレインネット、東京駅JR×ARなどの事例に基づいて説明された。

最後にスマホが加速させる位置情報サービスの展望とその課題と題して、D4DR株式会社 代表取締役社長 藤元氏をモデレータに迎え、登壇者全員が参加してのパネルディスカッションが行われた。

位置情報市場の現状から、プライバシーやトラブ

ル、法整備の遅れなどの課題についてのディスカッションに続き、ビッグデータとしての位置情報の行動データ解析についての可能性、また、位置情報先

進国としての日本の優位性や、日本発のビジネスモデルなどについてもディスカッションされた。

以上

G 空間WAVE2012

gコンテンツワールド+ジオメディアサミット

第二部 第9回ジオメディアサミット in G空間EXPO

- 主催 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 / gコンテンツ流通推進協議会
- 企画実施者 ジオメディアサミット運営実行委員会

【総合】 司会：関 治之

9：30～9：40開会

【LT】 司会：関 治之

9：40～10：15LT x 7本

1. あなたのジオ開発を加速する！HeartRails

Express / Geo API

発表者：ハートレイルズ

大久保康平 (id: kuboon) 氏

2. 「人」を軸に展開するグルメサービス

発表者：株式会社ゼンリンデータコム

八代 愛 氏

3. Aerial

発表者：Shoichi Otomo 氏

4. 「Web時代のGIS技術勉強会」やっています！

発表者：伊藤昌毅 (@niyalist) 氏

5. 屋内測位技術「IMES」を活用した屋内位置情報ゲーム「ニコタマコレクション！」

発表者：株式会社電波の杜 代表取締役

炭谷大輔 氏

6. 商店街アプリ・地域生活情報アプリの事業展開状況を臨場感たっぷりにお伝えします！

発表者：株式会社らしく 佐藤 純也 氏

7. プライバシーに安心を加えると位置情報はもっと楽しい！ZONEの続きの話…

発表者：笹田忠靖

(@sa2da GEOHEX Inc.) 氏

【休憩】 10：15～10：25

【講演】 司会：関 治之

10：25～10：55

講演1：「インタレストをアクションに変換する。

セカイカメラ進化系“tab”に込められた

メディア再発明のアイデアを初めて語る。」

頓智ドット株式会社 井口尊仁 氏

11：00～11：30

講演2：「位置情報サービス「PinQA」のウラ側」

NTTレゾナント株式会社 澤村正樹 氏

【パネルディスカッション】

11：30～12：30

■テーマ：ジオを支えるこれからの技術

モデレーター：古橋大地

大喜利：

パネラー：

・澤村正樹 氏 (NTTレゾナント株式会社)

・井口尊仁 氏 (頓智ドット株式会社)

・武藤勝彦 氏

(宇宙航空研究開発機構：JAXA)

・高木 悟 氏 (KDDI株式会社)

・大塚恒平 氏 (ここゴコ！)

・河合太郎 氏 (ヤフー株式会社)

実施報告

地理空間情報を利用した、コンシューマー向けインターネットメディアサービスを「ジオメディア」と名づけ、ジオメディアに関わる業界の発展を目的とし、ジオメディア運営者や技術者、その他関連プレイヤー間の情報交換及び交流の場を提供する為の勉強会/交流会、「ジオメディアサミット」の第9回を開催した。

本イベントは年2回のペースで様々な場所で開催され数百名を集めてきたが、今回は2010年9月の第6回と同様にG空間EXPOの会場となるパシフィコ横浜での開催となった。9：00～12：30までの半日のスケジュールだったが、朝早くから多くの来場者

が集まった。今回の勉強会では、2名の講演の他、7名の発表者のライトニングトークによる最新の位置情報技術・サービスの紹介やパネルディスカッションを行い、来場者にも盛況の内容となった。

これまで最後に行っていたライトニングトークを、今回は最初に行い、さらにその後に講演が2件、パネルディスカッションという構成だった。

ライトニングトークは、一般公募で集められ投票により選ばれた7人の登壇者が、それぞれのサービスの紹介や研究中の技術に関して、5分という短い時間ながら発表を行った。

講演は、初めに「インタレストをアクションに変換する。セカイカメラ進化系“tab”に込められたメディア再発明のアイデアを初めて語る。」というテーマで、拡張現実ソフトウェア「セカイカメラ」を開発した事業者が登壇し、サービスローンチを目前にした、「セカイカメラ」の進化系とも言える新サービス「tab」のコンセプトについて紹介された。

また、参加者限定の先行招待コードも発表され、新サービスへの関心を集めていた。

次の講演では、「2010年9月から「gooラボ」にて実証実験をおこなってきた、位置情報に特化したQ&Aサービス「PinQA(ピンカ)BETA」から今年3月に実施された、スポット情報まとめサービス「PinQA(ピンカ)」への大幅なりニューアルに関して、実証実験の結果より「人が持つローカル情報をすいあげて流通されること」をゴールとしてQ&Aサービスから移行したコンセプトやその経緯が紹介された。

パネルディスカッションでは、「ジオを支えるこれからの技術について」というテーマでの登壇者それぞれの研究内容の報告の後、大喜利スタイルで、出されたお題に対して6人のパネル登壇者が各「お題」に回答した。

時間の関係で、回答したまま終了となってしまったものの様々な意見が飛び交った。

関連資料：

<http://atnd.org/event/gms9>

<http://blog.livedoor.jp/mapz/archives/51838426.html>

(執筆者：古橋大地)

第34回 測量調査技術発表会

●主催 公益財団法人日本測量調査技術協会

1. はじめに

本技術発表会は、会員各社からの先端測量技術に係る技術動向や提案論文、各社が発信したい技術報告・レポートの発表等を行い、測量調査関係者のコミュニケーションの場としています。今回は、新技術・新サービスの創造、安全安心への貢献等をテーマに10編の発表が行われました。また、国土交通省水管理・国土保全局長の関様から「水管理・国土保全局における測量調査技術の活用」と題して特別講演をしていただきました。さらに、測技協のWG活動から、ご講演と関係の深い2編の報告がありました。

企画及び運営は、技術委員会並びに技術普及部会が担当し、参加者は、317名を数え、盛況裡に開催することができました。おな、参加者には、測量CPD及び設計CPDポイントが付与されました。

2. 技術発表

技術発表は、表-1に示すような10編で、デジタル計測技術と3次元データによる新システム・利活

用技術に関する発表やMMSのような先端測量技術による論文発表等、新技術・新サービスの視点からのもが多く発表されました。また、東日本大震災に関する測量調査技術による成果の発表が行われました。これらの先端測量技術に関する発表は、参加者との技術的交流を果たすと共に、広く先端測量技術の普及に貢献できたと思います。技術発表に関しては、技術委員会の幹事会、部会長等で構成される審査員により、新規性、有用性、分かりやすさ等7つの視点から審査され、優秀と認められた発表に、優秀発表賞が授与されました。

3. 特別講演

昨年7月1日に、河川局、土地・水資源局水資源部、都市・地域整備局下水道部の組織を統合して発足した水管理・国土保全局の関局長より「水管理・国土保全局における測量調査技術の活用」と題して特別講演をいただきました。東日本大震災における取組では、航空写真や光学衛星・SAR衛星を用いた津波による浸水域の把握やレーザプロファイラ

表-1 技術発表一覧表

発表テーマ	発表者
航空レーザスキャナと航空写真測量デジタルカメラによる同時撮影の利活用について	国際航業株式会社 太田有紀
森林資源情報取得のための写真測量システムの開発について	株式会社バスコ 浦本洋市
ダム貯水池上流部における極浅域の面的3次元データの取得 ～大規模出水に備えたダム維持管理に向けて～	中日本航空株式会社 高橋 弘
レベル2500道路ネットワークの位置補正方法の研究	アジア航測株式会社 松井 晋
航空レーザデータを用いたMMSデータの高精度化 ～GNSS受信状況が劣悪な山間地のMMS 計測における精度確保～	中日本航空株式会社 中村勇貴
MMSを利用する為の様々なアプリケーション紹介と利用事例紹介	アイサンテクノロジー株式会社 根本 茂
ナローマルチビーム測深機を用いた港湾構造物被災状況調査	朝日航洋株式会社 中内隆幸
東日本大震災による産業分野の被害状況の整理	国際航業株式会社 小早川雅行
超音波ドップラー式流速計（ADCP）による河川航路図作成	朝日航洋株式会社 白井正孝
新探査技術による河川管理手法の高度化	株式会社バスコ 吉岡裕嗣

*要旨集は測技協ホームページからダウンロードできます。

(LP) データを用いた地形変化（地盤沈下）の把握等の測量調査技術の具体的な貢献について説明されました。河川砂防に関する技術研究開発では、合成開口レーダ（SAR）を利用した防災情報の把握、航空レーザ測深機（ALB）を用いた河川地形のモニタリング、MMS（モバイルマッピングシステム）による堤防の変状把握に関する技術研究開発等が紹介されました。また、航空レーザ（LP）データの様々な活用事例とその広がり、地理空間情報の品質管理と公開による利活用の推進、災害時・危機管理における地理空間情報の適切な利活用の推進等が説明され、これらの測量調査技術が水管理・国土保全行政に欠かせない技術であること、そして、高精度化とコスト縮減がなにより重要なポイントであるとのことをお話をいただきました。

4. WG報告

技術発表、特別講演でも取り上げられたテーマに関する2件のWG報告がされました。

1件目は、東日本大震災の応急復旧に関する空中計測・マッピング部会レーザWGの報告で、短時間で広範囲の航空レーザ計測を実施して、津波被害の状況の把握（瓦礫量）や地殻変動による地盤沈下の状況を把握して応急・復旧作業にデータを提供した報告がされました。

2件目は、新技術・新サービスとして注目を浴びているMMS（モバイルマッピングシステム）に関するWG報告を、空中計測・マッピング部会MMS応用WGが行いました。MMS メーカーから、システムの仕様や特徴、および関連ソフト等の説明を受けてそれぞれの機器性能など整理した状況の報告、想定される事例を①「土地情報」、②「境界管理」、③「土地利用」、④「公物管理」、⑤「社会監視」、の5分野に分類して、「目的」、「特徴」、「想定適用業務」、「計測方法」、「現状の課題」、「想定される効果」、「想定されるユーザ」について記載して取りまとめた想定事例集の報告がされました。これらの報告は、測技協WG報告として小冊子にも取りまとめられています。

5. 優秀発表賞

10篇の技術発表に対しては、新規性、有用性、分かりやすさ等7つの視点から審査され、高い発表パフォーマンスを示した以下の3名が優秀発表者として表彰されました。

- ダム貯水池上流部における極浅域の面的3次元

データの取得～大規模出水に備えたダム維持管理に向けて～

高橋 弘（中日本航空株式会社）

- 航空レーザデータを用いたMMS データの高精度化

～GNSS 受信状況が劣悪な山間地のMMS 計測における精度確保～

中村 勇貴（中日本航空株式会社）

- 東日本大震災による産業分野等の被害状況の整理
小早川雅行（国際航業株式会社）



優秀発表者表彰



発表風景



会場風景

技術発表会の最後には岡部会長より総評が行われ、発表のレベルの高さが、学会に負けないものと評価され、さらなる研鑽を積んで欲しいとの言葉で閉会しました。

6. おわりに

測技協は、公益財団法人として新たな出発をしました。この技術発表会も広く測量調査技術の普及の場と位置づけ、運営に努めました。会場並びに展示

会ブースでは、機関誌『先端測量技術』最新号で、新たな出発を紹介しました。今後は、公益目的事業に邁進し、地理空間情報高度活用社会の構築に貢献して参る所存です。関係各位の、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(公益財団法人 日本測量調査技術協会
専務理事 椎橋信幸)

地理学から提言する新しい国土

●主催 公益社団法人 日本地理学会

開催要旨

大震災を踏まえた国土と地域のこれからのあるべき姿について、地理学の第一人者が国土構造、地域社会、空間情報のそれぞれの観点から提言を行うとともに、新たな国土に向けた地理学の貢献のあり方について議論が行われました。

国土構造の観点から

まず、戸所隆氏（高崎経済大学地域政策学部教授）が「大災害と新しい経済環境に対応可能な国土構造の在り方」と題した講演を行い、「東京圏を中心とした明治以来の工業社会向けの国土構造は、東日本大震災による大きな打撃と知識情報社会への転換に対応できず、日本は停滞と混乱の中にある。こうした事態を克服するための国土構造の再構築には新しい開発哲学が必要である。これには人間と自然の共生が不可欠であり、GIS等の科学技術もそのために活用すべきである。また“強者の論理・資本の論理”から“弱者の論理・地域の論理”，メガスケールからヒューマンスケールの開発へ転換し、資源の乏しい日本が持続的に発展できる新しい成長戦略を見出さねばならない。」と指摘しました。その上で、国土再構築の方向性として、首都機能移転、横断国土軸による内陸都市の振興、自力更生型地域づくりが必要であり、さらに、国際的視野、自然と人間との共生、持続的なエネルギー供給が必要との認識が示されました。

地域社会の観点から

次に、山川充夫氏（福島大学学長特別補佐・うつくしまふくしま未来支援センター長）が「大震災・放射能汚染からの地域復興と地理学—うつくしまふくしま未来支援センターの活動—」と題して講演しました。原発からの放射性物質の外部放出とそれによる放射能汚染が、地域社会における自然と人間との関係性の分断、人間の共同性の分断をもたらし、地域社会を空白化させる極めて深刻な事態となっている状況が報告されました。これらを修復するにあたって地理学はどのような貢献がしうるか、またその際に大切にすべき視点は何かについて、うつくし

まふくしま未来支援センターの地域支援の具体的な取組が紹介され、地理学の社会的有効性が、「安全と安心のための見える化」、「協働」、「文理融合」であることが論じられるとともに、大学による学術調査と行政機関による調査との間に対抗関係が生じている課題が指摘されました。

空間情報の観点から

近藤昭彦氏（千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授）は「広域放射能汚染災害に対する地理学者の役割」と題する講演を行いました。人と自然の関係学である地理学は、時間・空間の枠組みの中で事象に関わる様々な関連性を捉えようとするものであり、その上で、大量の放射性物質の環境中への放出に対して、現場で何を知れば良いか、どう対応すれば良いかを地理学の視点で考える重要性が指摘されました。その事例として、現在進められている除染作業が集落の範囲に限定されているが、住民の生活を考えた場合、集落の範囲だけでなく、集落に供給される水源も考慮して流域単位での除染を行うことが必要であることが示されました。このような暮らしのスケールでの対応の必要性を明示していくことが地理の役割であり、そのためにも地域において“問題の解決を共有”する枠組みを作り、その中で地理学者が役割を果たしていく態度が必要であることが提案されました。

パネルディスカッション

コーディネーターのノ瀬俊明氏（国立環境研究所）の進行で、パネルディスカッションが進められました。

まずコメンテーターの宮原育子氏（宮城大学教授）から、地理学の知識を持った人材が政治家・行政・生活者等それぞれの分野で必要であり、地域の主体が自ら決断する力を持つための知識や人材のネットワークづくりが必要との意見が述べられました。

瀬川茂子氏（朝日新聞社）からは、今回は液状化、地すべり、人工改変のあった場所での被災等も大きく、その場所に住んでいる人自身が被災して初めて土地のリスクを知ったケースが多々あり、土地の成

り立ちの重要性が改めて認識されており、基本的学問である地理学がその視点をどう活かしていくかが課題であろうとの意見が述べられました。

質疑応答では、会場から、地理学に問題解決能力があることがどうして社会に理解されていないのか、地理学はどこに向けて提言すればいいのか伺いたいとの問いかけがあり、講演者・コメンテーターそれぞれの立場から、地理学はこれまであまり発信してこなかったがこういうシンポジウムを開く等の形で変化してきていること、教育とマスコミのバックアップが必要であること、支援のため現場に出てテーマを探すべきであること、地域の行政とリンク

する必要があること、地理学は個人で対応シマスとしては見えないが大きな貢献をしていること、これから何をしていくかが大切であること、メディアから見ると地理学会の存在が見えないことが指摘されました。

最後に、コーディネーターから、今回のシンポジウムは震災のアフターケアに特化したのが、高齢化社会による政府の弱体化の中で土木インフラをどうしていくか等の課題や、ITの技術革新が進む中で空間を意識しなくてもすむ世の中になりつつあり、地理学がどうしていくかという大きな課題があることを認識する必要があるとコメントされました。



大震災からの復興へ向けて～新たな発想の提言

●主催 社団法人日本測量協会

東日本大震災を経て日本全体が沈み込んでいる。大震災からの復興と将来に向けた希望の灯火となるような「新たな発想」を、測量・地理空間情報のリーディングカンパニーの経営トップ3人から提言していただいた。

(社)日本測量協会の村井俊治会長(東京大学名誉教授)がシンポジウム・ファシリテータを務めた。

講師は、

- ①大手の測量機器メーカーで唯一の純粋な日本企業としてグローバルな事業展開を行い、これからの注目点として「スマートコミュニティ」を提唱する(株)トプコンの内田憲男社長
- ②「センシングイノベーション」を通して国土づくりに貢献する「空間情報コンサルタント」、その主役を担うアジア航測(株)の小川紀一郎社長
- ③東日本大震災の記憶をつなぎ記録を活かすライブラリーを構築し、環境と共生する持続可能な社会を創造するための方向を「グリーン・コミュニティ」と定め、太陽光発電を含む様々な取り組みを展開している国際航業(株)の中原修社長である。

■ 測量業界のReform and Enhancement —スマートコミュニティ参画によるビジネスチャンスの創造—

株式会社トプコン 取締役社長 内田憲男

測量機器を基盤にして、建設や農業の3次元位置

システムの領域や、眼の健康に関わる領域など、「光」のもつ可能性を探究し、未来に向けて新しい価値を創造し、技術や製品を世界に向けて提案し続けている。売上高の海外比率は80%を超え、研究・生産・販売をグローバルな体制で展開している。変化を先取りする先進性とコンプライアンス最優先の価値観を最も大切にしている。

わが国の測量業界の国際的な位置付けを理解するため、世界各国の測量技術者の情報を集めてみた。測量技術者の数は日本や欧州では過剰なのに対し、新興国では不足している。また、各国の平均給与に対する測量技術者の給与は、日本を含む先進国で低く、新興国では高い。ここから、新興国における測量市場のビジネスチャンスが見えてくる。

わが国の測量技術者の給与水準の向上には、企業自体がReform(構造改革)とEnhancement(事業強化)を行い、適正利潤が得られる体質へ変わることが必要である。「構造改革」とは徹底した効率化により原価を下げることであり、「事業強化」とは、新しいドメイン(事業領域)の拡大である。「測量」から一歩踏み出した事業領域への転換や、新しい市場への挑戦を行い、スピーディに商品化する行動が必要である。

今、トプコンが目しているのは、「スマートコミュニティ」の将来である。電力のスマートグリッドの他に、ガス、水、交通、保守などが対象であり、その基盤は高精度3次元地図とポジショニングの上に成り立つネットワーク環境である。新技術とクラウドでスマートポジショニングを構築し、スマート



講師の方々(左から、中原氏、小川氏、内田氏、村井氏)

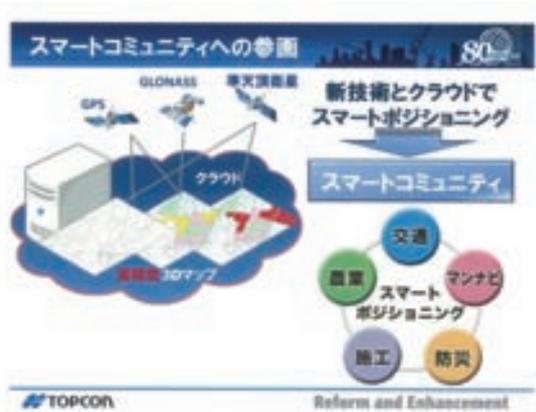


図1 スマートコミュニティへの参画

コミュニティを支える（図1）。この基盤上には、交通（ITS）、精密農業、情報化施工、防災、バリアフリーナビなど様々な事業があり、現在、世界35カ国で約400プロジェクトが進行しており、2030年には約6600兆円市場、最終的には8000兆円市場になるとされている。

■ 新たな国土づくりに貢献する空間情報コンサルタント

アジア航測株式会社 代表取締役社長 小川紀一郎

東日本大震災では緊急撮影本部を即座に立ち上げ、自社所有の航空機をフル稼働して被災状況の正確な把握を行い、関係機関へ提供した。現在も、災害地の復興に向けて測量・調査・計画・設計・施工管理等の業務を優先的に進めている。

アジア航測は、「いいものつくろう」をキャッチフレーズにして、確かな技術力とセンシングイノベーションにより、空間情報コンサルタント業界のトップ企業を目指している。「センシングイノベーション」とは、レーザ計測装置、各種センサ機器等

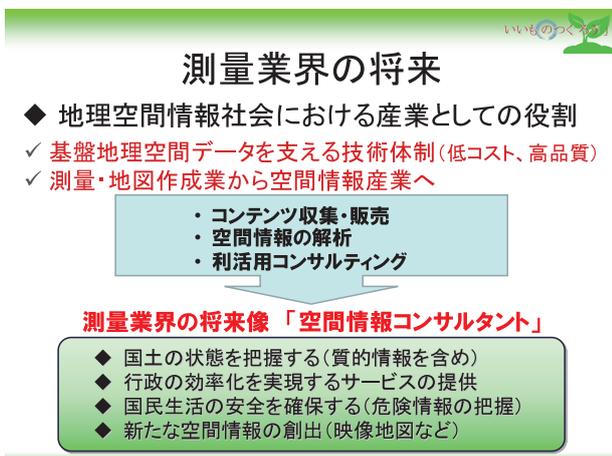


図2 空間情報コンサルタント

の最先端の装置と情報解析・利用技術の革新をいい、「センシング→マッピング→コンサルティング」という発展的サイクルで技術と商品の付加価値を高め、海外や民間市場を視野に入れた防災・環境・GIS等のコンサルティング力の強化である。

測量業界は、地理空間情報を整備する産業として役割を果たしてきたが、今後は、コンサルティングを重視した「空間情報コンサルタント」への脱皮が求められている（図2）。その基本は良質の社会基盤をつくることであり、デジタル化された空間情報ネットワークを使い、安全・安心、低炭素、環境負荷低減、生物多様性、景観再生といったさまざまなコンサルティングを、ハード・ソフト・ベストミックスやスマートコミュニティといった、これまでとは違った考え方で豊かな暮らしを創造していく企業である。

■ グリーン・コミュニティの実現に向けた取り組み

国際航業株式会社 代表取締役社長 中原 修

災害多発国のわが国は、1960年代以降の公共事業を中心とした災害対策により、減災を成し遂げてきた。地理空間情報技術は、①災害を正確に把握すること、②災害の記録を伝えること、③次の災害の対策に役立てることの3つの段階を繰り返すことで、次に発生する災害の被害を小さく抑える貢献を果たしてきた。

東日本大震災では各種の空中写真等を用いて浸水範囲の判読やシミュレーションを行った。その結果を、地震から2日後の13日に自社ホームページで公開し、関係機関による応急対策に役立てていただいた。このサイトは東日本大震災ライブラリーとしてコンテンツを整え、「記憶をつなぐ、記録を活かす」をテーマにして運営を続けている。



図3 地理空間情報が支えるグリーン・コミュニティ

この記録を、次の災害の対策にどのように活かしていくか。これは被災地の復興を通して未来のまちづくりを考えることであり、その方向性として「グリーン・コミュニティ」という目標を掲げている。グリーン・コミュニティとは「地球環境に負荷をかけない、低炭素型の、人と地球に優しいまち」であり、さまざまな構成要素とそれらに関わるプレイヤー（ステークホルダー）をつなぎ合わせる役割を

地理空間情報が担う（図3）。国際航業は、これを「地域密着で、災害に強く、安全・安心な暮らしを支える基盤を構築する」ことで実現していく。例えば、再生可能エネルギーの導入により電源を独立分散化させ、災害に強いエネルギー供給体制の実現や、災害に強く環境に配慮した社会インフラのマネジメントなどを行う。

（（社）日本測量協会）

場所情報コードの利用技術に関する 共同研究報告会

●主催 国土交通省国土地理院

国土地理院では、測位技術の高度化と位置情報サービスの普及を背景に、新たな位置情報基盤を担う「場所情報コード」の推進を図っています。場所情報コードには様々な情報を関連づけることが可能であり、防災、観光、物流、自律移動支援などの多様な分野への応用が期待されます。

「場所情報コードの利用技術に関する共同研究報告会」では、こうした背景を受けて17の企業・研究機関等の方々にご参加頂き平成22年9月から平成24年3月まで実施した共同研究（図1）について、内容に応じ3つのセッションに分けてその成果を報告しました。

1. 場所情報コードとその運用管理について

セッション1では、共同研究の背景となった新たな位置情報基盤整備の構想について、事務局の国土地理院から紹介（図2）を行った後、場所情報コードが関連付ける情報の項目やセキュリティ対策な

ど、場所情報コード発行及び運用に関する検討結果について、(株)日立製作所からご報告頂きました。

2. 実証実験報告

続くセッション2では、実証実験グループの総括を担当した(株)日立産機システムによる実証実験概要についてのご紹介の後、まず測位衛星技術(株)及び自治医科大学から、自治医科大学構内でIMESと組み合わせて行われた医療分野への応用に関する実証実験についてご報告頂きました。また、(株)リプロと基盤地図情報活用研究会からは、岩手県大船渡市における復興情報杭の設置と定点撮影記録への応用について、国土地図(株)から山梨県小菅村における森林管理と登山道案内への応用についてご報告頂きました。

3. 今後に向けて

セッション3は「今後に向けて」と題し、位置情

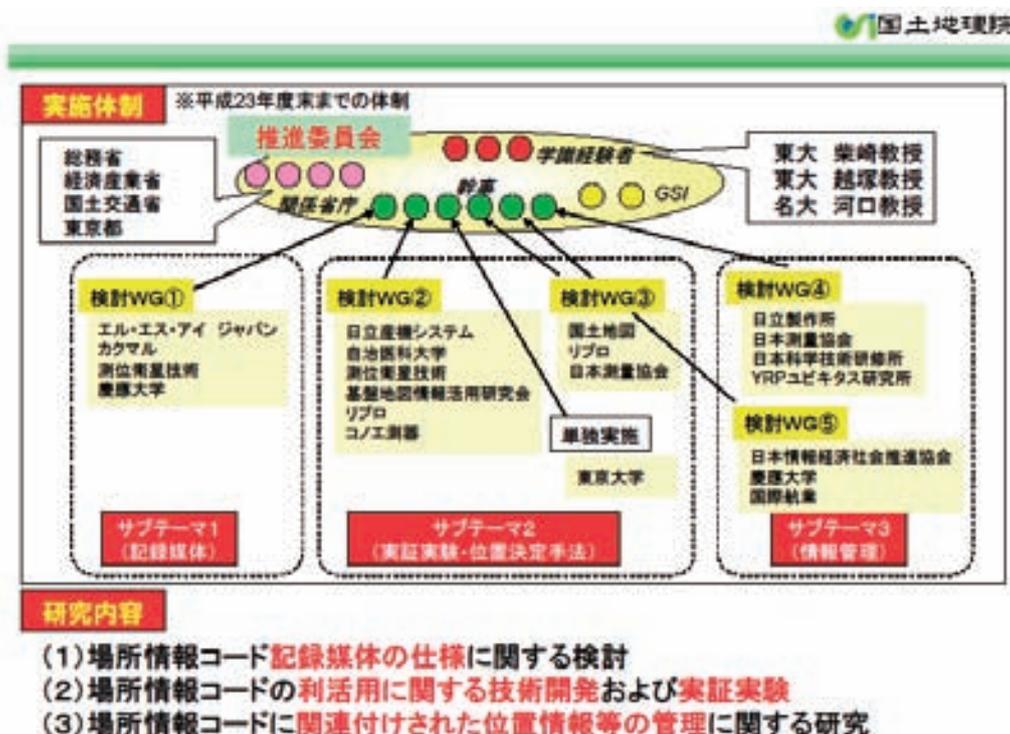


図1 共同研究参加団体及び実施体制

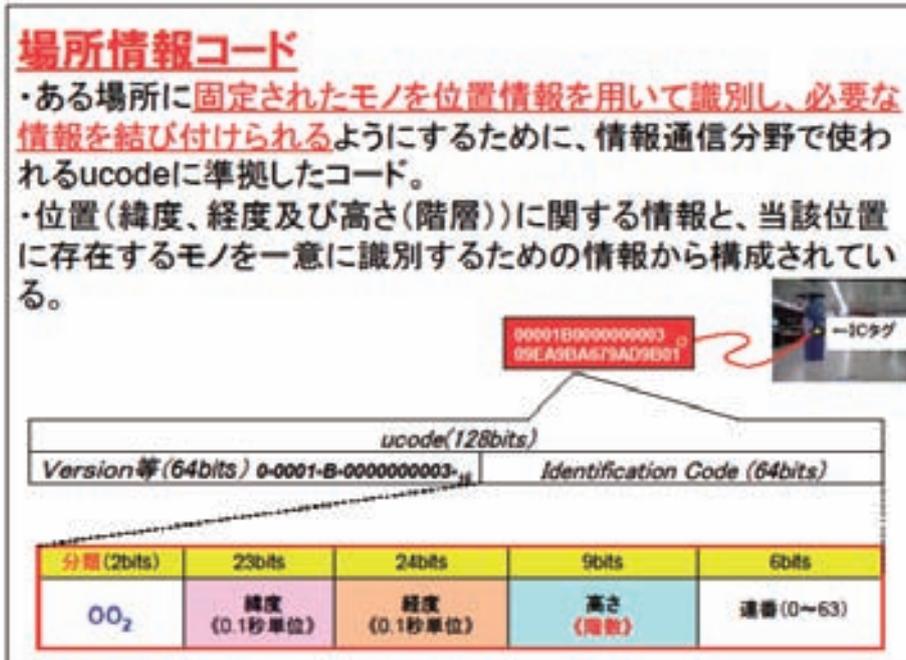


図2 場所情報コードの概要と仕様

報基盤整備の更なる展開に関連する取組を紹介しました。まず、(社)日本測量協会から位置決定手法の検証と測量業界における今後の役割について、続いて慶應大学から詳細位置情報を記述する拡張コードと可視光通信を利用した応用について、日本情報経済社会推進協会からはPIとの連携や屋内空間へのアンカーポイントとしての役割など、LBSへの適用可能性に関してそれぞれご報告を頂き、最後に事務局からこれまでの成果を踏まえた今後の展開について報告を行いました。

4. まとめ

本報告会には、測量・情報通信分野を中心に120名を超える方々にご参加頂きました。また、報告内容にご質問等のある参加者を対象に、報告会終了後に報告者との意見交換の場を設け、活発なご議論を頂きました。

今回の共同研究で得られた成果を踏まえ、国土地理院では、今後とも位置情報基盤の整備促進を図って参ります。

(国土地理院 測地部)

地理空間情報「地図」による 効果的な防災教育を考える

●主催 財団法人 日本地図センター

東日本大震災から1年余りが過ぎました。復興と災害により強い国土の実現に向けて、息の長い取り組みが続いています。このなかでの情報共有手段として地理空間情報が広く活用されています。

社会の災害への耐性を高めるため、特に次世代を担う子供たちが、災害情報を含む地理空間情報に親しみ使いこなすことが必要です。震災後、地図教育・防災教育への支援や、新たな地理教育や防災教育が実践されています。これらについての基調報告を基に災害に強い国土・社会を担う市民の育成のあり方について考えてみました。

講演の概要

1. 地図教育・防災教育への支援と普及啓発の事例 (津沢正晴／(財)日本地図センター)

地図・地理・防災教育への支援の事例として、関係法人による取り組みを紹介しました。普及啓発活動の事例として、国土地理院の「地図と測量のおもしろ塾」の事例から、児童生徒に身近な対象に託して地理空間認識を想起してもらう工夫を紹介しました。さらに重大事故の地理空間的な広がり一般市民が理解する手助けとして文部科学省が公開している「放射線量等分布マップ」を紹介し、これが学校の教材として十分に使い得る可能性を示唆しました。

2. 地図による防災教育のありかたと実践 (志村喬／上越教育大学)

近年、学習指導要領が、地図の使用と、環境保全や自然災害防止を重視する方向に改訂されました。「地図を読む」ことは、記号で示された事実をそのまま把握する～例えば特定の避難路だけを知るのではなく、土地の概念を掴み、状況変化に対応して新

たな避難路を見つけること。「ハザードマップを信じるな」とは、それを使わないのではなく使いこなすことが示されました。

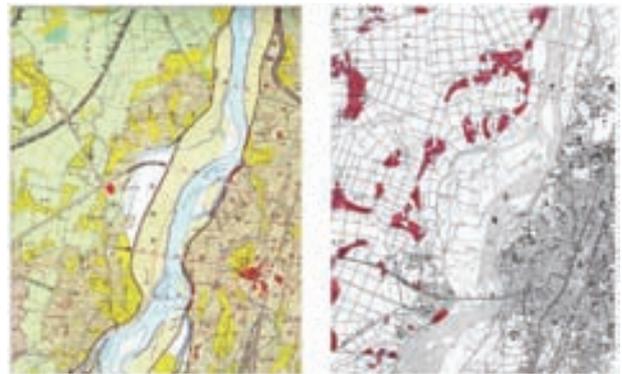
日本での、地形図作業による「生き抜く力（応用力）を育む防災学習」や、英国における子供たちの参加による「全英土地利用調査」など、地図を活用した取り組み事例と、これに関連して、電子国土基本図の教育現場からみた課題について言及いただきました。そしてデジタル地図技術も活用する「子どもたちが調べた日本の災害記憶地図」の作成について提案いただきました。

3. 教育現場からのコメント

池下誠（練馬区立開進第一中学校）

梅津謙（宮城県美田園高校）

東日本大震災で被災し他校を借りて授業を行っている高校と、東京の中学校から、それぞれ地図を使った防災教育に取り組んでおられる方々にコメントをいただき、身近な生活環境を科学的に捉え、地域特性を理解することで、日常生活の場だけでなく避難先や旅先での応用と、「想定外」への対応について言及していただきました。



着色作業した地形図と土地条件図の比較

女子の地図力最前線

—‘地図ガール’の感性と新マーケット—

●主催 日本国際地図学会

(1) 趣旨

このシンポジウムは、女性目線からみた地図の世界を正面から取り上げます。ライフスタイルを確立した大人の女性は、どのような感性で空間をセレクトし、自分の価値観や趣味を満足させる行動をしているのでしょうか。シンポジウムでは、こうした地図の世界をリードする方々にパネリストとして登場いただき、女性から見た地図世界の問題点、地図への関わり方、好まれる地図表現、行動に結びつく地図情報などについて提言を頂きます。これにより、来場者の皆さんとともに女性目線の斬新さやユニークさ、さらに新マーケットとしての可能性を考えてみたいと思います。

日時：6月23日（土）

13時30分～16時00分

場所：パシフィコ横浜

アネックスホールF204

(2) プログラム

♠ 開会

星野 由尚（日本国際地図学会会長）

♠ 起点トーク

「女子力が創り出す環境、地図の健全な進化」

有川 正俊

♠ ライトニングトークと総合パネル

「女子力と地図力」

ナビゲーター：太田 弘×高橋 則雄

(3) パネリストとトークテーマ

♥ 渡辺 英恵（早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修 学部生）

「古地図に見る地図の多様性—ビジュアルマップを中心に—」

♥ 宮寄 朋美（東京急行電鉄株「なでしこチーム」）

「東急線トライアングルチケット 女性向けPRへの挑戦」

♥ 千歳丸 紀子（昭文社ことりっぷチーム、キャンバスマップル株式会社電子書籍部）

「旅行ガイドブックから見た女子の地図力」

♥ 福井 靖子（神奈川SSGGクラブ）

「観光ガイドから見た女子の地図力」

♥ 八代 愛（ゼンリンデータコム コンシューマサービス開発部）

「街歩き地図と女性」

♥ 新垣 紀子（成城大学 社会イノベーション学部教授）

「認知心理学から見た女子向け地図の意義」

(4) 総評

会場は170名の定員でしたが、来場者は210名以上で、立見が出ました。実際には、会場に入らずに諦めて帰った方も多いと聞いています。参加者の平均年齢もかなり若く30歳近くとなり、また女性の参加者も多かった。NHKや共同通信社などの報道取材もありました。会場でTwitterを行っている人も多く、是非、#g_expo_jcaのまとめのページを読んでもらいたい。シンポジウムの熱気が伝わるといいます。このまとめを行っていただいた古橋大地様（東大）には、USTREAMによるビデオ中継も行っていました。このように、新しいメディアにも対応しました。

(5) まとめ

今回の女性向けの地図をテーマとしたシンポジウムで、社会現象となった歴女や山ガールなどを単に地図の領域でまねをした企画ではないかという批判を当初受けました。しかし、シンポジウムの内容は



図1：総合パネルの様子

充実したものであり、また会場で笑いが起きることも多々あり、雰囲気も良かった。発表者も参加者もきらきらとしていた。「女子力」とは、「きらきらと輝いた生き方をしている女性が持つ力」と定義されている（デジタル大辞泉）。やはり、女性の参画はコミュニティを健全にする。少しだけ見てみようと思った人がいつのまにか最後までいたという感想もうかがえた。男社会で作成され続けて来た地図の技術・社会・文化が、女子による地図の見方やニーズにより大きく変化する状況が起きているようで、これは必然の方向のように思います。女性向けの地図というテーマは、ユーザ中心の地図の在り方を真剣に考える良い機会になったのではないか。これからは、地図中心ではなく、地図周辺でユーザ中心に進む良いきっかけになったのではないかと思います。

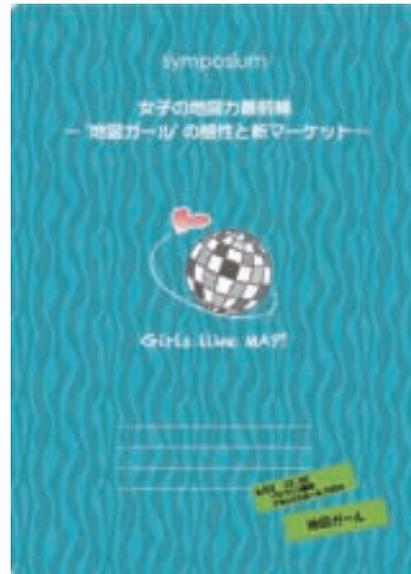


図2：ハンドアウトの表紙

土地家屋調査士研究発表会

～情報循環社会の構築が明日の日本を創る～

●主催 日本土地家屋調査士会連合会

はじめに

今回の研究発表は「情報循環社会の構築が明日の日本を創る」をテーマとしました。

IT革命の産物である高度情報化社会は、情報そのものが商品であり、私達土地家屋調査士が主に扱っている不動産表示情報も効率良く集約し、多目的に循環させれば多くの新産業が生まれる時代であると考えています。

既にグーグルやアマゾン等がネットを通じ流通の革命を起こしている今、近い将来、土地家屋調査士が関係する測量や登記部門も同様な事態に直面すると思われれます。そのような中、我々と共に新たな産業の創出を一緒に検討してもらえとの期待を込めて各研究テーマを組み立てました。

研究発表1

「国土調査法第19条第5項について」

(三嶋元志 研究員)

近年、民間の測量成果を利用した地籍整備（国土調査法第19条第5項制度）推進調査費の補助金制度の制定が注目されています。以前から国土調査法第19条第5項という規定はあったものの、地図は国の事業計画等に基づき作成されていくものと、皆が思っていました。

しかし、都市再生街区基本調査が実施され、基準点が身近にある時代になると共に、平成17年の不動産登記法改正により、「基本三角点等」に基づく地

積測量図が原則となりました。このような環境で作った私達の測量成果を皆で自主的に法務局備付地図整備に活用する制度を本気で考えてみませんか！今、こんなことを私達土地家屋調査士は考えています。

研究発表2

「地籍に関する国際標準と日本の地籍のあり方」

(藤原豪紀 研究員)

少子高齢化に伴う人口減少は、21世紀を通じたメガトレンドといわれています。人口減少に伴う影響は、正・負の両面がありますが、よりよい未来、持続可能な社会を構築するためには負の影響を緩和・軽減あるいは改善する努力が不可欠となります。

ところで、世界のLand Surveyorは、地籍整備を通じて途上国の経済基盤システムの構築に加え、貧困の撲滅や農業基盤の整備、環境保全に貢献しています。なぜなら、現代の地籍は不動産権利の客体や課税客体の明確化だけでなく、ICTを援用することによって、国土の適正利用のための政策策定に大いに活用できるからです。このことから分かるように、少子高齢化に伴う課題に対して、地籍整備を担う土地家屋調査士は大きな役割を果たすことができると考えます。地籍は、経済や貧困、農業、環境などの問題を解決するためのソリューションの一つであり、LADMも「ソリューション」のための「武器」になります。世界の潮流は“From cadastre to land governance”です。

研究発表3

「土地家屋調査士業務情報公開システム「権利の明確化の使命と履歴社会への対応」

(児玉勝平 研究員)

不動産の正確な実態を台帳や登記簿に反映させてきた土地家屋調査士の専門家能力を、登記所だけでなく、直接国民へ届け、権利と財産を守るシステムの構築となるジオメディア社会に発展対応させるための基盤の紹介がされました。



左から児玉研究員、藤原研究員、三嶋研究員

不動産は信用制度の基盤をなしており、その実態を明らかにする登記事務は、民法の瑕疵担保責任、売主責任と合間って重要な役割を果たしてきました。しかし、社会理念が「事前規制型」から「事後救済型」に転換し、制度変革が進む中で、民法以外の諸法規による不動産の権利制限などを網羅し、提供できなければ、利用者が自ら調べる事への条件を築き得ません。こうした中、位置情報サービス産業の勃興は不動産公示制度の登記簿を補完する民間の新たな役割をもたらすかもしれず、そのことが、売主の説明責任、「事前規制型」からの脱却を醸成し、瑕疵担保責任を変えるきっかけになるかもしれません。「権利の明確化」を使命とする土地家屋調査士は、その保有する情報を、迎いつつある履歴社会で活かし、新たな役割を自覚し、取組を進めていかねばならないと考えています。

まとめ

この様に、新たな産業の創出をもたらす可能性を位置情報が導き出すという革新の時代の到来であり

ます。一石を投じたかのような国土調査法第19条第5項の手続の波紋が広がり、地籍情報を民間で循環させる制度を構築した時、土地家屋調査士は、地籍情報を創る唯一の専門資格者として確固たる地位が保証されることになると思われま

(日本土地家屋調査士会連合会 研究所長 小野伸秋)



会場の様子

G空間EXPO 学生フォーラム2012

●主催 学生フォーラム2012運営委員会

1. 開催概要

学生フォーラムとは、地理空間情報分野のボトムアップを目的とした学生による学生のための学術交流の場であり、2012年6月23日の9:00開場、17:00閉会のスケジュールで実施しました。本フォーラムの目的はGIS、GPS、画像処理の基礎研究のみならず、これらの技術を利用した環境分野や社会・経済分野の応用研究に取り組む学生の交流を促すこととあります。本年度は例年通りの、研究室紹介、ポスターセッション、交流イベントに加え、測量誌GIMインターナショナルの発行人・編集長であるDurk Haarsma氏の講演、大学教員や担当者による大学院研究科・専門コースの紹介を実施しました。

2. 論文集の発行

ポスターセッションで発表された内容の論文集をUSBで発行しました。全ての原稿はMicrosoft Word形式かPDF形式で提出され、本年度は41の論文が収録されました。従来CD-ROMよりもコンパクトでかつ参加者にとって再利用可能な形で提供することが出来ました。

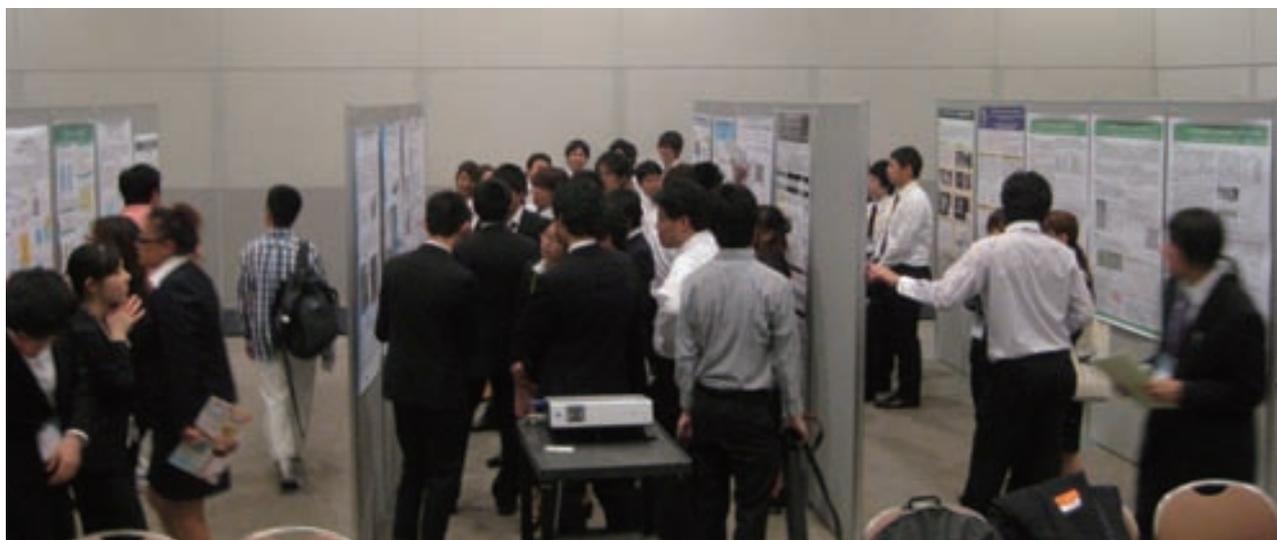
3. 参加者数・参加研究室数

14大学16研究室から50名の学生が参加し、Durk

Haarsma氏の講演会の際には一般参加者87名も加わり、合計で137名、歴代1位の数となりました。参加学生数は昨年度よりも減少し、参加大学数は去年より増加、研究室は同数でした。その結果は運営委員会が独自に運営している学生フォーラムのホームページ (http://gi-studentjp.co.cc/s_forum/) に掲載されております。この背景には電子メールによる広報が効果的だった点や大学教員の先生方による周知のご協力があったこと、および一部の研究室では所属学生全員が参加するなどの功労があったこと等が、参加者から報告されています。また、ホームページを見て個人的に参加された方もいました。

4. GIMインターナショナル発行人・編集長 Durk Haarsma氏による講演

海外測量誌GIMインターナショナルのDurk Haarsma氏のご厚意により、G空間社会や技術の未来と学生が何をしていくべきかについて講演していただきました。会場には100名を超える拝聴者が訪れ、質問を含めて議論が活発に行われ、会場から、非常に満足であったとの声をたくさんいただきました。(講演概要は、月刊『測量』2012年11月号に掲載されています)



ポスターセッションの様子



講演中のDurk Haarsma氏



交流イベントの様子

5. 交流イベント

横浜と世界の都市，その歴史を題材としたクイズ大会を実施しました。いずれも参加者には好評で，特にディスカッションでは異分野に所属する身でありながら共通のテーマで議論することを通して，本フォーラムの趣旨である学際的な交流が達成されました。

6. 懇親会

前回同様，学生フォーラムの懇親会を行い，Durk氏を含む47名の方にご参加いただき，分野と立場を超えた交流を達成することができました。

7. 謝辞

学生フォーラム開催の機会を授けてくださったG空間EXPO実行委員会に心より感謝申し上げます。特に日本測量協会の山本様，清水様にはお世話になることが多々ありました。また，顧問として東京大学の布施先生，宮崎様には運営の助言を多くいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

学生フォーラム2012運営委員会
委員長 大場章弘（慶應義塾大学）



学生フォーラム2012の参加者

5. 体験イベント

G空間技術に実際に触れて体験することで、展示品の機能や性能を正しく理解していただきました。

前回のG空間EXPO(2010)では子ども向けのゲームが多いのに対し、今回はビジネス関係者が展示品の機能や性能を体感できることに重点が置かれました。展示ブースの中だけでなく、展示会場全体、屋外特設会場、横浜港の海上などで行われ、4,500人以上の人が体験しました。

会場	イベント名	実施者	参加者数	
企画展	G空間を支える宇宙技術の世界 ～新たな未来をひらく準天頂衛星システム～	屋内GPS体験イベント バーチャル世界ツアー	IMESコンソーシアム	350人
	時空を超えて実感～3Dワールド	巷で話題の「ボディースキャン」を体験しよう	3D Network Japan	500人
	海と水のG空間	これが日本列島周辺の海底地形だ！	海上保安庁海洋情報部, (株)海洋先端技術研究所	600人
ゾーン	「宇宙技術」の利用	「Space Walk」で鳥になって見つけよう	(株)ジオサイエンス	20人
	「新マーケット」の開拓, 「新技術, 新サービス」の創造	屋内歩行者ナビサービスを体験しよう	(独)産業技術総合研究所	236人
		帰宅支援マップをつくろう	国土交通省国土政策局	269人
		スマートフォンやタブレットをかざすだけ! 「空間情報可視化ツール」のご紹介	国際航業(株)	130人
		新しいGISを体験しよう	日本スーパーマップ(株)	150人
	「安全安心」への貢献	情報杭を利用してブース情報を確認しよう	(株)リプロ	300人
		モバイルレーザー点群の3次元体験	アジア航測(株)	240人
		間違い探しに挑戦	(社)日本測量協会	425人
		距離を測る体験	(社)日本測量協会	676人
	G空間体験特設ゾーン	測量コンテスト	(社)日本測量協会	27人
移動体GPS測量機器による屋外試乗体験		(株)みるくる, (株)パスコ	200人	
放射線測定器付きGNSS測量機「ホットスポットナビ」の実演		(株)テイクオフ	30人	
準天頂衛星初号機「みちびき」高精度測位体験		(独)宇宙航空研究開発機構	300人	
小型無人飛行機(UAV)のデモ飛行		(株)イメージワン	〈中止〉	
横浜港	自律測線走行無人リモコンボート体験デモ	コデン(株)	100人	
	測量船の見学	第三管区海上保安本部	〈中止〉	
合計			4,553人	

下記は、体験イベントの概要です。

屋外GPS体験イベント バーチャル世界ツアー

G空間EXPO2012展示スペースを歩き回るだけで、世界各国を旅することができます。スタート地点で選択した国を探し出して持ち帰って頂ければ、豪華景品をプレゼント。

[実施者：IMESコンソーシアム]



巷で話題の「ボディースキャン」を体験しよう

映画やドラマ、バラエティなどでもよく取り上げられている、人体パーツの「3Dスキャン」。「3Dデジタイザ」を使い、自分が銅像になったような「顔」のスキャンを数秒で体験できます。

[実施者：3D Network Japan]



これが日本列島周辺の海底地形だ！

日本を取り巻く海の詳細な海底地形を3Dでご覧下さい。東日本大震災を引き起こした2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震（M9.0）や発生が懸念されている南海トラフ巨大地震の震源域の海底地形が手に取るように分かります。最新技術のマルチビーム音響測深機や画像処理を駆使して作成しました。

[提供：海上保安庁海洋情報部，(株)海洋先端技術研究所]



「SpaceWalk」で鳥になって見つけよう

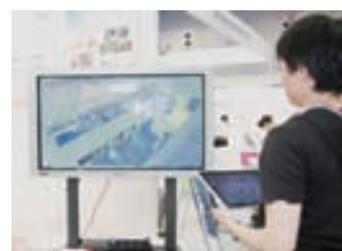
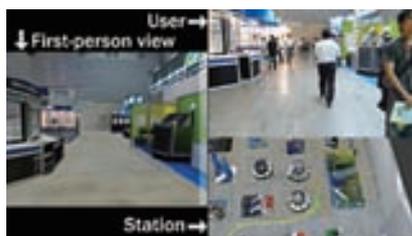
展示施設やテレビ局でのCG制作などで使用されている衛星画像ビューアソフト「SpaceWalk」。このソフトをゲームコントローラーで操作し、衛星画像で表現された日本全域から「指定場所」を探して頂くイベントを開催します。

[実施者：(株)ジオサイエンス]



屋内歩行者ナビサービスを体験しよう

歩行者デッドレコニング（PDR）と呼ばれる歩行動作や歩行の向きを計測する技術を用いて、屋内などのGPS情報が得られない場所（今回は展示会場内）において、ナビサービスを体験していただきます。会場の写真から屋内3Dモデル（地図）を作り、そのモデルと体験者の位置や向きを携帯端末や展示ブースの大



型モニタに表示します。

[実施者：(独)産業技術総合研究所]

帰宅支援マップをつくろう

[実施者：国土交通省国土政策局]



スマートフォンやタブレットをかざすだけ！「空間情報可視化ツール」のご紹介

国内初の「屋内ARナビアプリ」や、今いる場所の浸水の高さを確認できる「浸水域可視化アプリ」を体験していただけます。

[実施者：国際航業(株)]



新しいGISを体験しよう！

展示ブースにて、デスクトップ製品の最新版「SuperMap Deskpro .NET 6R(2012)」の実操作が可能です。新しいデスクトップGISをぜひ、ご体験ください！

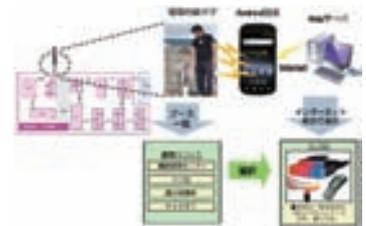
[実施者：日本スーパーマップ(株)]



情報杭を利用してブース情報を確認しよう

Android端末を利用して情報杭のICタグを読み取ることで、近くのブース情報を確認する体験を(株)リプロが提供します。

[実施者：(株)リプロ]



モバイルレーザー点群の3次元体験

3D-CGとは一味違うモバイル点群の世界へようこそ。車載型モバイルレーザー計測データを3次元表示します。3Dメガネで見ればあなたも鳥になれます。鳥になって自由に大空を羽ばたいてみませんか？

[実施者：アジア航測(株)]



間違い探しに挑戦

2枚の写真を見比べて、左右の違いを探して下さい。実体視（立体視）することにより、違うところを見つけやすくなります。

[実施者：(社)日本測量協会]



距離を測る体験

歩測することで測量の原点を知っていただけます。最初に自分の歩幅を調べ、実際に歩いて距離を測ります。G空間EXPO2012では、3日間に676人が挑戦し、誤差の少ない210人が認定証「歩測の達人」を受け取りました。

[実施者：(社)日本測量協会，協力：国土地理院]



測量コンテスト

測量の原理・原則に立ち返って、技術力を養います。様々な工夫やアイデアを披露し、参加者だけでなく観戦者にも測量の面白さを実感していただけます。精密機器部門と自作機器部門があります。限られた時間内でアイデアと精度を競い、優秀チームは表彰されます。

G空間EXPO2012には10チームが参加し、総合優勝は「シビルクラブSpring」（京都市立伏見工業高等学校）、敢闘賞は「KUTS」（高知工科大学）、アイデア賞は「鹿田研究室」（金沢工業大学）、特別賞は「シビルクラブAutumns」（京都市立伏見工業高等学校）でした。

[実施者：(社)日本測量協会]



移動体GPS測量機器による屋外試乗体験

移動体GPS測量機器（モバイルマッピング）は、車両等に搭載された測位センサーで3次元位置を把握し、周囲の映像やレーザー測距等の空間データを収集し、走行しながら3次元の地物情報を取得します。実際に屋外で移動計測車両に試乗し、実体と計測を体感していただけます。

[実施者：(株)みるくる，(株)パスコ]



放射線測定器付きGNSS測量機「ホットスポットナビ」の実演

RTK測量で局地的10mメッシュ測定点へのナビゲーションを行い、計測場所の放射線量・世界測地系座標・時刻を自動記録してリアルタイムに表示します。また、測定データはWebサーバから線量別にWeb MAP上に公開します。

[実施者：(株)テイクオフ]



準天頂衛星初号機「みちびき」高精度測位体験

JAXAでは、高精度な測位の実現に向けて、「みちびき」の実験用信号であるLEX信号を用いた“高精度単独搬送波位相測位（PPP）実証実験地上システム”の開発に力を入れています。準天頂衛星信号を受信できる場所であれば、どこでも、高精度で位置を知ることができるようになります。高精度な測位の結果をリアルタイムでご覧いただき、「みちびき」LEX信号を用いたPPTの精度向上を実体験していただきます。

[実施者：(独)宇宙航空研究開発機構]



自律測線走行無人リモコンボート体験デモ

音響測深機を搭載したリモコンボートです。

GPSで位置を把握し、XY座標を入力することで、海、河川、ダム等、決められた測線を自動的に深浅測量します。国土交通省新技術NETIS登録済みの新技術を、パシフィコ横浜裏手の海で体験してください。

[実施者：コデン(株)]



測量船の見学（天候不良のため中止）

南海トラフなど震源域の海底地形に関心が高まっています。今回は、主に港湾の測量等を実施している第三管区海上保安本部所属測量船「はましお（全長21m）」の観測機器等の見学ができます。

公開日時：2012年6月22日（金） 11：00-15：00

公開場所：ぷかりさん橋

※6月22日に東海・関東地方を直撃した台風4号による強風波浪のため（注意報発表）、G空間EXPO2012での測量船の見学会は中止になりました。

[実施者：第三管区海上保安本部]



小型無人飛行機（UAV）のデモ飛行（天候不良のため中止）

無人飛行機（UAV）は、測量や観測用として注目されています。静かな電動ラジコン型のUAVのデモ飛行を実施します。操縦はとも簡単で、安定した自動飛行ができます。上空からの撮影データもリアルタイムにご覧いただけます。

※G空間EXPO2012は、台風4号の強風のため、デモ飛行は中止しました。

[実施者：(株)イメージワン]



6. その他イベント

コミュニティ・ゾーン

出展者やシンポジウム実施者が展示会来場者との「ふれあい」をつくる場として、展示会場内に「コミュニティ・ゾーン」を設けました。ステージでは、出展者やシンポジウム実施者、体験イベントの実施者が、10分という限られた時間で、次々とプレゼンテーションしました。

- ❖ 出展者は、各機関／団体／企業の紹介、出展製品／サービスの紹介やデモンストレーション、バンダーフォーラム（出展者技術説明会）開催のアナウンスなどを行いました。
- ❖ シンポジウム実施者は、シンポジウムの内容等をアナウンスし、チラシなどを配布してシンポジウムのPRを行いました。
- ❖ 体験イベントの実施者は、イベント内容をPRし、イベント会場へ誘いました。



コミュニティ・ゾーン



コミュニティ・ゾーンの様子

ステージプログラム

6月21日(木)

Time	登壇者
11:00~11:10	公益財団法人日本測量調査技術協会
11:15~11:25	独立行政法人産業技術総合研究所
11:30~11:40	日本スーパーマップ株式会社
12:30~12:40	国土交通省国土地理院
13:00~13:10	株式会社計測リサーチコンサルタント
13:15~13:25	株式会社グランマップ
13:30~13:40	コデン株式会社
13:45~13:55	株式会社ソーキ
14:00~14:10	オートデスク株式会社
14:15~14:25	パシフィックヴィジョン株式会社/East View Geospatial社
14:30~14:40	厦門銀据空間地理情報有限公司
14:45~14:55	株式会社ジオプラン・GEエナジー
15:00~15:10	アイサンテクノロジー株式会社
15:15~15:25	株式会社ジオサイエンス
15:30~15:40	中日本航空株式会社

6月22日(金)

Time	登壇者
10:45~10:55	厦門銀据空間地理情報有限公司
11:00~11:10	一般財団法人リモート・センシング技術センター
11:15~11:25	公益財団法人日本測量調査技術協会
11:30~11:40	オートデスク株式会社
11:45~11:55	アクリーグ株式会社
12:30~13:00	国土交通省国土地理院〈電子国土賞表彰式〉
13:15~13:25	アイサンテクノロジー株式会社
13:30~13:40	株式会社ソーキ
14:00~14:10	株式会社ジオサイエンス
14:15~14:25	東京カートグラフィック株式会社
14:30~14:40	ジェイエムテクノロジー株式会社
14:45~14:55	パシフィックヴィジョン株式会社/East View Geospatial社
15:00~15:10	中日本航空株式会社
15:15~15:25	コデン株式会社

6月23日(土)

Time	登壇者
11:00~11:10	独立行政法人産業技術総合研究所
11:45~11:55	中日本航空株式会社
12:15~12:25	アイサンテクノロジー株式会社
12:45~12:55	コデン株式会社
16:00~16:30	社団法人日本測量協会(測量コンテスト表彰式)

コミュニティ・ゾーンで行われた「電子国土表彰式」(国土交通省国土地理院)



コミュニティ・ゾーンで行われた「測量コンテスト表彰式」(社団法人日本測量協会)



交流会

G空間情報に関わる技術・製品・サービスの開発や普及活動が、多様な業界・学术界・官界で行われています。これらが、G空間EXPO2012で一堂に会しました。

“ヒト”のコラボレーション，“モノ”のコラボレーションが新しい技術・製品・サービスのヒントを生み出します。出展者，シンポジウム登壇者，来場者，主催者等，これまで接点のなかった方々の交流の場として「交流会」を催しました。これにより，産学官の連携，海外機関との交流の後押しするものです。

交流会には，参加者同士の交流を希望される170名が参加されました。

日 時 2012年6月22日(金) 17時30分～19時30分

会 場 パシフィコ横浜 会議センター (6F) ベイブリッジカフェテリア



ベイブリッジカフェテリア
(会議センター 6F)



交流会の様子

7. 広報活動

G空間EXPO2012は地理空間情報に関わる産業の振興を狙いとして、広報活動を展開しました。

来場者のターゲット

地理空間情報の構築・整備と利活用、流通に関わる…

- ❖ 測量, 調査設計, 土地家屋調査, 地図
- ❖ 建設, 建設コンサルタント, 施設管理
- ❖ 環境, 防災
- ❖ 農林水産鉱物資源管理, 気象, 海洋調査
- ❖ 交通, 運輸, 観光, 文化財, 物流, 広告
- ❖ 保健, 公衆衛生, 介護, 防犯, 警察, 防衛
- ❖ 地理情報システム, 情報提供サービス
- ❖ 情報家電, 車載端末, 携帯端末, ゲーム, 映像, 通信, ロボット
- ❖ 商圏, マーチャンダイジング, 立地計画, 金融, 保険
- ❖ 官公庁, 自治体, 関連団体
- ❖ 教育, 研究
- ❖ 一般
- ❖ 学生

実行委員会の構成員（産学官）のネットワークを活用した広報活動の展開

実行委員会構成員の広報媒体（政府広報、機関誌、会議、学会、ホームページなど）を活用した広報活動を行いました。主な活動は以下のとおりです。

- ・(社)日本測量協会の月刊『測量』（2011年10月号～2012年6月号）で案内掲載
- ・(財)衛星測位利用推進センター主催の「SPACシンポジウム2011～準天頂衛星打ち上げ後の利用実証」（2011年12月8日、経団連会館）で開催案内
- ・(公社)日本地理学会（2012年3月28日～30日、首都大学東京）で開催案内
- ・(一社)測位航法学会・全国大会（2012年4月18日～20日、東京海洋大学品川キャンパス）で開催案内
- ・(一社)日本写真測量学会・平成24年度年次学術講演会（2012年5月21日～22日、東京大学生産技術研究所）で開催案内
- ・(一社)日本リモートセンシング学会(非構成員)・第52回学術講演会（2012年5月23日～24日、東京大学生産技術研究所）で開催案内
- ・(一社)日本ロボット工業会の協力を得て、「2011国際ロボット展」（2011年11月9日～12日、東京ビッグサイト）に出展し、開催案内
- ・各構成員のホームページに、G空間EXPO2012のリンクバナーの貼り付け
- ・その他



2011国際ロボット展のG空間Expo2012広報ブース

G空間EXPO公式ウェブサイトで最新情報を発信

公式ウェブサイトを、G空間EXPO2012バージョン（ビジネスに重点を置いたデザインと内容）に変更しました（2011年12月1日）。

公式ウェブサイトのURL

- 日本語版 <http://www.g-expo.jp/>
- 英語版 <http://www.g-expo.jp/en/>

公式ウェブサイトは、開催概要、展示会、講演・シンポジウム、ベンダーフォーラム、体験・実演イベント、アクセスで構成されています。出展者の製品・技術情報、シンポジウム概要と登壇者、体験イベントの実施など、最新のイベント情報を掲載しました。



トップページ



展示会のページ



シンポジウム等のページ



体験イベントのページ

ビジネスメディアを活用した広報活動の展開

■ 記者発表

- 2012年6月15日 G空間EXPO実行委員会
「G空間EXPO2012」の開催について
- 2012年6月18日 Pacifico News（横浜市政記者，横浜ラジオ・テレビ記者）
「パシフィコ横浜催事情報 G空間EXPO2012」

■ 専門誌，業界誌，ビジネス誌，経済新聞，業界新聞

❖ メディアパートナー

広報を強化するため，国内外のメディア社（出版社，テレビ，ラジオ，新聞社，情報サイトなど）とパートナーシップを結びました。これは，G空間EXPOとメディア社の各々が有する広報媒体をバーター取引の形態で相互利用するもので，趣旨に賛同したメディア社を「メディアパートナー」と名付けました。

メディアパートナーは下記のとおりです（順不同）。

- ① GIS NEXT
- ② 日刊建設工業新聞
- ③ 日刊建設産業新聞
- ④ 日刊建設通信新聞
- ⑤ 建通新聞
- ⑥ 日本工業経済新聞
- ⑦ 週刊東洋経済
- ⑧ 道21世紀新聞 Route Press
- ⑨ 航空ニュース
- ⑩ 東京IT新聞
- ⑪ ExpoTODAY
- ⑫ GIM International（オランダ）
- ⑬ GPS World（アメリカ）
- ⑭ Coordinates（インド）
- ⑮ Inside GNSS（アメリカ）

この他，下記のイベントとは広報の相互協力を行いました。

- ⑯ Spar Point Research
- ⑰ Location Business Japan

相互協力の内容は以下を標準とし，各メディア社との協議により内容を決めました。

- メディア社がG空間EXPOに対して行う協力
 - ・メディア社の刊行物，ホームページ，メールマガジン等で，G空間EXPO2012を広報する。
 - ・メディア社のイベントカレンダーに，G空間EXPO2012をリストアップする。
 - ・メディア社のホームページに「G空間EXPO2012」のリンクバナーを表示する。
 - ・G空間EXPO2012取材し，刊行物やホームページで報道する。
- G空間EXPOがメディア社に対して行う協力
 - ・G空間EXPO2012公式ウェブサイトの「メディアパートナー」コーナーに，メディア社のリンクバナーを表示する。
 - ・G空間EXPO2012の印刷物のメディアパートナー欄に，メディア社名を掲載する。
 - ・展示会場の「メディアパートナー」のコーナーで，パネル等の展示や，刊行物（見本誌）の展示・配布を認める。



❖ 開催説明会

出展予定者および報道関係者を対象に、開催説明会を開催しました。

- ・日 時： 2011年12月7日（水）
- ・会 場： 経団連会館 ダイアモンドルーム
- ・参加者： 61名
内、報道関係（五十音順）
映像新聞社，建通新聞社，電波タイムス社，東京IT新聞，日刊建設工業新聞社，
日刊建設産業新聞社，日刊建設通信新聞社，日本工業経済新聞社，
道21世紀新聞（NPO人と道研究会），
インダストリ・ジャパン「製造現場ドットコム」
- ・プログラム：
 - 挨拶 G空間EXPO実行委員会 幹事
国土交通省国土政策局 国土情報課長 神山 修
 - 講演 ・「G空間エキスポはなぜ重要？」5つのキーワード
東京大学 空間情報科学研究センター 教授 柴崎亮介
・みちびきによる民間利用実証について
利用実証プロジェクト プロジェクトリーダー
(財)衛星測位利用推進センター 利用推進本部副本部長 松岡 繁
・災害時・平時の安心安全に貢献するG空間情報
国土交通省国土地理院 地理空間情報政策調整官 坂部真一
 - G空間EXPO2012開催概要
G空間EXPO実行委員会 幹事
(社)日本測量協会 副会長 小野邦彦



❖ 「G空間EXPO2012見どころ聞きどころ」説明会

メディアパートナー等，積極的な広報協力社に対して，G空間社会に関する最近の動きやG空間EXPO2012の見どころや聞きどころを説明し，各メディアが行う広報の企画に必要な情報を提供しました。

・日 時： 2012年5月22日(火)

・会 場： 経団連会館 405号室 元禄の間

・参加したメディアパートナー： 11社

GIS NEXT，日刊建設工業新聞，日刊建設産業新聞，日刊建設通信新聞，建通新聞，

日本工業経済新聞，東洋経済新報社，道21世紀新聞，航空ニュース，日刊建設タイムズ，
東京IT新聞

・プログラム：

➤挨拶 G空間EXPO実行委員会幹事

国土交通省国土政策局 国土情報課長 神山 修

➤講演 ・G空間社会の動向とG空間EXPO2012の見どころ聞きどころ

東京大学空間情報科学研究センター 教授 柴崎亮介

・G空間EXPO2012の概要

G空間EXPO実行委員会 幹事

(社)日本測量協会 副会長 小野邦彦

ユーザーへ情報を直接的に発信

❖ ポスター

G空間EXPO2012の訴求対象を「G空間に関わるビジネスや一般成人」とし、展示会等ワーキングチーム構成員により選定しました。決定されたポスターのデザイン視点は、下記のとおりです。

- ・新マーケットの開拓，新技術・新サービスの創造を促すための，G空間の全てがここにある。
- ・ヒトとモノの交流を促してG空間市場の拡充を図り，さらに国際展開を目指す。
- ・宇宙技術利用による高精度位置情報基盤の構築を進め，新市場開拓の機会を生み出す。
- ・安全安心に貢献し，元気な日本を取り戻し，更には，輝かしい未来へと進む。
- ・前回のG空間EXPO（2010）のポスターとの継続性を感じる。



❖ リーフレット

G空間EXPO2012の紹介および出展勧誘のためのリーフレットを制作し、公式ウェブサイトからダウンロードできるようにしました。また、実行委員会の各構成員が開催する会議や学会等で配布されました(約1万部)。

- ❖ 日本語版
- ❖ 英語版
- ❖ 中国語版 (簡体)
- ❖ 韓国語版 (ハングル)

〈作成したリーフレットの一部〉



日本語版 (2011年12月)



英語版 (2011年12月)

日本語版 (2012年4月)



中国語版 (2011年12月)



韓国語 (2011年12月)

❖ 来場勧誘のための案内状ダイレクトメール（リーフレット）

G空間EXPO2012への来場勧誘のため、案内状ダイレクトメール（日本語リーフレット）を制作しました。実行委員会構成員、出展者、シンポジウム実施者、メディアパートナー等の協力を得て、来場勧誘に利用されました。



案内状ダイレクトメールの主な利用例は、下記のとおりです。

- ・月刊『測量』（社）日本測量協会 同梱配布 11,000部
- ・『建設の施工企画』（一社）日本建設機械施工協会 同梱配布 2,834部
- ・『東京IT新聞』6月12日号 同梱配布 10,000部
- ・実行委員会構成員 5,000部
- ・出展者 28,000部
- ・シンポジウム実施者 2,000部
- ・後援（神奈川県，横浜市） 1,000部
- ・その他 10,166部

出展者が行なうプロモーション

出展者の協力により、案内状ダイレクトメール（28,000部）を利用した来場勧誘、出展者のホームページやメールマガジンによる出展告知をしていただきました。

マスメディアを活用したアテンションと興味・関心を惹く情報の提供

❖ TV, 一般紙, 等

開催説明会（2011年12月7日）、G空間EXPO2012見どころ聞きどころ説明会（2012年5月22日）、記者発表（2012年6月15日、18日）を通じて、マスメディア（一般紙やTV）に情報を提供し、一般の方々の興味・関心を惹く広報をしていただきました。（広報実績は後述のとおり）

❖ 駅貼りポスター

- ・みなとみらい線 横浜駅, みなとみらい駅, 馬車道駅, 日本通り駅, 元町・中華街駅
- ・横浜市営地下鉄 横浜駅, 桜木町駅, 関内駅, 新横浜駅

プレイベント

実行委委員会の構成員の協力を得て、G空間EXPO2012プレイベントが開催されました。G空間社会の普及啓発ならびにG空間EXPO2012への参加勧誘が行われました。

➤ 国際会議：空間的思考と地理情報科学 2011

日時：2011年9月14日(水)～9月16日(金)
場所：東京大学駒場リサーチキャンパス（東京都）
主催：東京大学空間情報科学研究センター

➤ 第22回応用測量技術研究発表会

日時：2011年9月20日(火)
場所：測量年金会館（東京都）
主催：(社)日本測量協会

➤ GPS/GNSSシンポジウム2011

日時：2011年10月26日(水)～28日(金)
場所：東京海洋大学 越中島会館（東京都）
主催：(一社)測位航法学会

➤ 関西G空間フォーラム

日時：2011年11月21日(月)～22日(火)
場所：建設交流館（大阪市）
主催：国土地理院近畿地方測量部, (社)地理情報システム学会関西支部, (社)日本写真測量学会関西支部, (社)大阪府測量設計業協会

➤ G空間WAVE2011 CSIS+g コンテンツワールド

日時：2011年11月24日(木)
場所：東京大学駒場リサーチキャンパス（東京都）
主催：gコンテンツ流通推進協議会, 東京大学空間情報科学研究センター

➤ G空間EXPO「関西G空間フォーラム」in 和歌山

日時：2011年12月20日(火)
場所：和歌山ビック愛（和歌山市）
主催：国土地理院近畿地方測量部, (社)地理情報システム学会関西支部,

(社)日本写真測量学会関西支部

➤ **地理空間情報に係る産学官連携強化シンポジウム**

テーマ：地理空間情報が導く未来の姿～GISと出現しつつある最先端の取り組み～

日 時：2012年1月23日(月)

場 所：すまい・るホール（東京都文京区）

主 催：国土交通省国土政策局

➤ **地理空間情報に係る産学官連携強化シンポジウム in 九州**

テーマ：防災・災害と地理空間情報の活用

日 時：2012年1月27日(金)

場 所：水土里ネット福岡（福岡市）

主 催：国土交通省国土政策局

➤ **地理空間情報に係る産学官連携強化シンポジウム in 沖縄**

テーマ：G空間を活用した安全・安心について

日 時：2012年2月2日(木)

場 所：那覇市職員厚生会館（那覇市）

主 催：国土交通省国土政策局

➤ **地理空間情報に係る産学官連携強化シンポジウム in 北海道**

テーマ：地図情報と測位情報の融合による新たなサービス創出に向けて

日 時：2012年2月15日(水)

場 所：北海道大学学術交流会館（札幌市）

主 催：国土交通省国土政策局

報道関係者による開催予告の広報実績

■ 新聞

- ・『日刊建設産業新聞』 2012年5月23日 報道
- ・『日刊建設工業新聞』 2012年5月23日 報道
- ・『日本工業経済新聞』
群馬建設新聞 2012年5月25日 報道
日本工業経済新聞（水戸支局） 2012年5月26日 報道
日本工業経済新聞（速報栃木版） 2012年5月26日 報道
埼玉建設新聞 2012年5月30日 報道
- ・『航空ニュース』 2012年5月号 広告掲載
- ・『日刊建設タイムズ』 2012年5月24日 報道
- ・『東京IT新聞』 2012年6月12日 イベント情報掲載
- ・『神奈川新聞』 2012年6月16日発行 広告掲載
- ・『シティリビング』 2012年6月22日 広告掲載

■ 雑誌

- ・『週刊東洋経済』 2012年6月16日号 「新製品・イベント」 情報掲載
- ・『Coordinates』（インド）Vol. 8, 5号 2012年5月号 広告掲載
- ・『GIM International』 2012年5月号 広告掲載
- ・『GPS World』（アメリカ） 2012年3月号および4月号 広告掲載
- ・『日経コンストラクション』 2012年6月11日号 広告掲載
- ・『森林技術』（一社）日本森林技術協会 2011年12月号（No. 837） 広告掲載
2012年5月号（No. 842） 広告掲載
- ・『測量』Vol.121（韓国測量協会） 2012年3月, 4月号 開催案内掲載
- ・『パシフィコ横浜 イベント情報』Vol. 56 2012年4, 5, 6月号 開催案内

■ ネット媒体

- ・『東京IT新聞』 2012年5月28日 メールマガジン188号 イベント情報掲載
2012年6月11日 メールマガジン189号 イベント情報掲載
- ・『ヨコハマ経済新聞』 ヘッドライン 2012年6月18日 報道

※展示会等ワーキングチーム事務局で確認できたもののみ掲載

（実行委員会構成員の機関誌、メールマガジン等による広報は含まず）

G空間EXPO2012を取材した報道関係者

■ テレビ

- ・日本放送協会
- ・テレビ神奈川
- ・テレビ東京

■ 新聞

- ・朝日新聞 東京本社
- ・産経新聞 東京本社
- ・神奈川新聞
- ・日刊建設工業新聞社
- ・日刊建設通信新聞社
- ・建通新聞社
- ・日刊建設産業新聞
- ・日刊建設新聞
- ・日本工業経済新聞社
- ・東京IT新聞
- ・航空ニュース社
- ・道21世紀新聞
- ・警備新報 ((株)警備保障新聞新社)
- ・農村ニュース

■ 雑誌

- ・GIM International (オランダ)
- ・Coordinates (インド)
- ・(一財)電波技術協会
- ・日経BP社 日経エレクトロニクス
- ・週刊アスキー
- ・GIS NEXT

■ その他 (ネット系, 制作プロダクション, 等)

- ・(株)デジタルズドインフォメーション
- ・(株)ウィブックス
- ・ExpoTODAY ((株)イード)
- ・(株)アートイディア
- ・KSC・ジャパン(株)

※展示会等ワーキングチーム事務局で確認できたもののみ掲載

G空間EXPO2012開催後の報道実績

- ・テレビ神奈川 2012年6月22日
- ・『日刊建設工業新聞』 2012年6月21日
- ・『建設通信新聞』 2012年6月21日
- ・『日本工業経済新聞』
 - 日本工業経済新聞（速報栃木版） 2012年6月22日
 - 新潟建設新聞（日本工業経済新聞社新潟支局） 2012年6月23日
 - 山梨建設新聞（日本工業経済新聞社甲府支局） 2012年6月23日
 - 長野建設新聞（日本工業経済新聞社長野支局・松本支局） 2012年6月23日
 - 日本工業経済新聞（日本工業経済新聞社水戸支局） 2012年6月23日
- ・『日刊建設タイムス』 2012年6月22日
- ・『東京IT新聞』 2012年7月10日

※展示会等ワーキングチーム事務局で確認できたもののみ掲載
（実行委員会構成員の機関誌、メールマガジン等による広報は含まず）

8. 主催者 G空間EXPO実行委員会

産

(五十音順)

特定非営利活動法人ITS Japan, 衛星測位システム協議会,
財団法人衛星測位利用推進センター, 一般社団法人国際建設技術協会,
特定非営利活動法人国土空間データ基盤推進協議会, gコンテンツ流通推進協議会,
一般社団法人全国測量設計業協会連合会, 財団法人地方自治情報センター,
一般社団法人日本経済団体連合会, 一般社団法人日本建設機械施工協会,
財団法人日本建設情報総合センター, 財団法人日本情報経済社会推進協会,
一般社団法人日本測量機器工業会, 社団法人日本測量協会,
公益財団法人日本測量調査技術協会, 財団法人日本地図センター,
一般社団法人日本地図調製業協会, 財団法人日本デジタル道路地図協会,
日本土地家屋調査士会連合会, 一般社団法人日本ロボット工業会,
マルチメディア推進フォーラム

学

(五十音順)

一般社団法人情報処理学会, 一般社団法人測位航法学会,
一般社団法人地理情報システム学会, 一般社団法人電気学会, 日本国際地図学会,
一般社団法人日本写真測量学会, 公益社団法人日本地理学会

官 (関係府省)

(五十音順)

内閣官房, 内閣府, 総務省, 法務省, 文部科学省, 農林水産省, 経済産業省, 国土交通省,
国土地理院, 環境省

官 (独立行政法人)

(五十音順)

独立行政法人情報通信研究機構, 独立行政法人防災科学技術研究所,
独立行政法人宇宙航空研究開発機構, 独立行政法人森林総合研究所,
独立行政法人産業技術総合研究所, 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構,
独立行政法人土木研究所, 独立行政法人国立環境研究所

オブザーバ

(五十音順)

海上保安庁海洋情報部, 一般財団法人日本水路協会

幹事

(五十音順)

社団法人日本測量協会 副会長, 一般社団法人地理情報システム学会 会長,
内閣官房内閣参事官 (内閣官房副長官補付), 国土交通省国土政策局国土情報課長,
国土交通省国土地理院企画部長

(2012年4月現在)

付 録 1

来場者アンケート

対 象 者	G空間EXPO2012来場者	
調 査 日	2012年6月21日(木)	
	22日(金)	
	23日(土)	
抽出方法	無作為	
回答者数	2012年6月21日(木)	508人
	22日(金)	882人
	23日(土)	1,047人
	合計回答者数	<u>2,437人</u>

G空間EXPO 2012 暮らしをささえ、国土をまもり、未来を創る ご来場者アンケート

本日は、G空間EXPO2012にご来場いただき、ありがとうございました。
G空間社会に関わる様々な分野の技術・製品・サービスをご覧いただけましたでしょうか。

お帰りの際に、是非、アンケートのご協力をお願い申し上げます。

このアンケートは、「G空間社会をご理解いただけたかどうか?」、「G空間EXPO2012にご満足いただけたかどうか?」を把握するため、また、「G空間情報を使ってこんなことはできないか?」というご提案をいただくために実施するものです。

アンケートにご回答いただいた内容は、統計処理した結果のみを公表させていただきます。
個々の内容の公表や、目的以外に利用することはありません。

アンケートにご協力いただいた方には、粗品を差し上げます。

G空間EXPO実行委員会・展示会等ワーキングチーム事務局

質問1. お客様の年齢を教えてください。

(✓を付けてください)

- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 19才以下 | <input type="checkbox"/> 20~29才 | <input type="checkbox"/> 30~39才 |
| <input type="checkbox"/> 40~49才 | <input type="checkbox"/> 50~59才 | <input type="checkbox"/> 60才以上 |

質問2. どちらから来られましたか?

(✓を付けてください)

❖関東地方の方

- | | | |
|--|------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 茨城県 | <input type="checkbox"/> 栃木県 | <input type="checkbox"/> 群馬県 |
| <input type="checkbox"/> 埼玉県 | <input type="checkbox"/> 千葉県 | <input type="checkbox"/> 東京都 |
| <input type="checkbox"/> 横浜市 | <input type="checkbox"/> 川崎市 | <input type="checkbox"/> 神奈川県央 |
| <input type="checkbox"/> 神奈川県 (横浜・川崎・県央以外) | | |

❖中部地方の方

- | | | |
|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 甲信越 | <input type="checkbox"/> 北陸 | <input type="checkbox"/> 東海 |
|------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|

❖その他 (関東・中部地方以外)

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 北海道 | <input type="checkbox"/> 東北地方 | |
| <input type="checkbox"/> 近畿地方 | <input type="checkbox"/> 中国地方 | <input type="checkbox"/> 四国地方 |
| <input type="checkbox"/> 九州・沖縄地方 | | |

❖海外 (Foreign country)

Please write your home country

質問3. G空間EXPO2012の開催を何でお知りになりましたか？ (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 案内状	<input type="checkbox"/> チラシ	<input type="checkbox"/> 駅のポスター	
<input type="checkbox"/> G空間EXPOホームページ	<input type="checkbox"/> メールマガジン	<input type="checkbox"/> その他のホームページ	
<input type="checkbox"/> 新聞	<input type="text" value="新聞名"/>		
<input type="checkbox"/> 雑誌	<input type="text" value="雑誌名"/>		
<input type="checkbox"/> 知人	<input type="checkbox"/> 家族	<input type="checkbox"/> 職場	<input type="checkbox"/> 学校
<input type="checkbox"/> その他	<input type="text"/>		

質問4. お仕事は何ですか？ (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 測量・調査・設計	<input type="checkbox"/> 建設・建設コンサルタント
<input type="checkbox"/> 地図・GIS	<input type="checkbox"/> 製造
<input type="checkbox"/> 情報・通信	<input type="checkbox"/> 農業・林業・漁業・鉱業
<input type="checkbox"/> ライフライン (電気・ガス・熱供給・水道)	
<input type="checkbox"/> 交通・運輸	<input type="checkbox"/> 教育
<input type="checkbox"/> 販売・サービス (卸売・小売, 金融・保険, 不動産, 飲食・宿泊, 医療・福祉)	
<input type="checkbox"/> 公務	<input type="checkbox"/> 自由業
<input type="checkbox"/> 学生 (小学校・中学校, 高校, 大学, 専門学校)	
<input type="checkbox"/> 無職	
<input type="checkbox"/> その他	<input type="text"/>

質問5. ご来場の目的は何ですか？ (複数選択可)

<input type="checkbox"/> ビジネス情報	<input type="checkbox"/> 技術動向の調査	<input type="checkbox"/> 同業他社の調査
<input type="checkbox"/> 勉強	<input type="checkbox"/> 遊び	<input type="checkbox"/> 偶々, 通りかかった
<input type="checkbox"/> 何となく面白そうだったから		
<input type="checkbox"/> その他	<input type="text"/>	

質問6. どのイベントに参加されましたか？ (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 展示会	<input type="checkbox"/> 講演：シンポジウム等	<input type="checkbox"/> 体験イベント
<input type="checkbox"/> ベンダーフォーラム		

**質問7. 「展示会」に参加された方にお伺いします。
特に関心をもった分野は何ですか？**

(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 測量	<input type="checkbox"/> 航空・地上レーザー計測	<input type="checkbox"/> 電子基準点
<input type="checkbox"/> 移動体GPS測量機器 (モバイルマッピング)	<input type="checkbox"/> GNSS衛星測位	<input type="checkbox"/> 屋内測位
<input type="checkbox"/> 測位	<input type="checkbox"/> 基盤地図情報	<input type="checkbox"/> GIS (地理情報システム)
<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 海洋調査	
<input type="checkbox"/> リモートセンシング		
<input type="checkbox"/> 生活と地域の活性化	<input type="checkbox"/> 地域計画・都市計画	<input type="checkbox"/> 建設・建築
<input type="checkbox"/> 建設コンサルタント	<input type="checkbox"/> 設計・CAD・CALS	<input type="checkbox"/> 情報化施工
<input type="checkbox"/> 自動化農業 (精密農業)	<input type="checkbox"/> 農林水産鉱物資源管理	<input type="checkbox"/> 観光
<input type="checkbox"/> 交通 (交通安全, カーナビ, 衝突防止, エコドライブ, 自動運転)	<input type="checkbox"/> 運輸	<input type="checkbox"/> 物流
<input type="checkbox"/> ITS(高度道路交通システム)		
<input type="checkbox"/> スマートシティ		
<input type="checkbox"/> 環境 (環境保全, 動物保護)	<input type="checkbox"/> 減災・防災 (地震津波予知, 自然災害シミュレーション)	<input type="checkbox"/> 防犯
<input type="checkbox"/> 震災復興	<input type="checkbox"/> 緊急通報 (救援, 安全誘導)	<input type="checkbox"/> 迷子防止
<input type="checkbox"/> 移動支援 (旅行ガイド, 人ナビ, 街のコンジェルジェ)		<input type="checkbox"/> 地籍・登記
<input type="checkbox"/> 保健・公衆衛生 (感染症対策, 食品安全)		
<input type="checkbox"/> LBS(位置情報サービス)	<input type="checkbox"/> gコンテンツ	<input type="checkbox"/> ジオメディア
<input type="checkbox"/> 位置情報ゲーム	<input type="checkbox"/> 仮想現実・拡張現実 (VR, AR, MR)	<input type="checkbox"/> デジタルサイネージ
<input type="checkbox"/> 3D可視化	<input type="checkbox"/> ロボット	<input type="checkbox"/> マーケティング
<input type="checkbox"/> 通信 (スマートフォン, 携帯電話)	<input type="checkbox"/> 精密タイミング	
<input type="checkbox"/> 海外進出/貢献	<input type="checkbox"/> 教育	
<input type="checkbox"/> その他		

質問8. 「体験イベント」に参加された方にお伺いします。

主催者および出展者が行った様々な体験イベントのうち、特に関心をもった体験イベントは何ですか？

(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 測量船の見学	<input type="checkbox"/> 自律測線走行無人リモコンポート体験デモ
<input type="checkbox"/> 屋内GPS体験イベントバーチャル世界ツアー	<input type="checkbox"/> 移動体GPS測量機器による屋外試乗体験
<input type="checkbox"/> 屋内歩行者ナビサービスを体験しよう	<input type="checkbox"/> 「SpaceWalk」で鳥になって見つけよう
<input type="checkbox"/> 小型無人飛行機 (UAV) のデモ飛行	<input type="checkbox"/> 放射線測定器付きGNSS測量機「ホットスポットナビ」の実演
<input type="checkbox"/> 放射線測定器付きGNSS測量機「ホットスポットナビ」の実演	<input type="checkbox"/> 測量コンテスト
<input type="checkbox"/> 測量コンテスト	<input type="checkbox"/> 距離を測る体験
<input type="checkbox"/> 情報杭を利用してブース情報を確認しよう	<input type="checkbox"/> 巷で話題の「ボディースキャン」を体験しよう
<input type="checkbox"/> モバイルレーザー点群の3次元体験	<input type="checkbox"/> これが日本列島周辺の海底地形だ！
<input type="checkbox"/> 間違い探しに挑戦	<input type="checkbox"/> 災害時の帰宅マップ検索システムの実演！
<input type="checkbox"/> GISを体験！	
<input type="checkbox"/> スマートフォンやタブレットをかざすだけ！「空間情報可視化ツール」のご紹介	

関心をもった理由をご記入ください。

質問9. 「G空間社会」とはどんな社会か、ご理解いただけただけでしょうか。

(✓を付けてください)

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> よく理解できた | <input type="checkbox"/> 少し理解できた |
| <input type="checkbox"/> まだ、よく理解できない | <input type="checkbox"/> 全く理解できない |

ご意見があればご記入ください。

質問10. 「G空間EXPO2012」に来てよかったですか？

(✓を付けてください)

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 十分に満足した | <input type="checkbox"/> よかった |
| <input type="checkbox"/> いまひとつ | <input type="checkbox"/> よくなかった |

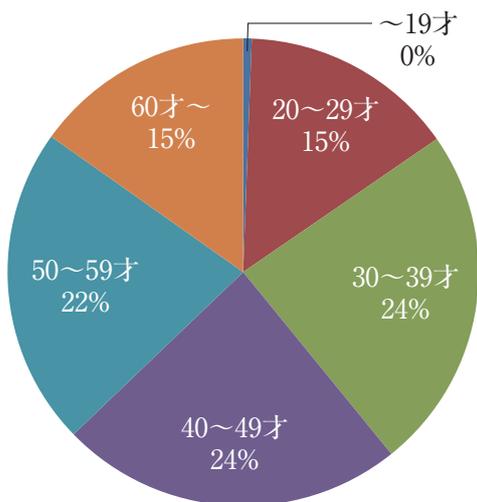
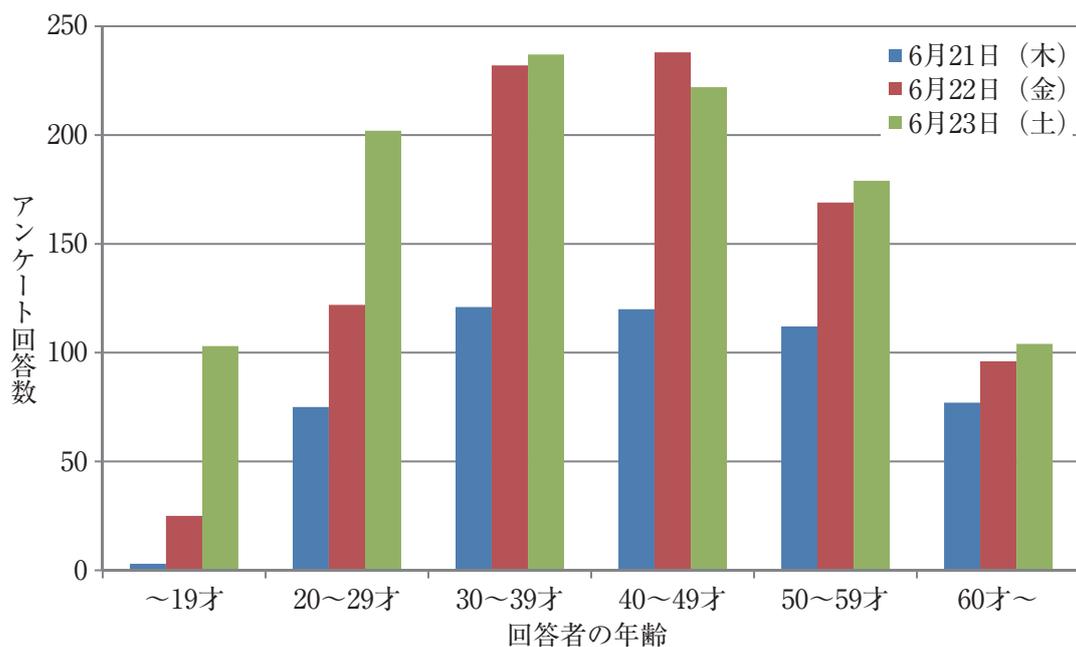
ご意見があればご記入ください。

質問11. G空間情報を使って、「こんなことはできないの?」とか、「こんなサービスがあると便利だと思うが…」という提案があれば、ご記入ください。

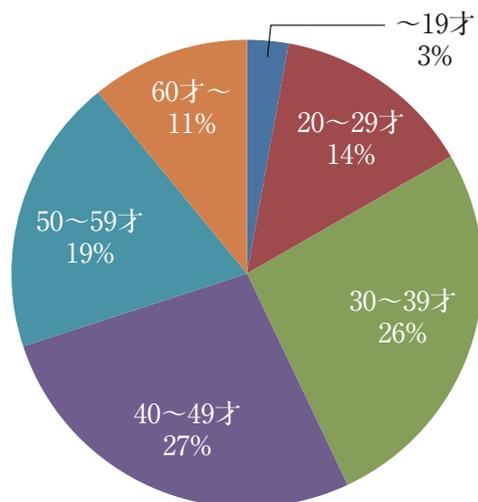
ご協力ありがとうございました。

アンケートを係の者にお渡しいただき、粗品をお受け取りください。

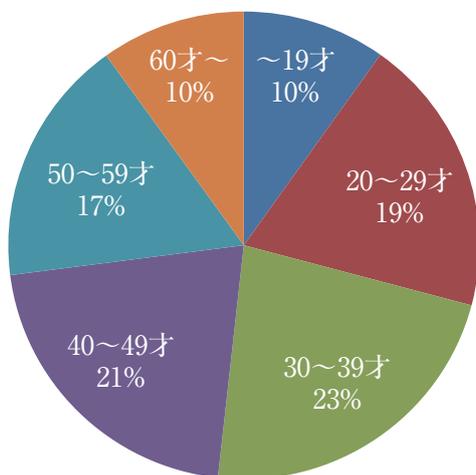
質問 1. お客様の年齢を教えてください。



6月21日(木)

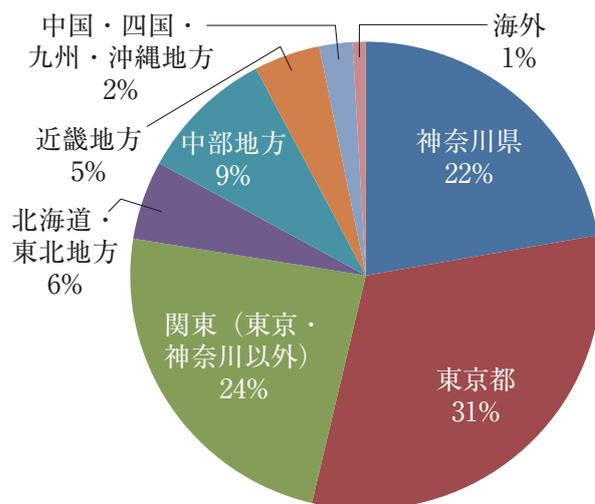
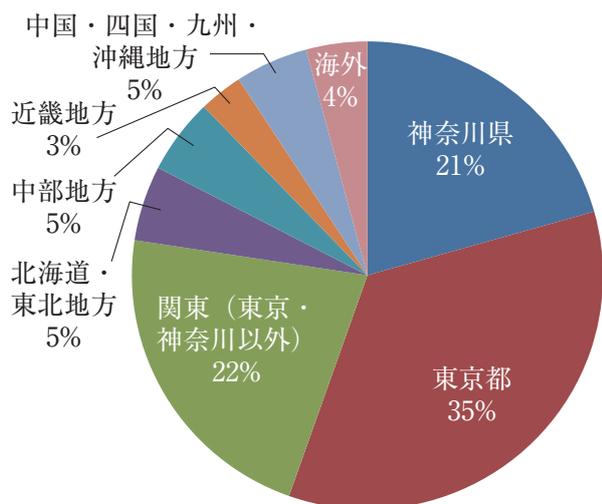
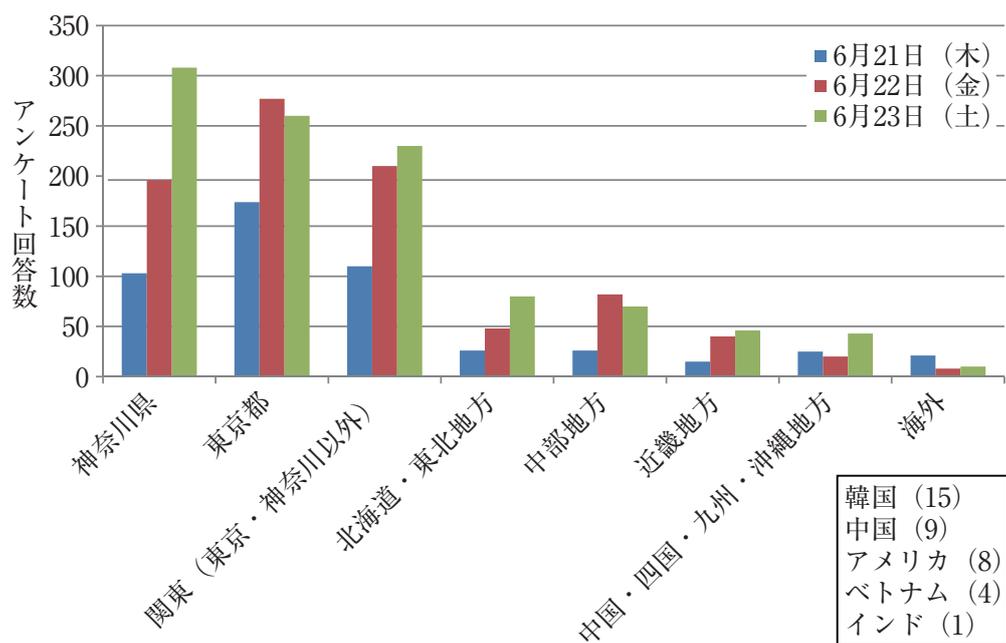


6月22日(金)



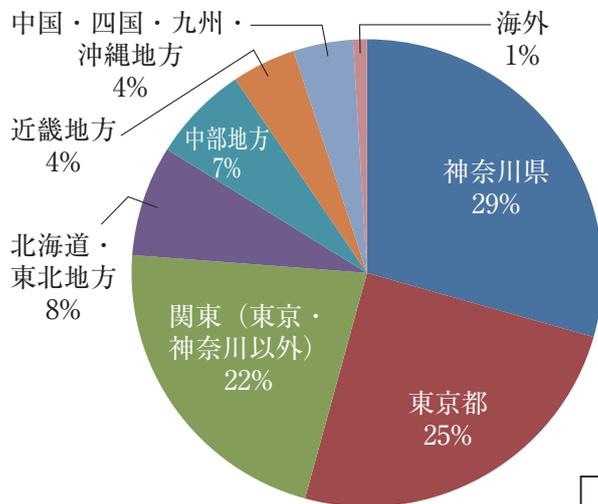
6月23日(土)

質問2. どちらから来られましたか？



6月21日(木)

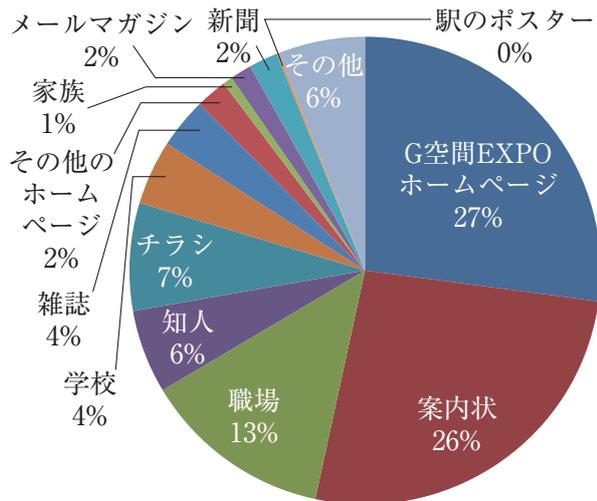
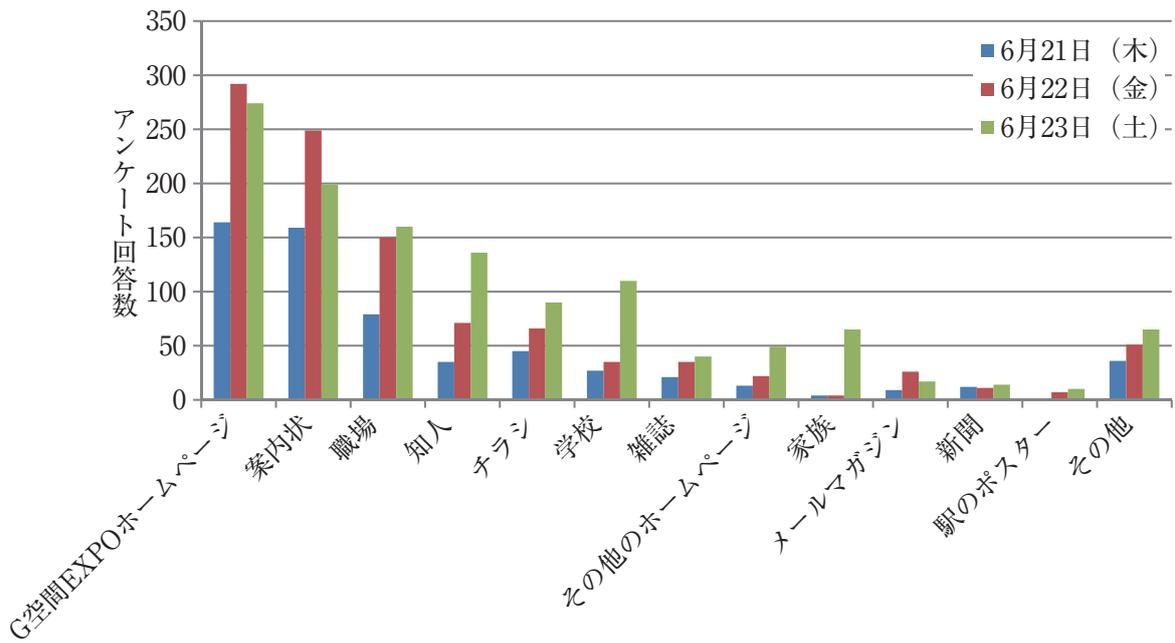
6月22日(金)



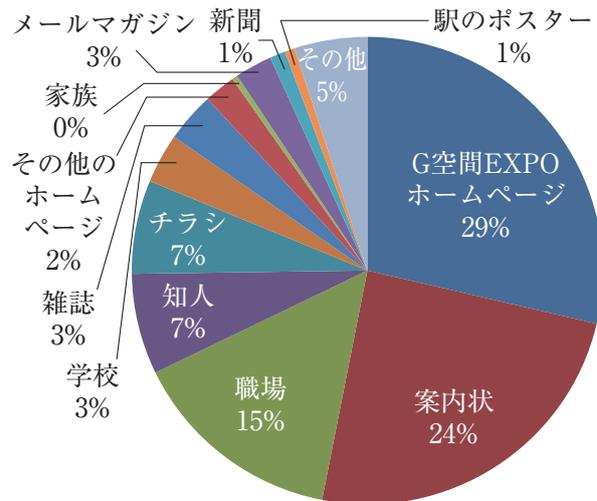
6月23日(土)

質問3. G空間EXPO2012の開催を何でお知りになりましたか？

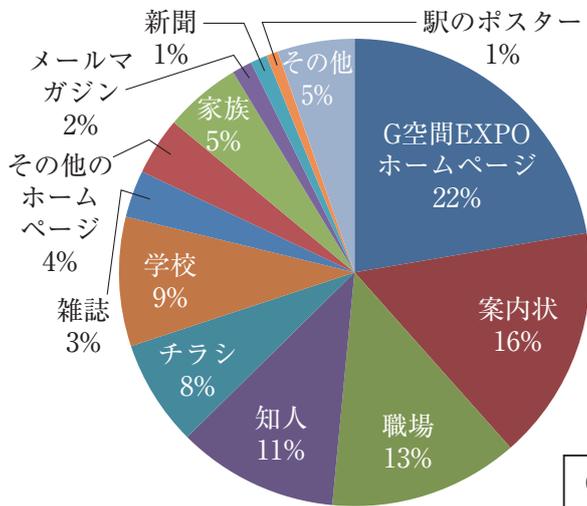
(複数選択可)



6月21日(木)

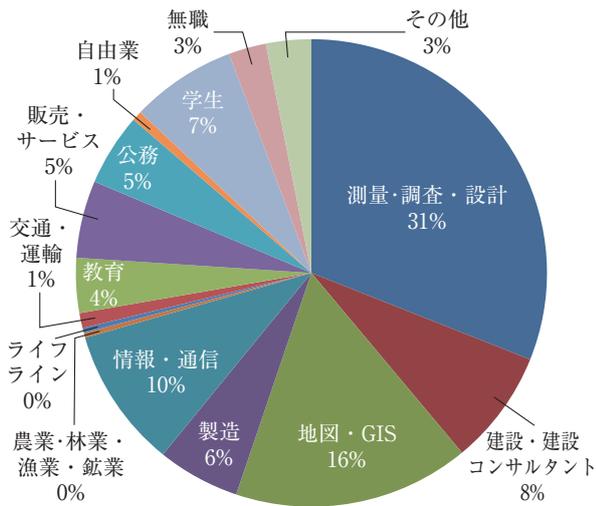
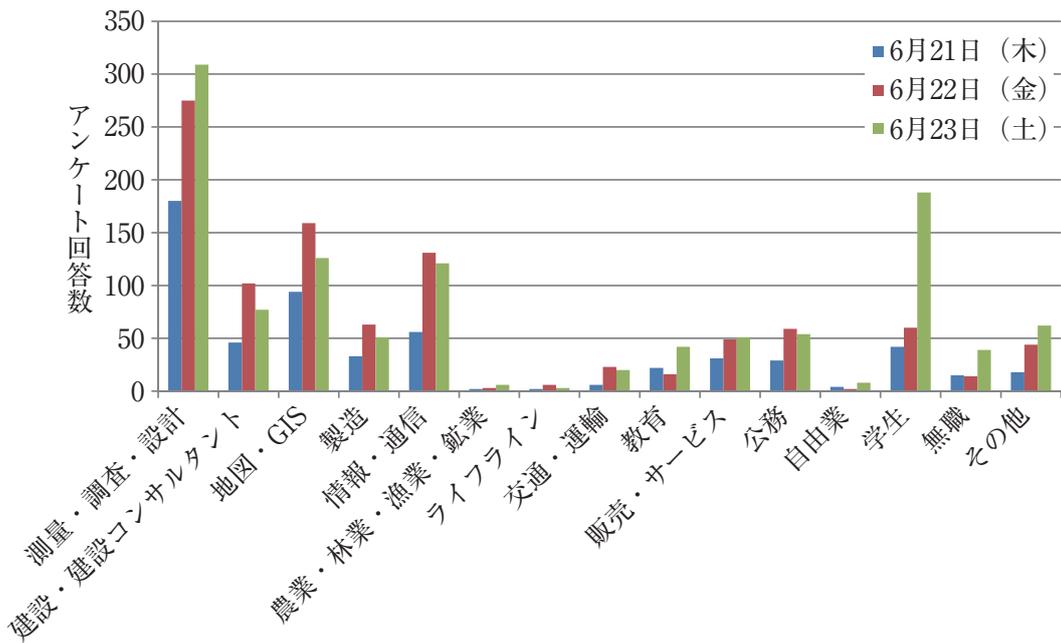


6月22日(金)

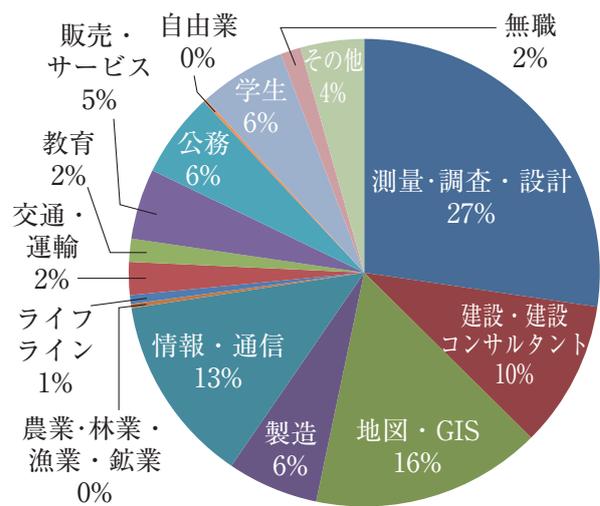


6月23日(土)

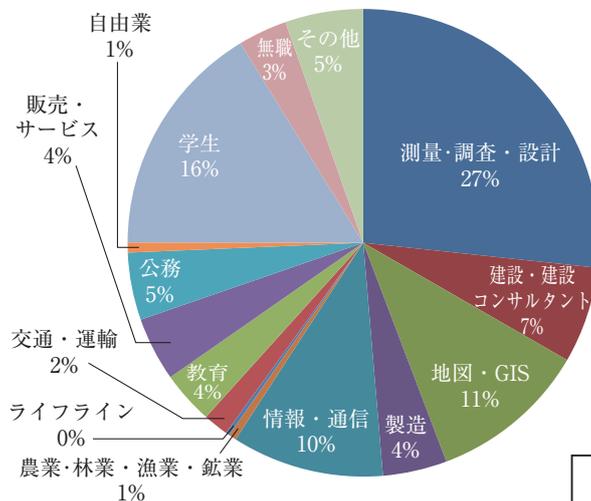
質問4. お仕事は何ですか？(複数選択可)



6月21日(木)

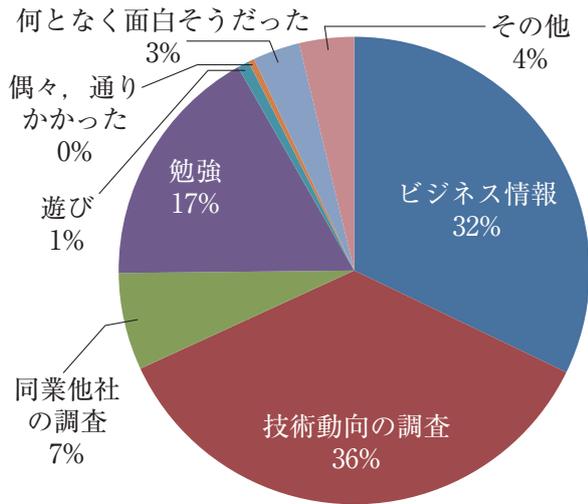
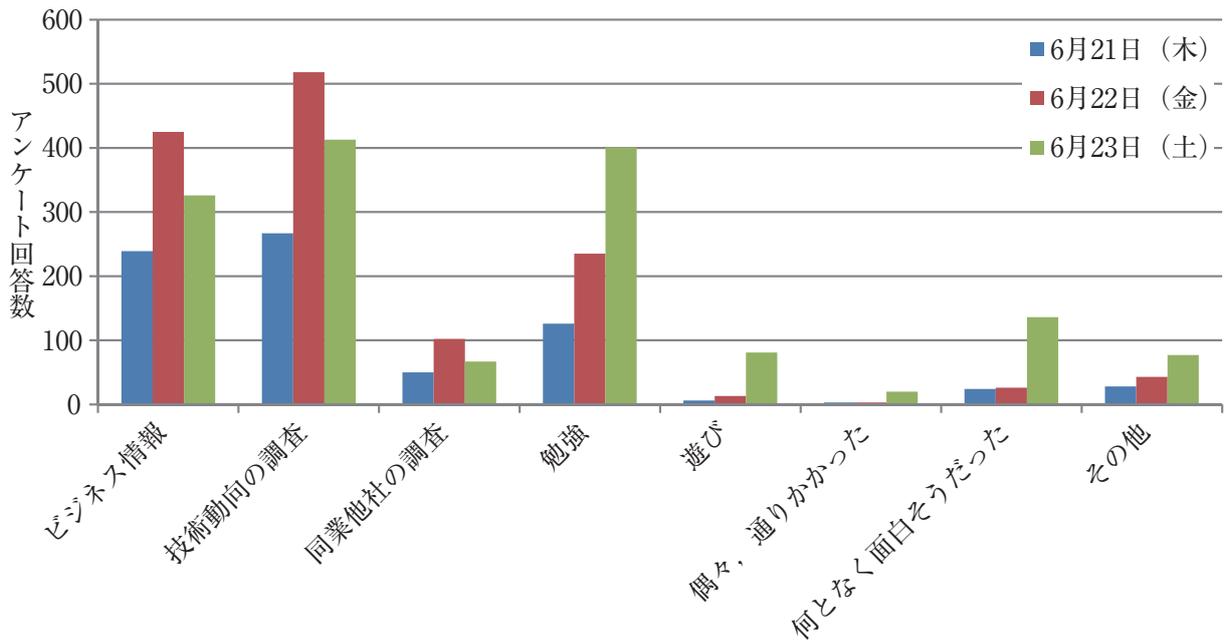


6月22日(金)

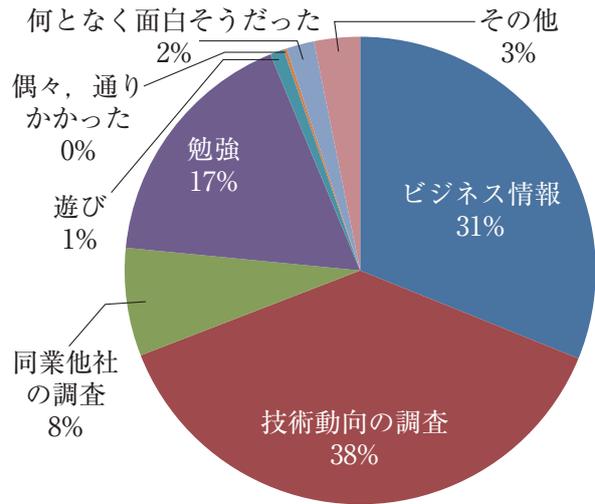


6月23日(土)

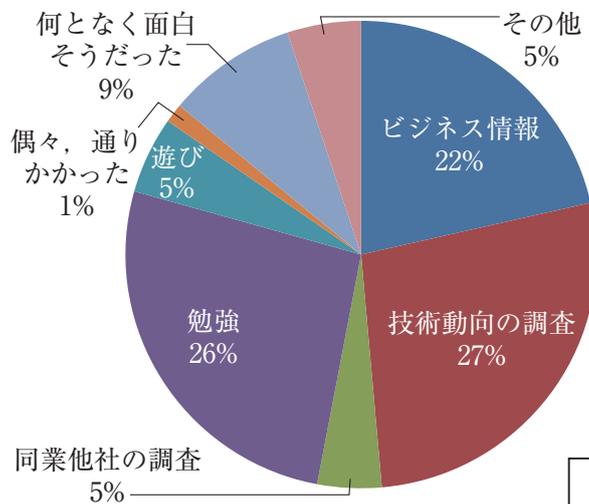
質問5. ご来場の目的は何ですか？(複数選択可)



6月21日(木)

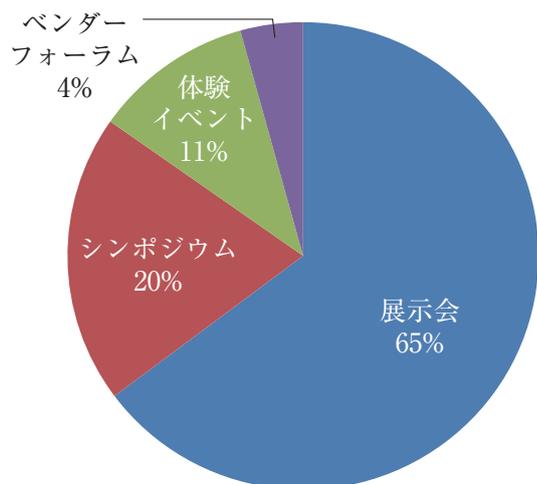
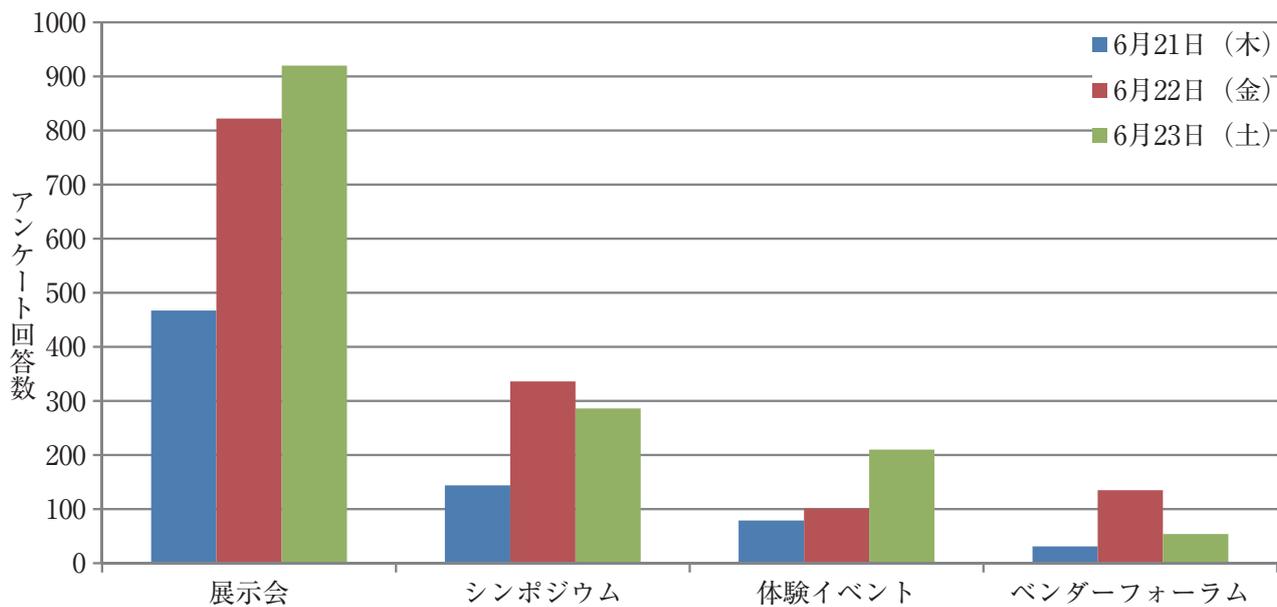


6月22日(金)

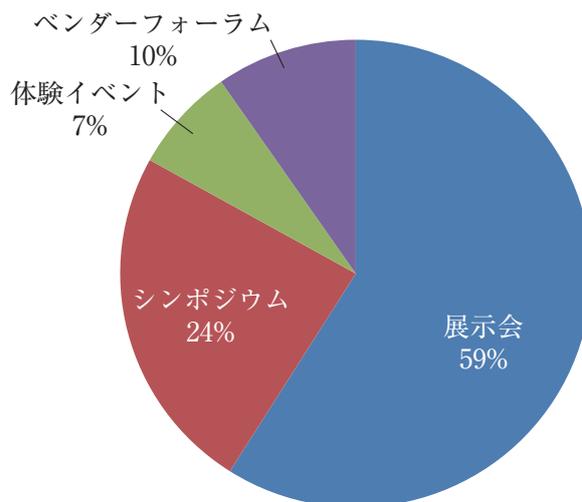


6月23日(土)

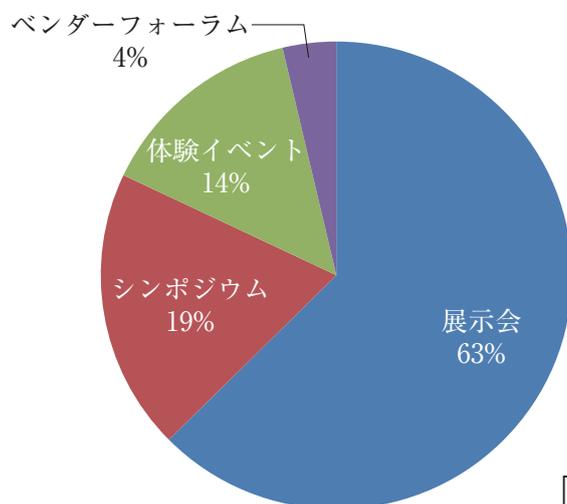
質問6. どのイベントに参加されましたか？(複数選択可)



6月21日(木)

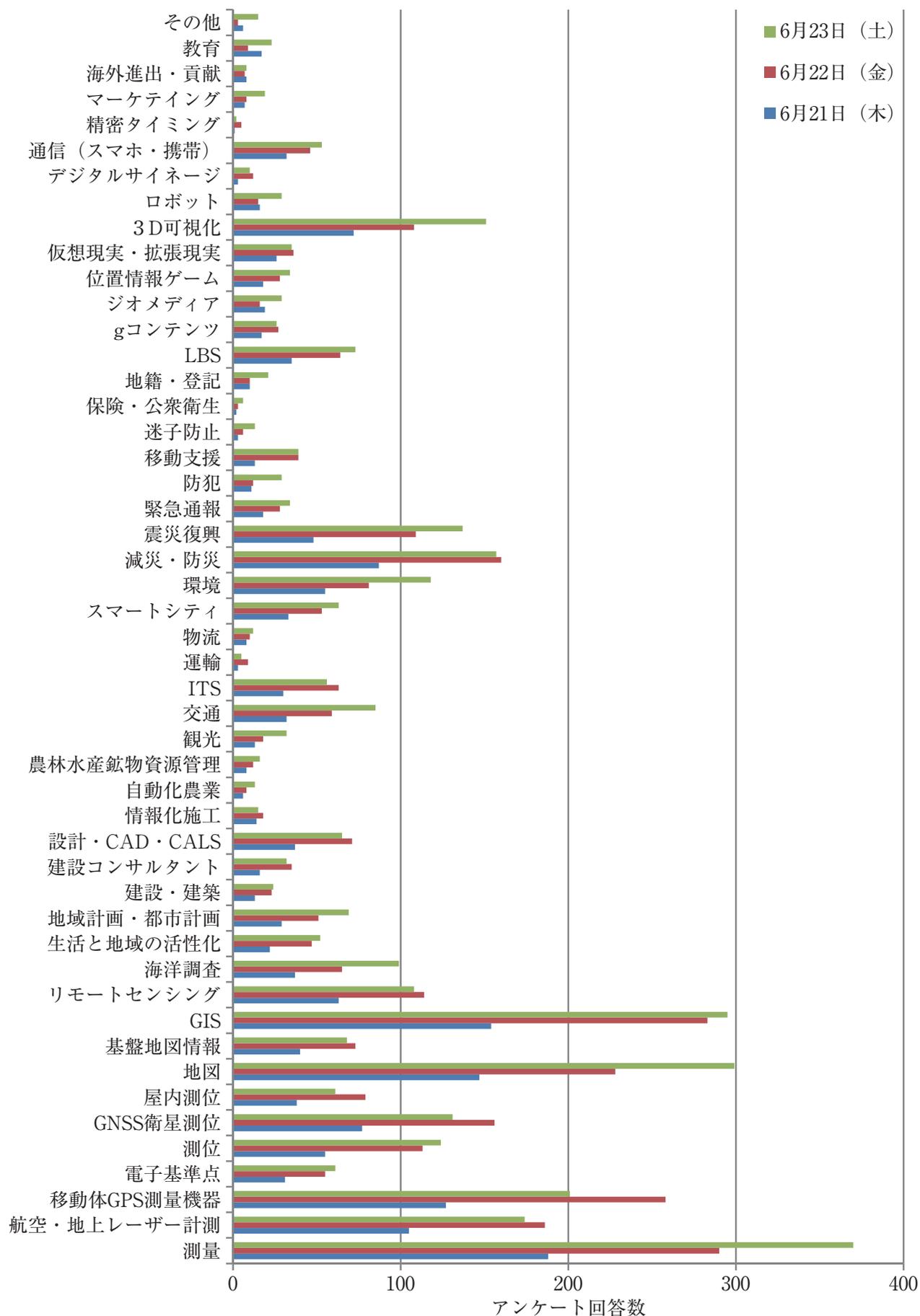


6月22日(金)

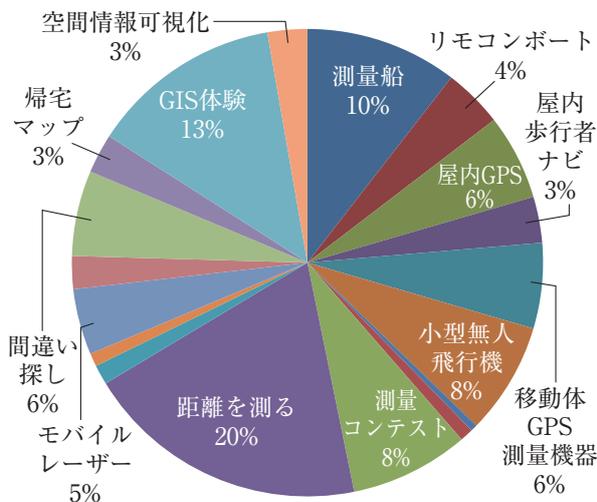
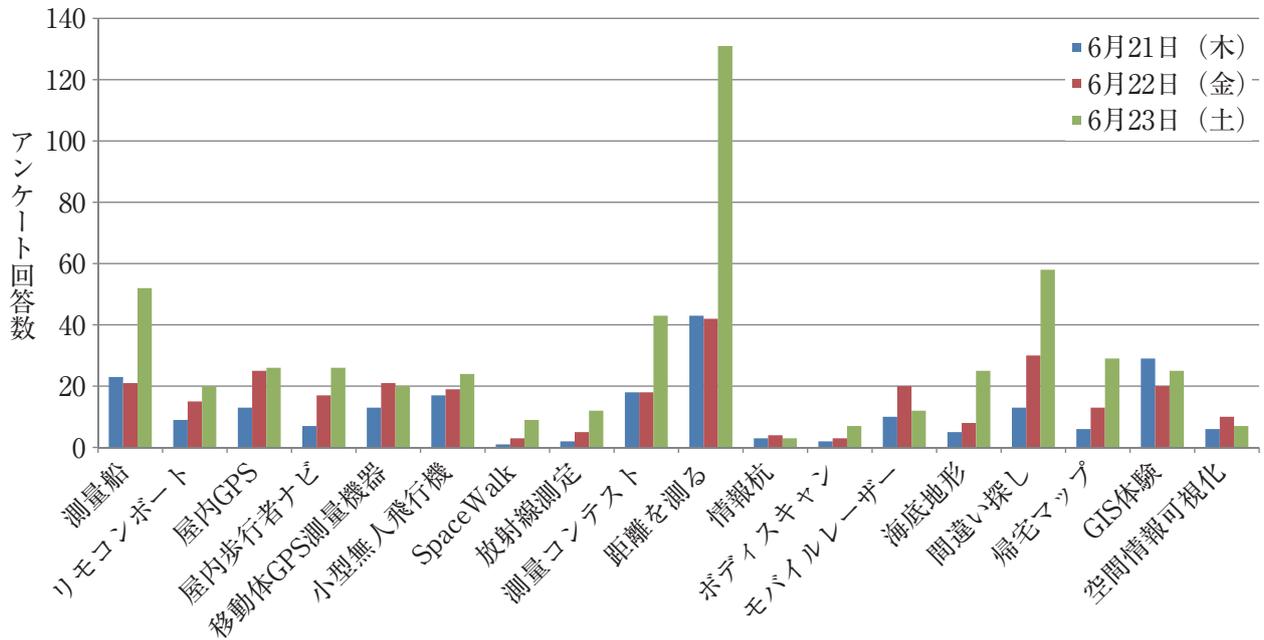


6月23日(土)

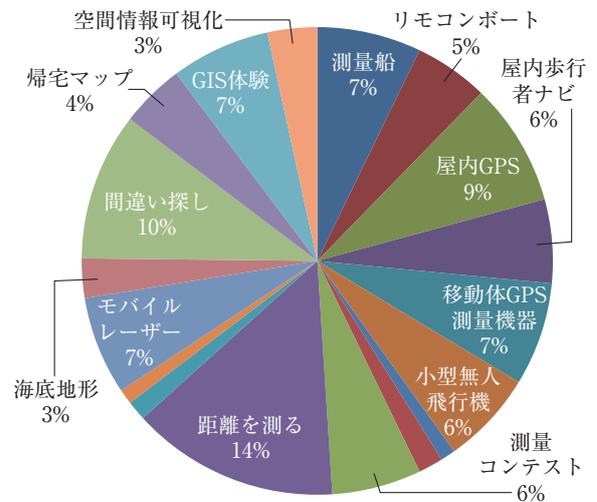
質問7.「展示会」に参加された方にお伺いします。
特に関心をもった分野は何ですか？(複数選択可)



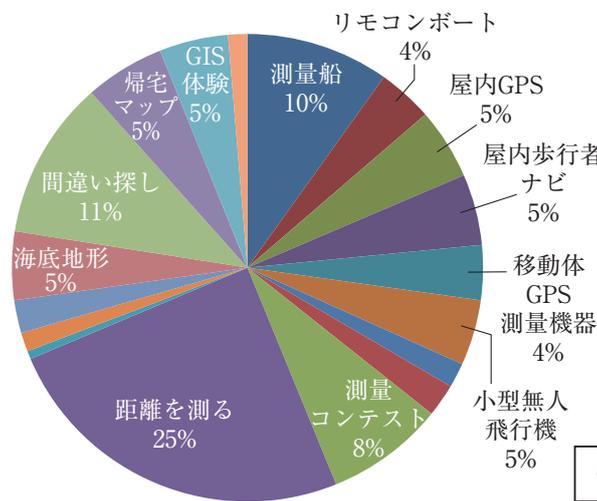
質問8. 「体験イベント」に参加された方にお伺いします。主催者および出展者が行った様々な体験イベントのうち、特に興味をもった体験イベントは何ですか？
(複数選択可)



6月21日(木)

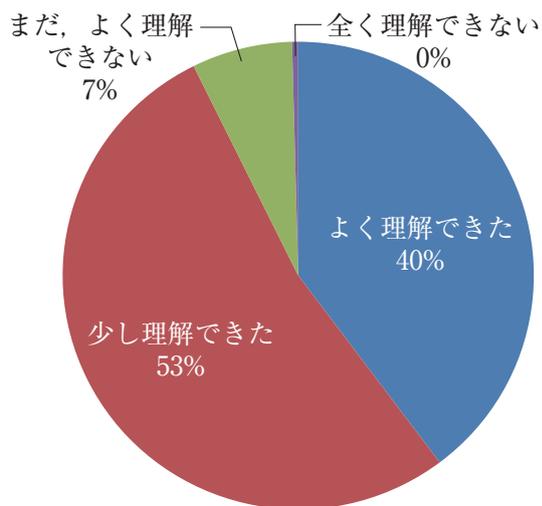
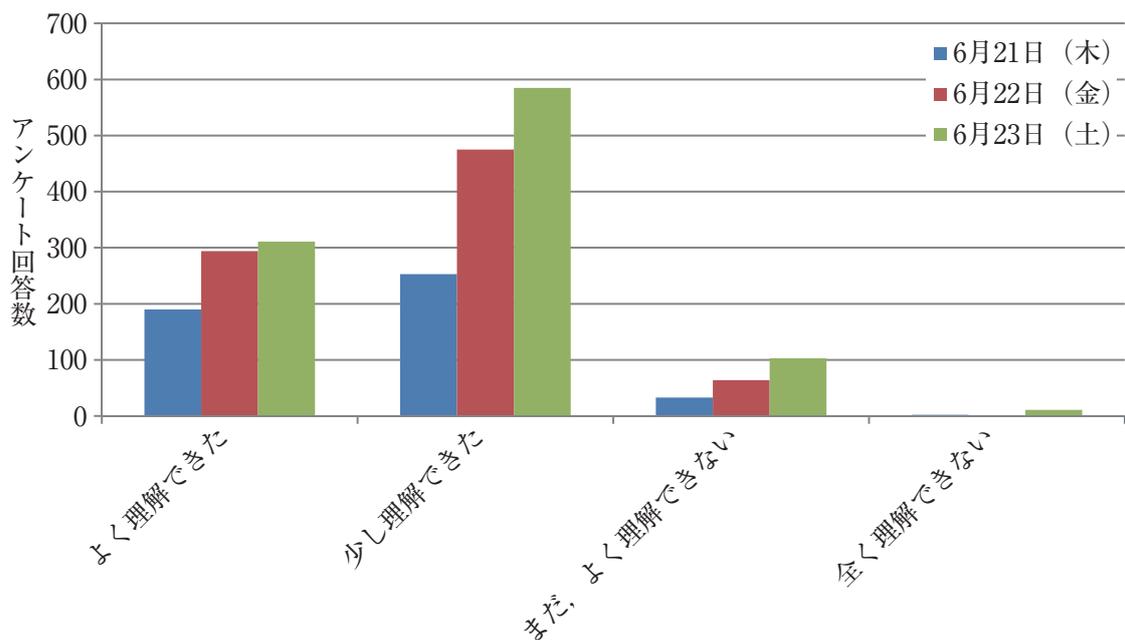


6月22日(金)

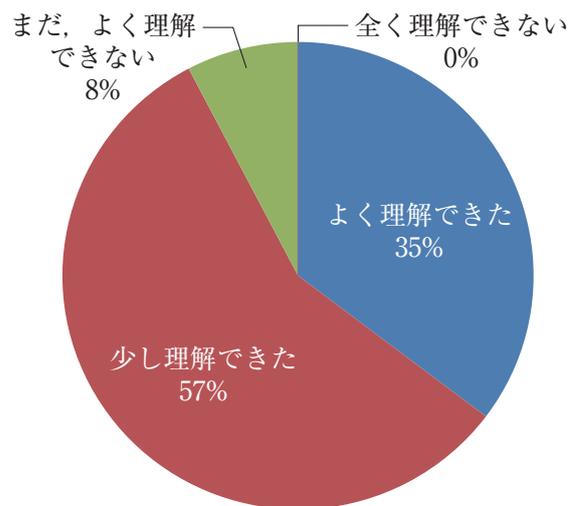


6月23日(土)

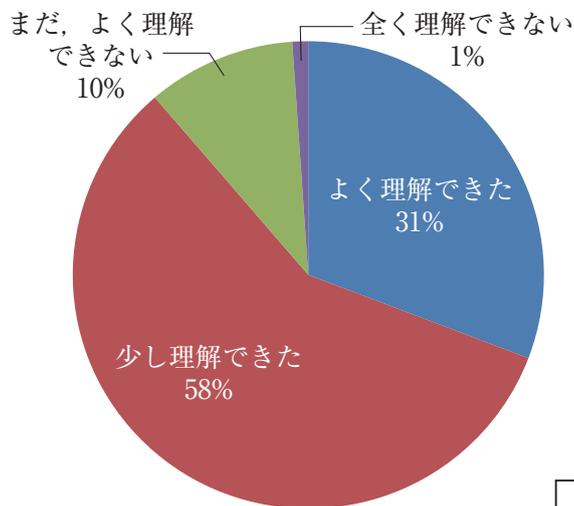
質問9. 「G空間社会」とはどんな社会か、ご理解いただけましたでしょうか。



6月21日(木)

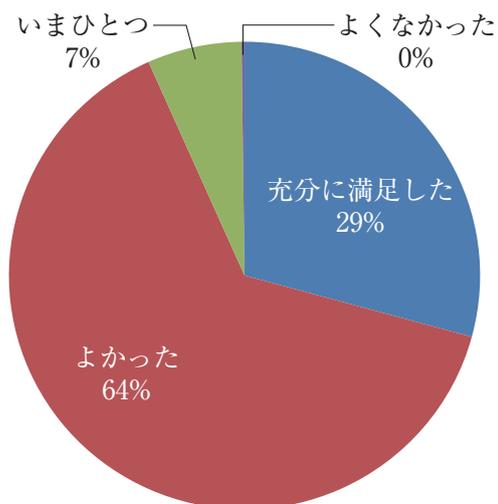
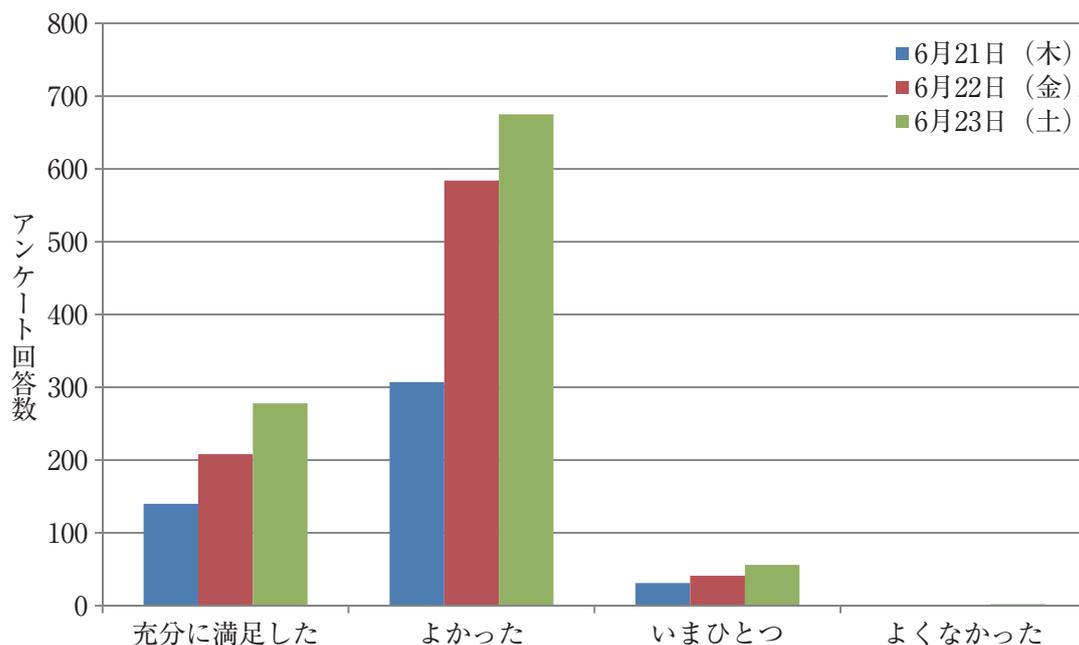


6月22日(金)

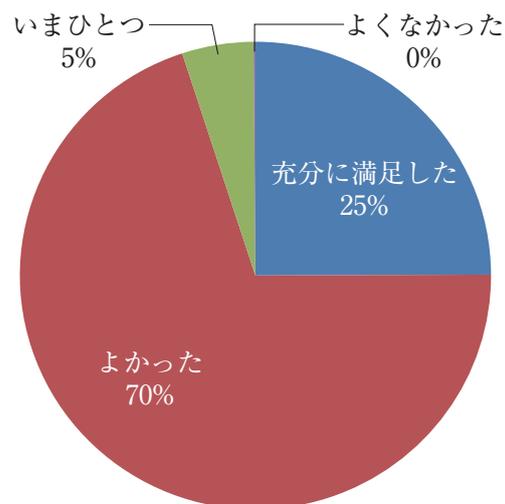


6月23日(土)

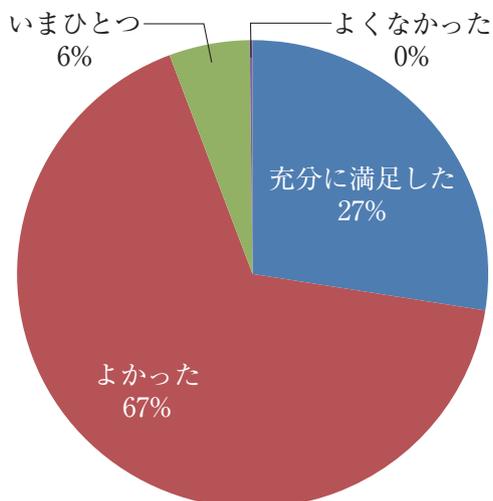
質問10. 「G空間EXPO2012」に来てよかったですか？



6月21日(木)



6月22日(金)



6月23日(土)

【来場者の意見】

■ G空間社会について

- ・今後の進展が楽しみです。
- ・GISのソフトウェアを使用したことがあるが、今後様々な情報を付加させてより便利に利用できることが分かった。
- ・早く衛星が打ち上がる事を望みます。
- ・地域社会、地域コミュニティーとのかかわりが不明確
- ・これからは意識するとしないうちに「G空間社会」で生活することになります。意識しないでも生活出来るように、先兵たる学会・業界の方々の努力を期待しております。
- ・Gデータまではわかるが、G空間社会までは行っていないのでは
- ・分野が多岐に亘るので理解が難しい
- ・まだまだ認知度が低いのではないのでしょうか
- ・一般的にネットで出回っている地図と測量の違いから、位置情報の違いが簡単にわかるとよい
- ・地図はかなり多様な使い方ができるということは理解出来たが、まだまだ奥が深くて全てはわからないと感じた
- ・生活の基盤を支えてくれたり自然観測に大きく貢献していたりするのに身近にその便利さ、すごさを感じられるところまでまだきていないのが少し切ない
- ・「G空間」という言葉の簡単な説明がまず必要と思います
- ・“G”は何ですか？
- ・「G」とは何ですか
- ・ここまで広い分野にわたっていることに驚いた
- ・近未来的には、様々な技術が必要不可欠になると感じた
- ・様々な所で空間情報が使われているのがわかった
- ・安全・安心に努力する工夫が大事かな？
- ・もっと勉強します。
- ・災害時に避難のための情報が配信され、携帯端末にリアルタイムで表示されることがうれしい

■ G空間EXPOについて

- ・年に一度でもいいから毎年やって欲しい
- ・この様な企画がさればまた参加したい。
- ・勉強になりました
- ・子供向けにも行ってほしい
- ・たいへん勉強になりました
- ・続けてほしい
- ・Very interesting and educational.
- ・今後も続けてほしい
- ・知らないことが多く少しでも勉強になりました
- ・地理空間の重要性を確認できました
- ・来年も参加する
- ・未知の技術に触れることができ、貴重な体験となった。
- ・こういった経験は社会に入っても役立つと思う。
- ・今回初めて来場させて致しましたが、とても勉強になりました。期会があれば、また来場したいと思います。
- ・都内で実施して下さい。
- ・土曜日の開催の集客がむずかしそう
- ・次回も期待しています!!

- ・おもしろかったです。
- ・19時くらいまでやってほしいです。
- ・研究しようか迷っていた分野だったので参考になった
- ・今後の参考にします
- ・横浜以外の会場もお願いしたい。
- ・学生を対象とした企画みたいなのがあったらよかった。(この業界に就職しようかなと考えている人に対して、企業が簡単にでも自社アピールみたいなものをする場を設けるとか)
- ・今後も続けてください。
- ・今後もパシフィコ横浜での開催を希望
- ・来場者数を増やすよう、イベントを企画して頂きたい。
- ・また来年もと望みます。
- ・前回のEXPOに比べて、楽しさが減少している。
- ・派手さはなかったが、着実な進歩を感じた。
- ・できればビッグサイトとかでやってほしい
- ・2010年と比べて、新しいと感ずることが少なかった。
- ・将来、世界を見るのが楽しくなってきた
- ・2010年より盛り上がり欠けています
- ・興味がある人が気軽に立ち寄れて、G空間について知る機会があり、よかった
- ・もっと詳しくなってまた行きたい
- ・四国でもやってほしい
- ・もう少し子供でも楽しめる展示やイベントがあればよかった
- ・開催場所が遠い
- ・最新の情報が得られてよかった
- ・楽しかった
- ・来年も開催してほしい
- ・来年の春から出展されている企業に就職するので、他の企業の動きや、空間情報事業全体の動きが勉強できて良かったです
- ・国関係が主。他業界からは遠い
- ・今ひとつ、今後の自分の生活にどう関わってくるのか(もうすでになんかG情報に支えられていたことも知りましたが)まだ、ピンとこなかったというかイメージできなかったのも、結局産業ビジネス分野の人向けなのだなという印象
- ・もう少し一般的にするといいのかなと思った。内容的にはけっこうおもしろいのもったいない
- ・木・金・土の日程はとても良かったです
- ・東京国際フォーラムで開いてほしいです
- ・視野が広がりました。よかったと思います。
- ・2年前のように、子供たちが参加できるイベントだったらよかったと思います(2年前は子供と来ました)
- ・もっとたくさんの方が来場していただけたらいいですね。
- ・もう少しにぎやかになればと思っております。その為の工夫を検討できないか?
- ・3.11以降、防災面の技術、航空計測が伸びているのを感じられました。ありがとうございます。また開催希望です。
- ・子供向けのサービスが欲しかった
- ・年に2回ほどやってほしい
- ・土・日開催が良い
- ・埼玉でも開催して欲しいです

■ 展示会について

- ・とても分かりやすかったです
- ・老人にもわかりやすくお願いします。
- ・コーナーが何の目的で構築されているのか、一目でわからない
- ・展示ブースは、パソコンの中にコンテンツが入ってしまって、見て触れて動かして感動する様な事が少なくなった。
- ・より具体的な展示が見たい
- ・位置情報を用いた一般的なサービスについて、もっと知りたかった
- ・17時閉場が少し早すぎる気がする
- ・G空間について説明が少なく、探してなんとかそれに近い説明があるという感じでくわしく説明ができてなかった
- ・測量や分析・解析は多く楽しめ、理解できた。しかし、それを利用したサービス、アプリケーションが少なく残念でした。G空間社会に一番大切なのは最終的にそこにある気がしました。
- ・学生も多く来場されているので、もう少し言葉を優しく言った方がいいと思う
- ・大変興味深く、知りたい分野があったが、入り口で抵抗を持ってしまった。
- ・興味深い研究を行っている
- ・確かにGISはこれからの大事な部分ですが、パソコン上の展示になり、展示ブースが少々とっつきづらい
- ・漢字にふりがながあったらいいと思う
- ・個人参加の場合、実物に触れてみたくても営業の関係で購入不可がわかっているの、どんなものかわからない。知る機会がないのが残念
- ・展示の工夫が必要？インフラとのつながりがイメージしにくい
- ・軍、警察とかのブースがないのがふしぎ
- ・大学生にもっと参加してもらった方がいいと思います
- ・大学で先生が言っていた会社のお話がきけて良かった
- ・もう少し子供向けの物があるといいと思います
- ・ステージイベントがあると良いと思います
- ・一般向けの展示ももう少しあったらと思います
- ・海外の情報が見られるとうれしいです
- ・企業説明ばかり、よくわからなかった
- ・今年は出展が少なかったと思う
- ・木曜日の昼下がりに来場者が少なく、各ブースでじっくり話を聴くことができよかった。
- ・2年前に比べ、規模の差が有りすぎる。
- ・前回（一昨年）より規模が小さくなって残念。関連事業が活性化することを期待します
- ・スマートシティ関連の充実
- ・もっと他の会社が増えればいいと思う
- ・位置情報が進んでいてビックリしました。
- ・メーカーの方がきちっと説明していただきよかった
- ・前より小さい？
- ・しばらく来ていなかったが、毎年来るべきと感じました。
- ・今後、社会の変化と共に地図がどの様になって行くのか変えようとしているのか、もっと前を出して説明してほしい。
- ・本来の目的（G空間によるITS）以外の、測量自体が良くわかった。
- ・パネルだけのブースなら要らない。Webで十分。体験とおみやげがないと意味がない。
- ・これまでより活気がないように思われる
- ・百聞は一見にしかず。実物の一端で見れば理解が増すと思います。
- ・出展企業が少ない

- ・ブースを回るのに順番を付けにくい。パンフの社名をあいうえお順で検索できるとよい。
- ・名刺ホルダーを来場者に配ってほしい
- ・すいていてじっくり見学できました。説明員が丁寧でよかった。
- ・スマートフォンを使った（使う側）のAR展示が見たかったが…どこに展示されているのかわからなかった
- ・最新の技術を見せてもらって良かった
- ・レーザー測量について感心した
- ・空調をきかせてほしい
- ・もう少し出展社をふやしてほしい
- ・以前のように、もう少し出展社が多いと良いと思います
- ・専門的過ぎる傾向もあり、もう少し一般的な内容、普及啓発用の内容もあった方が良いと思います。昼食、飲み物の売店がもう少しあった方が休憩しやすく感じます。
- ・GNSSのエンジニアであるが、「位置情報」を利用した様々なアプリケーションの展示を見て勉強になった。
- ・教育の実践例をもっと多く出して欲しい
- ・展示の内容が例年より減少に感じた
- ・説明をゆっくりと
- ・去年も来場しました。もう少し大学の研究の発表があれば良かった。
- ・各スペースでの説明に活気がない
- ・もう少し測量の機械等のアナログ展示などがあると良い
- ・航空、宇宙の分野をもう少し多く行ってほしい。NICTでも興味深い研究を行っている
- ・似たような技術や製品が多かった
- ・出展数が少ない。メーカーの元気がない
- ・パネル展示だけのブースは近寄りにくい感じがするので、もう少し工夫があるといいと思います
- ・測量機が見たかったが満足した機器が見られなかった
- ・丁寧に説明してもらえてよかった
- ・皆さんに親切に説明していただきとても分かりやすかったです
- ・KK(株)が印象に残りました
- ・内容が豊富でわかりやすく説明してくれた。前回は面白かったので今回も来た。
- ・どの出展ブースにも「見て見ぬふり」を見受けられる。
- ・地域一体型のGISの考え方がある企業が良かった
- ・会社によって話しかける所とそうでない所があって。もう少しアクティブに話してくれるとうれしい
- ・各社の質の低下が感じられた
- ・縮小傾向にある。各社のブースの広さ等。
担し、一般（子供）向けのキカクはすばらしい
- ・モバイルツールとの連携が知りたかった
- ・出展側がもっと多ければ良いと思う
- ・展示ブースが少なかった
- ・サービスについては新しい知識を得られて良かったです。できればもっと地理情報自体の（国土地理院等）展示があると学生としては役立つと感じました
- ・展示品を実際に触れてよかった
- ・今回、学生ブースにポスター等の展示を行ったのですが、事前に配られた説明用紙では、寸法が分かりにくかった
- ・もう少し明るい方が良い
- ・出展企業の概要、連絡先等を記入したガイドブックがあればよい
- ・海外の展示を多く入れてほしい
- ・ATTENDEE'S TO HAVE NAME TAGS IDENTIFYING THEIR NAME AND COMPANY

- ・「G空間」という言葉がまだ世の中に浸透していないのでもう少しわかりやすいお展示があってもよいと思います
- ・GNSSに関する情報をもっと増えとうれしいです。
- ・測量機器の展示
- ・年々縮小の傾向にあるようですが、来年度はがんばってください
- ・音楽等にぎやかにした方がよい
- ・もう少し活気のある展示になるような工夫
- ・モバイルマッピングシステムを展示してほしかった
- ・測位システムが多かったが、地震に対する防災対策のブースももっと多く設けてほしかった
- ・もっとアプリケーション、レイヤ的なものの展示を増やして欲しい
- ・思ったよりブースが少数だった。もっと大きなイベントになればいいと思う。
- ・GISを用いたものをもう少し展示してほしい

■ 講演・シンポジウム等について

- ・講演の席を増やしてほしい
- ・シンポジウムが重なっていて、聞きたいものが聞けなかった
- ・事前登録制と講演の充実
- ・講演に参加しなかったのですが、満席で、参加できなかったのも、その辺を改善していただけると、ありがたいです。

■ 体験イベントについて

- ・体験イベントの場所がわかりづらい
- ・もう少し体験イベントを増やして欲しい。
- ・体験をもっとふやしてほしい
- ・船を見に来たのに残念でした。
- ・親子が来て楽しめる、体験もできる内容もとり入れるともっと入場者が増えたと思います。また、小～高の先生向けコンテンツがあると、喜ばれるのではないのでしょうか。
- ・私が計算して図面化し、方位角と距離の計算（東京スカイツリーから富士山や方々の山までの方位角と距離の計算）ができたことで目的を果たせた
- ・いろいろ体験ができ勉強になった
- ・体験コーナーでは具体的に内容がイメージできた為、事前知識なしでも楽しめた。
- ・IMESのゲーム楽しかったです。
- ・雨によりイベント中止が残念です。
- ・測るイベントが少ないのでは
- ・以前より子供向けの物が少なくなった
- ・マップMEMOは面白い。衛星写真クイズがマニアックで面白かった
- ・マップMEMOが最高でした。衛星写真クイズ3Dもよかったです
- ・体験イベントをしている所は、共通のマークをそのブースに置いてあるとわかりやすいと思います
- ・簡単な測量体験ができればよい。
- ・体験をふやしてほしい。
- ・IMESのような会場全体の取組みを強化してほしい。
- ・測量杭の内臓チップを利用したオリエンテーションゲーム。コースを子供向け業界向け、学生向けの様に作って、見て回る人々に楽しみを与えてはどうか。
- ・体験イベントがもっとたくさんあるとうれしい
- ・もっと体験をふやしてほしい
- ・工事現場の見学があればいいと思う。
- ・位置計測（外部）の実演

- ・子供イベント（メーカー側）
- ・測量コンテストにも，大きなブースを用意してもらえればありがたい
- ・もっと体験型を増やすと，専門知識のない人でも入りやすいと思う
- ・ヘリコプターなどの実演を行ってほしい
- ・子供の体験イベント
- ・3D眼鏡で日本と周辺の国を見たが，普段は陸と海とで別々のように思っていたが，実は水が溜まっているかいないかだけの違いでつながっていることを強く意識しました。人間が陸上で暮らしているから海の中は別だと思っているだけで，地球的に見れば海も陸も同じなのだと気付かされました。

■ 広報について

- ・メディアなどで周知量を増やしてほしい
- ・Facebookやブログなどで広告すれば良いと感じました。安くできるだけでなく，参加者も多くなると思いました。
- ・さらに広く広告，PRをして盛況に開催してほしい。
- ・もっと告知に力を入れても良いと思います。
- ・他県にも宣伝して下さい
- ・ポータルサイトで関連企業を紹介するといかがでしょうか？

■ その他

- ・英語カタカナが多くて理解できません。
- ・今後の仕事の参考にする
- ・業務上でも個人的にもデジタルとマッピングに興味がある
- ・もっと早い時間に来ればよかったです
- ・We found the show to be a good opportunity to expand our business to this region, meet clients that we had not met “in-person” previously, and to support our Japan sales Agent.
- ・自分の時間の都合であまり見れなかったが，もっと見たかった
- ・IMESについてより詳細な情報が欲しい
- ・国土交通省の地図を道の駅にも置いてほしい。
- ・こらから折々ふれて関心を増やしたい
- ・GISをやってみたい
- ・GISを無料でどこまで使えるかをもう少し詳しく知りたい
- ・アンケートの選択項目が多すぎる
- ・アンケートの項目（選択肢）が多くて大変
- ・アンケートに答えると色々貰えるので嬉しい

質問11. G空間情報を使って、「こんなことはできないの?」とか、「こんなサービスがあると便利だと思うが…」という提案があれば、ご記入ください。

【来場者の意見】

- ・もっと公共のデータ統一へ活かさせる事を望みます。
- ・よりよい社会の便利な発展の為、貢献してほしいです。
- ・地理院・政策局・森林総研・環境研等、GISデータの一局集中が出来ないか。
- ・もっと精度を上げたGPS情報をスマートフォンで受信できるようにしてほしい。
- ・インドアでなくてアウトドアで使えるようなデバイスの充実
- ・日本の測量、衛星、デジタル化…の技術を活用した、新しいビジネスモデルの開発と、国家戦略としての統一されたコンセプトによる取り組みを切に望みます。
- ・日常生活での活用を図ればよいと思います。
- ・3Dで可視化した商業データと地図のすり込み
- ・車に登載しているMMSをGISに組みこむことはできないのか
- ・レーザー測定等は、地上しかできないとの事だったのですが、地下構造がわかるようになれば、危険を犯せずに洞窟などを調べられようになればいいなあと思いました。
- ・津波のシミュレーション
- ・より細かいエリアにおける地理情報案内システム
- ・屋内外での位置情報が安価でできれば、出入管理、防犯、安否確認、誘導等、広範囲に利用できると思われれますので、一日も早い普及を願っています。
- ・観光・旅行の情報入手
- ・精度の高い地図を安くつくること
- ・スマートフォンともっと関連させてほしい
- ・花粉情報を正確にして、涙がでないようにしたい
- ・災害情報、地価
- ・人間と人間のコミュニケーションの活性化
- ・液状化情報web閲覧
- ・地図を自由にプリントできれば良い。任意の精度、大きさで。
- ・人数のカウント
- ・老人にも使えるG空間、また生きられるG空間を
- ・一般市民とGISの関係、産業界とGISの関係、金融業界とGISの関係等より国民生活に関係するGISの具体例を展示したほうが国民と地理空間情報が関係深いものとなる。
- ・インターネットを通じてきめ細やかな空中写真地図閲覧サービスが日本全体特に地方で受けられると良いと思う。
- ・節税。あまりに自前で地図を作っている会社と、GISが汎用されてきて、多種類すぎる。わずらわしさを感じる。
- ・さらにソフトサービスの充実に期待します。
- ・スマホで緊急ボタンを押せば個人データが自動で病院に飛び、必要があれば近くのAEDを表示させる。
- ・地図を利用したゲームのようなもの
- ・ガリバー旅行
- ・小学生でも簡単に使えるGISがあるといい。本当は知らないだけで、あるかもしれませんが…。
- ・どんどん作業用車が自動化されると良い。
- ・老人も簡単に使用できるシステム
- ・人間とか社会の活動など物理、地理よりも踏み込んだデータとの結合が期待される
- ・準天頂衛星をたくさん打ち上げて、アジアで活用しましょう
- ・路線案内と地図の融合がほしい

- ・陸上・海上・海中の総合的な位置情報ができないか
- ・もう少し簡単で安く地図データを購入できるといいと思った
- ・より市民のためになるものを
- ・GPS付きでない端末でも、現在の位置が正確にわかれば便利
- ・スマートフォン向けの防災アプリ（防災情報、減災マップ等）
- ・震災からの復旧と復興に向けた、新たなまちづくり計画
- ・災害時及び地下空間での案内を、スマホ等を使って案内出来ると良いと思います。
- ・GISでタブレット、スマートフォンなど基図の中に、個人が必要な情報を日常的に入力し、日常生活に利用できる簡便なソフトがあれば良いと考えています。
- ・出展一覧図で、じかに出展社名を記してほしかった。スマホの専用アプリで、展示会場の現在位置サービス（さぼナビ）を用意してほしかった。
- ・まだまだデータ同士を繋げて、どう利用するのか、何が出来るかはこれからと感じた。
- ・自治会レベルの防災活動に生かそうと思っているコンテンツが、独立行政法人防災センターにあった。
- ・各社、各行政組織間の共通情報システムの開発
- ・3D空間での表現化、模擬化
- ・減災・防災
- ・現状の進歩で満足
- ・車の位置情報や角度など、いろいろな情報を共有し、地図や3Dマッピングを車のディスプレイに出す。車の自動運転（Googleが行っているみたいだが）
- ・市販のカーナビを使って、もっと有効な地域建設（自然環境）を提供できるといいと思う
- ・災害が起きた時の避難経路が分かると良いと思う
- ・SNSを連携したサービス
- ・自分のPCで簡単に安くできる方法がないか
- ・未来への提案
- ・地下埋設物管理（3D）
- ・情報を使用するにはお金が発生します...
- ・住民が地図を使って防災を考えるための空間情報共有プラットフォーム
- ・気が付けばGIS技術を利用していたような環境
- ・スマートフォンの簡単なソフトで便利な使い方
- ・子供向け
- ・スマホ・タブレットなどの新しいツールが出てきているので、それらの活用を活性化してほしい
- ・土砂災害のソフト対策への有効活用が可能だと思う
- ・入場者の自動カウント？
- ・人がどこにいるか、すぐにわかるシステムが良い
- ・スマートフォンを使ったサービスが少なかった
- ・地下街から、地上の3Dイメージ（スマホを向けるとその方向の映像）が見える）
- ・一般の生活に利用してほしい
- ・お金のにおいがあんまりしない
- ・移動（海外間）しているときでも、計測できる仕組みがあったらいい
- ・古地図と最新地図との重ね合わせ、防災に役立てる
- ・ライフライン
- ・山中、山道などに屋内GPSがあったら遭難がなくなりそう
- ・GPSは屋外で効果はあるが、屋内での測位に問題がある→この問題の解決策の研究に興味があり、是非進めてほしい
- ・3D可視化も、位置情報をフルに使っていてすごいと思ったが、画像認識、音声認識などのモジュールと合わせればもっと良いシステムが生まれると思う
- ・災害時での住民安全確保の資料

- ・ 3Dスキャナを使用した正確な変位量計測（時間軸を考慮）
- ・ スマホをより活用したサービス展開
- ・ 室内のマッピングができれば、便利かも
- ・ 介護、独居高齢者対策・カーシェアリング、渋滞対策
- ・ いつでもどこでも入手できる（使える）空間情報
- ・ 地図情報の中で、山に特化した情報があれば良い
- ・ 正確な災害予測
- ・ しきいを低くして欲しい
- ・ GISの分野をもっと広く
- ・ 本当に人に役立つシステム例） コンシェルジュ機能，医療に役立つ
- ・ B to B が多い B to C のビジネスを。
- ・ 環境・昨年の震災に対していろいろな技術をいかして住みよい社会になれば
- ・ 室内での位置測定,計測
- ・ 防災対策の向上
- ・ GISを利用した様々なシステムを統合できると便利
- ・ 屋内情報と屋外データの連係など建物の入り口にナビするサービス
- ・ 地価予測
- ・ 施設脱走者を検索する方法などがあると助かります
- ・ いつでも宅配が受け取れるサービス
- ・ カーナビとG空間情報のリンクサービス
- ・ 自治体が災害情報を流せるシステムが（ASTERの活用）が作れないか
- ・ 地域活性化，まちづくり
- ・ B to C向けの便利なサービスも出して下さい
- ・ 今よりもっと簡単に電子データを入れると簡単に地図が作成できる
- ・ 防災・減災のため地図が有効であり，また，活用すべきと感じた
- ・ この世界自体，企業などだけで動いている部分があり，やはり考えがよかたよっている印象を感じる。もっと若年層，高校生などの学生などにも協力してもらい，技術の更なる活用をすべきだと思う。そうすると，もっと幅が広がるのではないだろうか。
- ・ 真に役立つ技術を追求して下さい
- ・ 全空間3D化
- ・ 国の色々な組織がシステムを作っているがマッシュアップができるようにしてもらいたい
- ・ いちばん近いタクシー会社（タクシー車）を探すシステム
- ・ スマホなど自分のいる場所の情報を様々に写し出すことだけでなく，関連する場所の情報にもすぐアクセスできること
- ・ 道の駅をよく利用するので，又は電車・空港の主要スポットで災害ルートを手に入れたら大変助かります
- ・ 物流システムの商品動体のスマホ連携により受け取りサービス
- ・ バーチャルリアリティ空間の散歩，ドライブ
- ・ リアルタイム情報

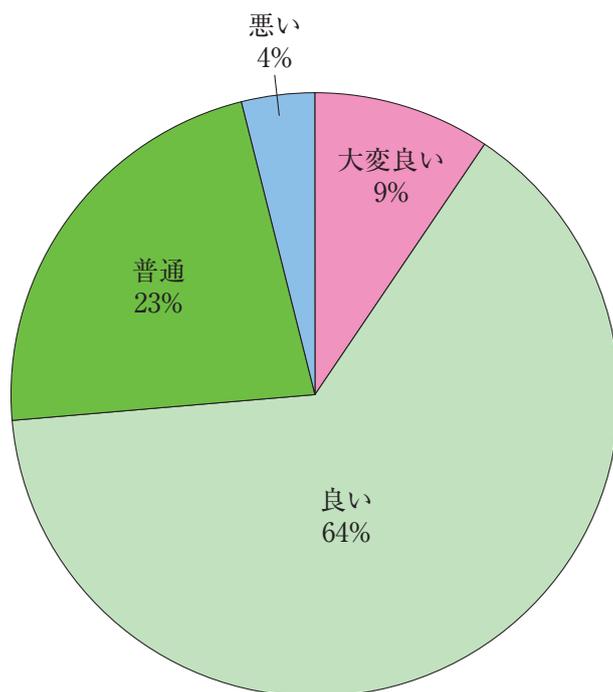
A P P E N D I X

付 録 2

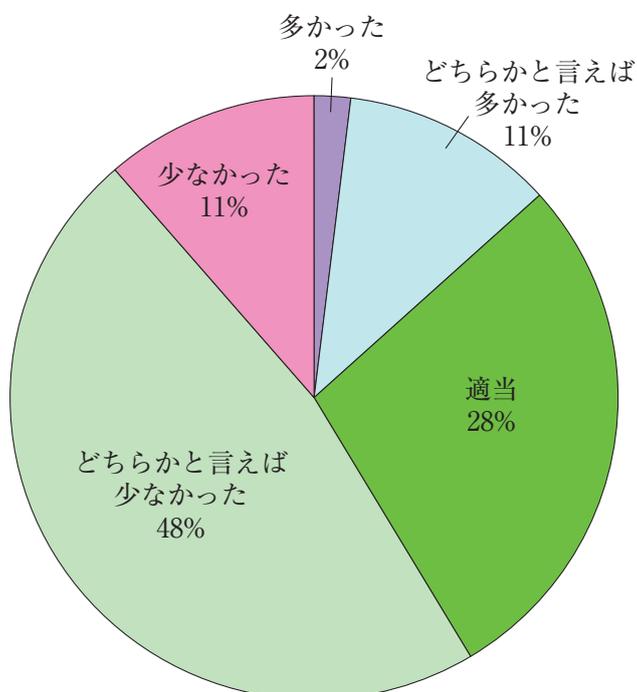
出展者アンケート

対 象 者 G空間EXPO2012出展者
回答者数 53者（回答率45%）
[アンケート調査依頼数 118者]

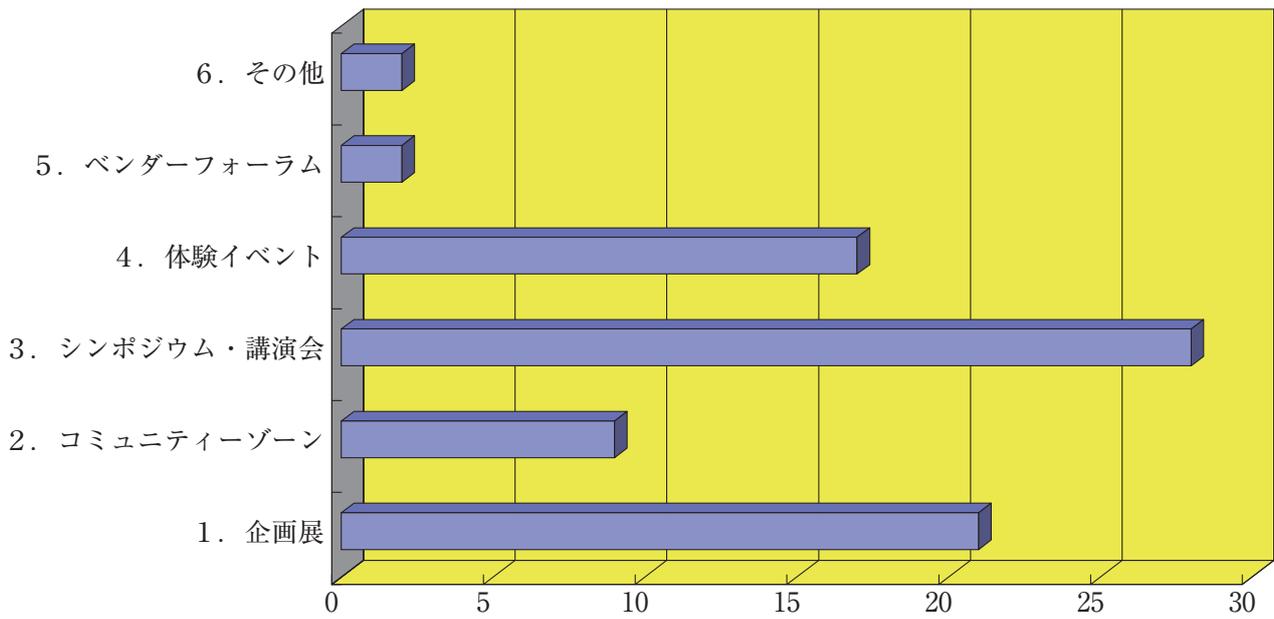
■会場全体の雰囲気はいかがでしたか。



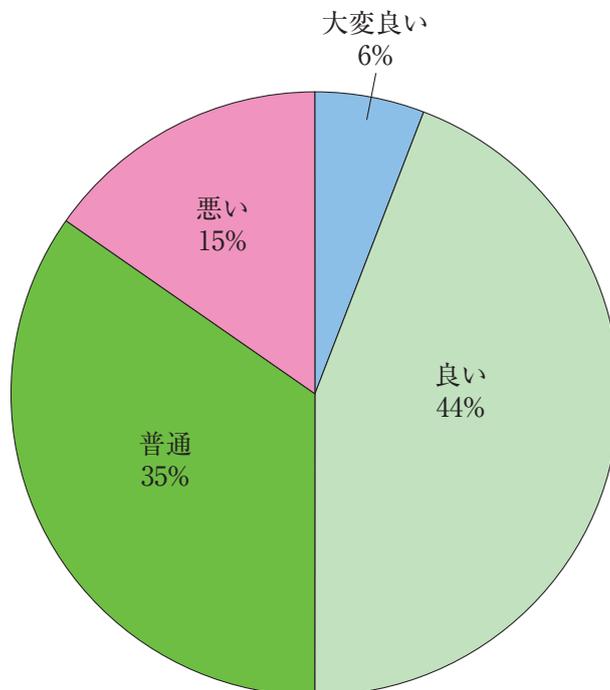
■会場全体の来場者数はいかがでしたか。



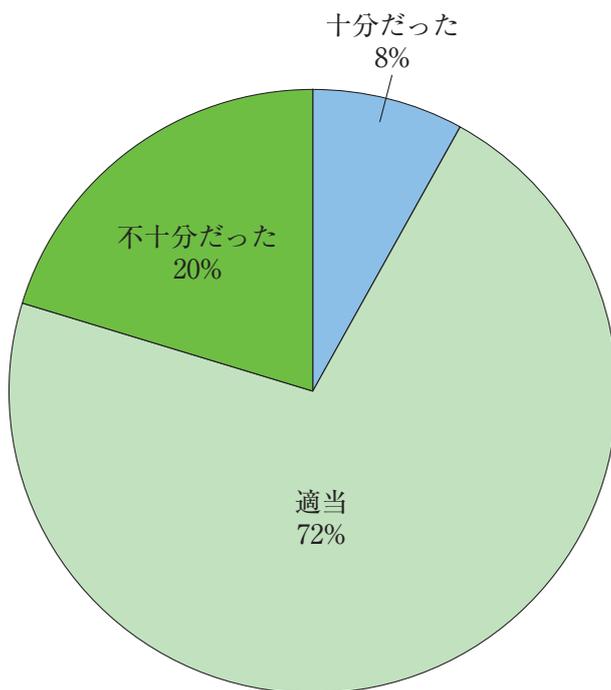
■集客対策として、効果があったと思われるものどれですか。(複数回答)



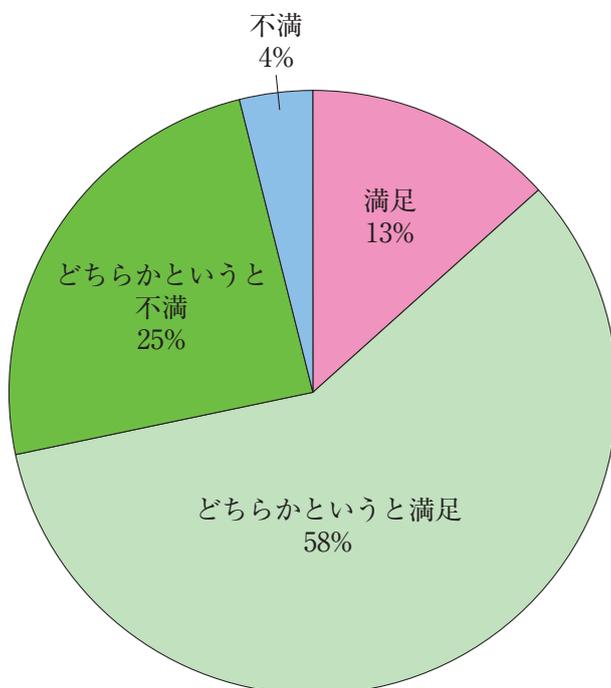
■開催コンセプトとして、ビジネス層および一般の方々を対象としました。開催コンセプトとしてはいかがでしたか。



■開催に関する広報活動はいかがでしたか。



■今回の開催・出展について総合的な満足度はいかがですか。



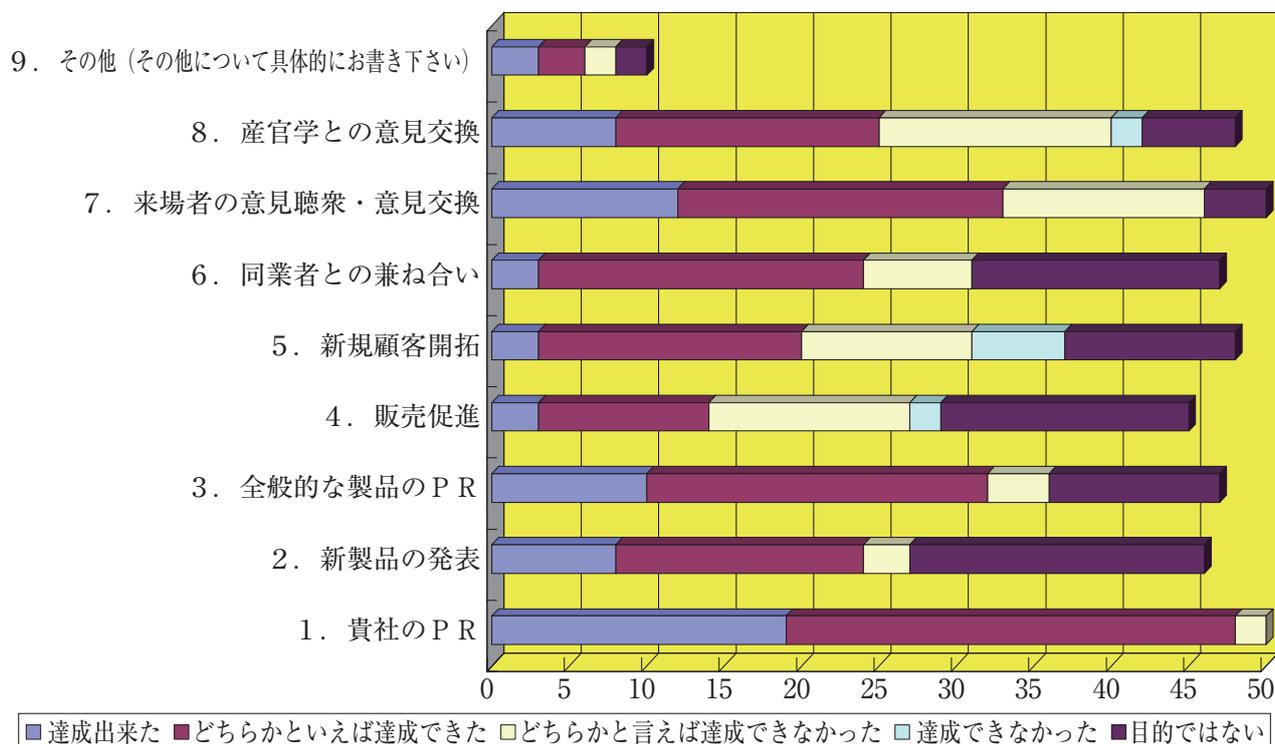
■展示会場の運営面で、騒音、迷惑行為などお気づきの点がありましたらお聞かせ下さい。

- ・開催中、G空間Expoの公式ホームページの参照ができませんでした。開催中のお客様へのご案内ができませんでした。
- ・終了後、配送受付（これは事務局様でお願いされたのでしょうか？）をされているヤマト運輸様へ液晶テ

レビの配送依頼をしたところ、配送のためのカゴにサイズが合わず配送できないとの返事をもらい、その場で拒否されました。その後、運よく佐川急便様を見つけなんとかお願いして事なきを得ました。配送業者によって配送可能な規格が異なるようですので、もし今回配送業者様を事務局様のほうで手配されていたのであれば、次回は複数の業者様に依頼されてはいかがでしょうか？自己責任ということであれば参加者自身で用意することになりますが。そのあたりの配慮等がございますと、中小企業は出展がしやすいと思いました。

- ・会場看板をもっと大きく
- ・コミュニティーゾーンで各社のプレゼンだけを行うのではなく、運営側から開催冒頭で各社の簡単な紹介等をしていただけたらプレゼンの効果も上がるのではないかと思います。
- ・展示会場でスピーカーから異音（ハウリングのような）が発生するアクシデントがあったが、その後のフォローがなかった。このような場合には、来場者に対する説明及びお詫びが必要と思う。
- ・展示ゾーンのカテゴリーの見直し、JVCビクターの音楽がうるさく、説明に支障。
- ・事務局（測量協会主体）の運営は経験もあり、適切な運営でした。
- ・3日目の放送不良?による騒音が気になった。
- ・最終日の撤収作業中、会場を幼児（出展者のお子さんのおようでした）が走り回っていたのには、肝を冷やしました。
- ・展示会会場は通路も広く、回りがよかったですと思うが、事務局様からの郵送物（出展証や招待状）が届いておらず、招待状については事前にお客様にお配りすることができなかった。
郵送物がある場合はメールでも周知がほしい。届いていないことに気づくことができるため、ぜひ対応願いたい。
- ・展示会場のコミュニティーゾーンをもっと活用すべき。空白時間があるのはもったいない。開催しているシンポジウムや講演会、体験コーナー等の案内や開催状況などのPRをもっと行っても良いのではないか。
- ・G空間という非常に広範な対象であったことから、技術、機器、活用、あるいは、ビジネス分野も一般消費者も対象となり焦点が絞りにくくなった。民間の展示会も、直前に開催されるなど、出展者のメリットがわかりにくくなっている。対象の整理、ゾーン展示の特色化など、さらに工夫していただきたい。
- ・コミュニティーゾーンのマイクのハウリングがあった。
- ・コミュニティーゾーンのマイクレベル、もしくは会場での音響のチェックを確実にして下さい。高さ制限はブースの数?
- ・3日間を通じて、会場の空調がきいていないように思えた。今年度は気候が良かったが、暑い日だった場合には不快に感じると思われる。また、出展側としては、ブースの幅、奥行きとも、もう少し広めにしてほしいと感じた。
- ・弊社ブースで録画やデモ画面の撮影が見られた。弊社製品だけでなく地図データの著作権の侵害にもなるので控えていただきたいです。

■今回はどのような目的で出展されましたか。また、それらの目的は達成できましたか。以下に示す目的ごとに該当する達成度に○をつけてください。

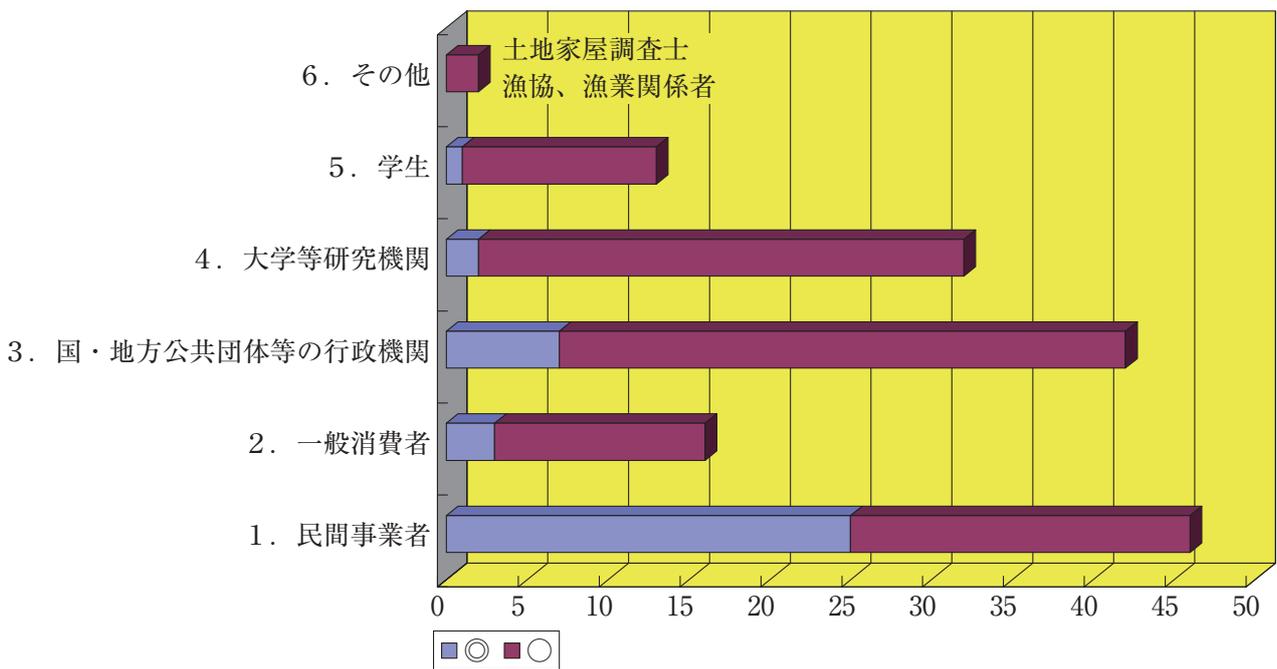


■上記で「どちらかといえば達成できなかった」、「達成できなかった」に理由や状況について、お書き下さい。

- ・ 人員を派遣できなかった。
- ・ 新規顧客の開拓については、集客の問題と業界外の方々があまりいなかったこと。
- ・ 業種が少しズレていたため。建築土木業界や大学にもっと来て欲しかった。
- ・ 展示物の調整が不完全だったため、完全な物を来場者にお見せすることが出来なかった。
- ・ 対象ユーザーと、一般客の識別不足。ワッペン の 精度UP 必要。
- ・ 新規顧客獲得に関しては、新たな市場の顧客がいな いたため実現できない。
- ・ その他の他社や業界団体とのコミュニケーションに関して特にその様な場がなかったの で、実現できなかった。
- ・ 学 の コーナー が 離れて おり、産学 の 交流 が しにく かった。
- ・ 行政機関の来場者が少ないため、マーケット開拓につながらない。
- ・ 新製品や体験コーナーにお客様の対応に専念したため
- ・ 衛星測位利用推進と啓蒙活動の目的は達成できた。
- ・ 準備不足であった。
- ・ 来場者数が若干少なかったため、販売促進や新規開拓という面からは、例年と比較し件数が伸びなかった。
- ・ 海洋関連の関係者及び関係機関の来場者が少ない、また、出展社も少ない
- ・ 対象者の焦点が絞られていない。
- ・ 当社商品は同業者内では多少なりとも認知されていて、購入や新規顧客の獲得に大きな影響が見られなかった。(ある程度は想定内の結果)

- ・前回と同じく測量，建設業者のらいじょうが少なかった。
- ・意見交換等は，交流会への参加，もしくは出展ブースに来場者が立ち寄らない場合には達成できないため。特に産官学との意見交換は，機会を創出してもらわなければ難しいと思われる。
- ・来場者が少なかった。
- ・特殊機器の為顧客来場者が少ない
- ・前回より，海外のお客が増えており，海外向けの資料の用意が弱かったため。
- ・具体的なニーズをもつ来場者が少なかった。（情報収集目的の来場が大半であった。）
- ・来場者が同業・競合会社の来場に偏っていたので，あまり効果的にアピールできたとは言えない。

■どのような層を対象に出展されましたか。主に対象とした層1つに◎を，その他対象とした層すべてに○をつけて下さい。

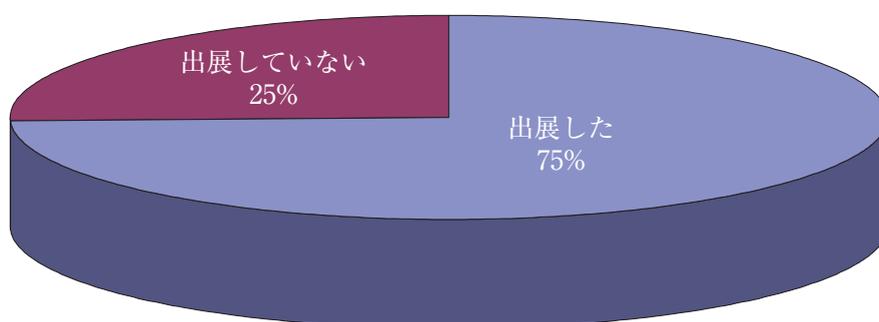


■G空間EXPO2012以外に出展した(予定・検討中も含む)の展示会や見本市があれば，具体的な名称をお書き下さい。

- ・芝浦工業大学主催の中小企業対象の研究展示
- ・ESEC，ボートショー，海洋大学GPSシンポジウム
- ・EE東北，インターゲオ（ドイツ），Hypak(サンディエゴ，タンパ)，テロ対策特殊整備展，Hydoro in Canada, Esri(サンディエゴ)
- ・自治体総合フェア2012
- ・地方自治情報フェア
- ・バーチャルリアリティ展
- ・DMS・VR展，ものづく（3D)NEXT
- ・ロボット展，JA2012（予定）
- ・ET2012，ETWEST
- ・EE東北2012／建設技術展2012近畿／ものづくりNEXT2012
- ・森林・林業・環境機械/展示実演（2012年11月に静岡県にて開催予定）

- ・ ASLO, 各海洋関連学会での展示
- ・ IVR展
- ・ メルボルンISPRS大会
- ・ 下水道展
- ・ 対象分野（市場）が広すぎるため、集客対象の絞り込みが難しく、適切なイベントの選択が難しい
- ・ 国際航空宇宙展, EVEX, 計測展
- ・ 地域防災防犯展, 自治体総合フェア
- ・ ロケーションビジネスジャパン2012, Google Atmosphere, 地域防災防犯展, GISコミュニティーフォーラム
- ・ ロケーションビジネスジャパン2012

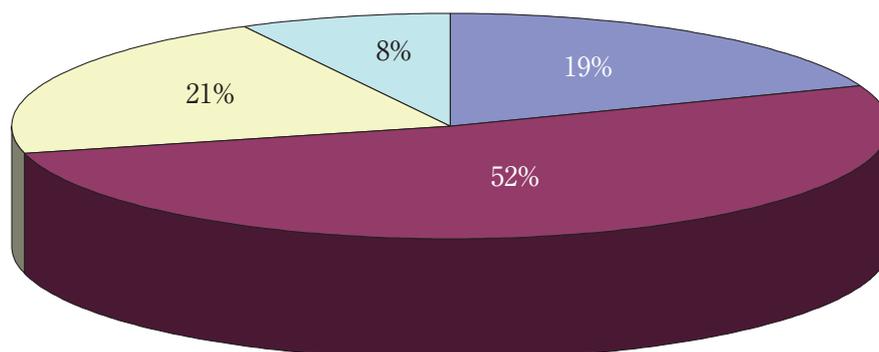
■前回（2010年）のG空間EXPOは出展されましたか。



【今後のG空間の開催の在り方についてお伺いします】

■次回開催はどのような方向性が望ましいと思いますか。もっともよいと思うものを1つ選んでください。

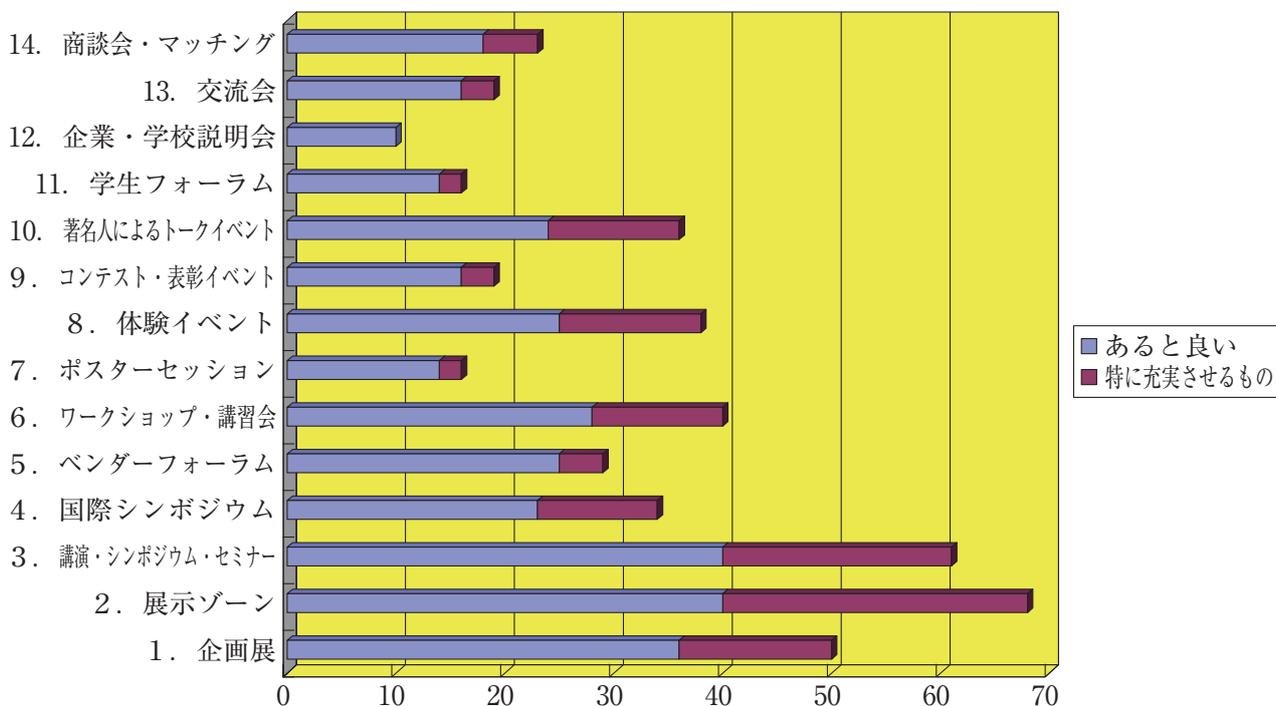
なお、（ ）内は開催内容のあくまでも参考例であり、その内容に限定するものではありません。



- | | |
|------|--|
| ■ 1. | ビジネス層及び一般の方々を対象にした開催（今回と同様） |
| ■ 2. | ビジネス層を主たる対象とし、ビジネス的な要素を増やした開催（商談ブース設置、産官学のマッチング、平日のみ開催など） |
| ■ 3. | 地方自治体など行政職員向けの要素を増やした開催（分野別セミナー、ワークショップや講習会の開催、情報交換会等の開催など） |
| ■ 4. | 子どもや学生などが一般の方々に参加・来場しやすい要素を増やした開催（スタンプラリー、親子体験教室、各種コンテストの開催など） |

■上記の開催コンセプトとした場合、開催イベントとしてどのようなものがあるとよいですか。

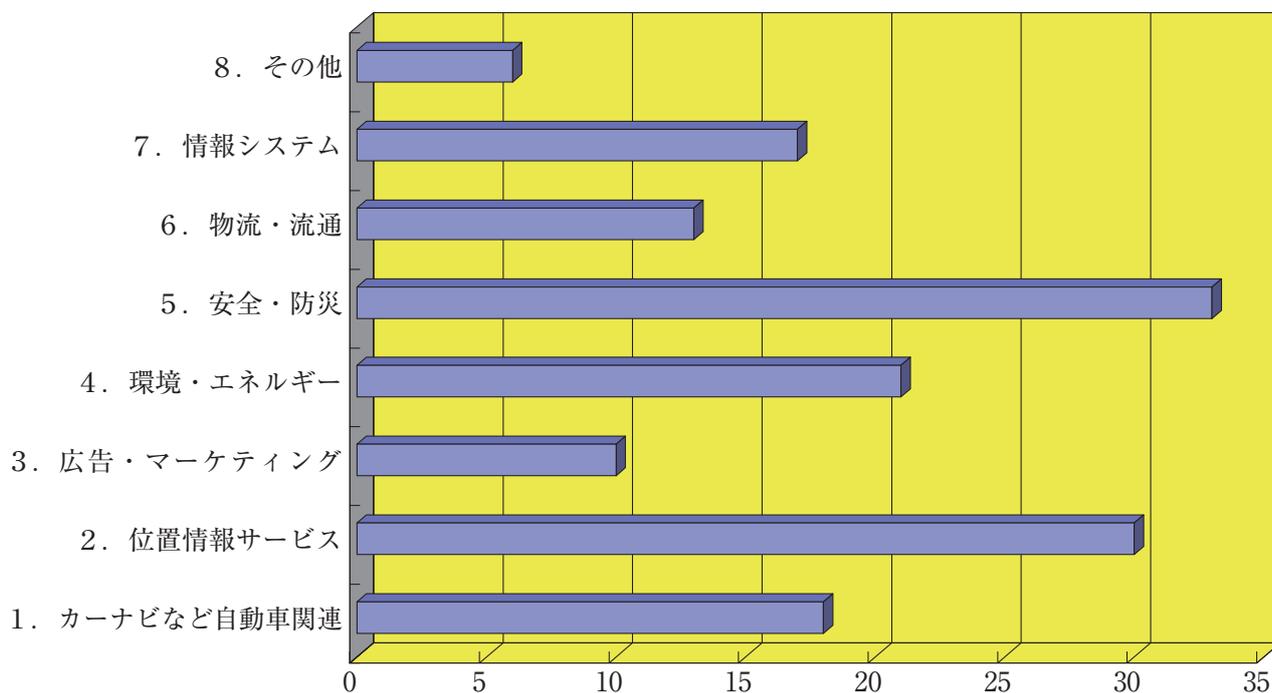
あるとよい開催イベントすべて○をして下さい。そのうち、特に規模や内容など充実を図ることが望ましいものを3つ選んで下さい。



★その他のイベント内容のご提案があればお書き下さい。

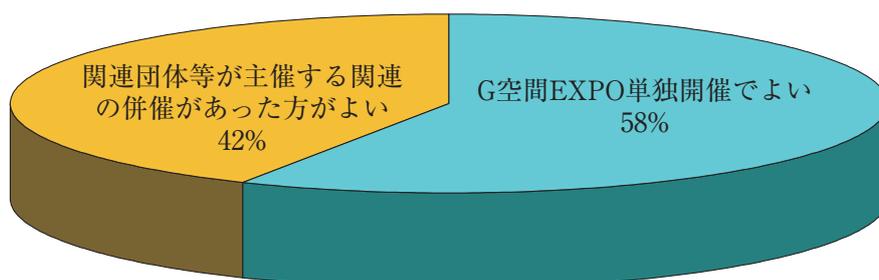
- ・一般、学生、子供も対象とするのであれば、もっとカーニバル的要素も必要。
- ・国土地理院による測地成果2012の充実させるもの
- ・出展者の希望ゾーン出展
- ・2010年に実施されたような文化遺産関連のワークショップを行って欲しい。
- ・著名人による講演会等の企画（経費は増すが?）

■出展者の構成として、可能なら出展があるとよい業界・分野はどれですか。
(複数選択可)



8. その他 観光・VR・レプリカ・海洋関連・位置情報・地形など・観光業界・旅行代理店
通信大手キャリア・デザイン系・街づくり・宇宙技術

■開催方式として、G空間EXPO単独開催もしくは他と併催などが考えられますが、どちらの方式がよいと思いますか。併催が良い場合は具体的な名称をご記入下さい。



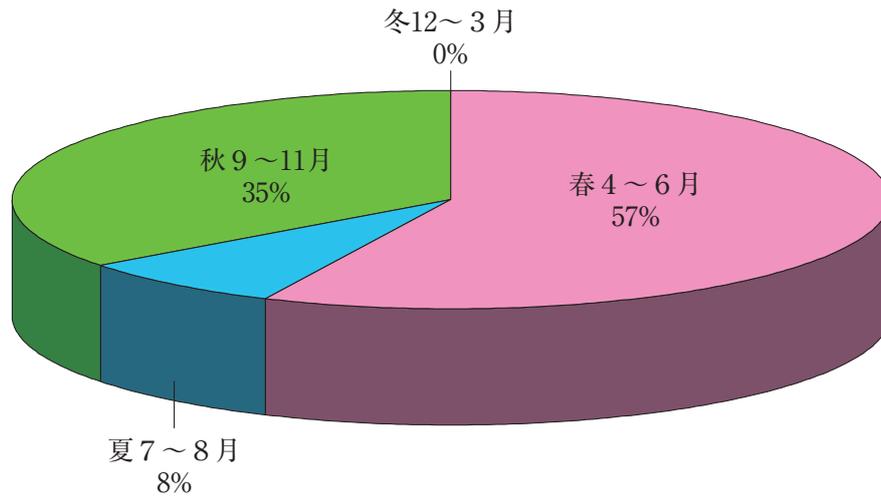
具体的に

- ・カーナビ、環境、安全・防災、情報システム
- ・測量機器展示や学会の講演など
- ・日本写真測量学会
- ・DMS・VR
- ・自治体フェア、観光、情報系、システム関連等のイベント「展示会場のイベントカレンダー参照」
- ・計測展、センサエキスポなど
- ・具体的なものではありませんが、ビジネス要素の強いイベント（学会等ではなく）

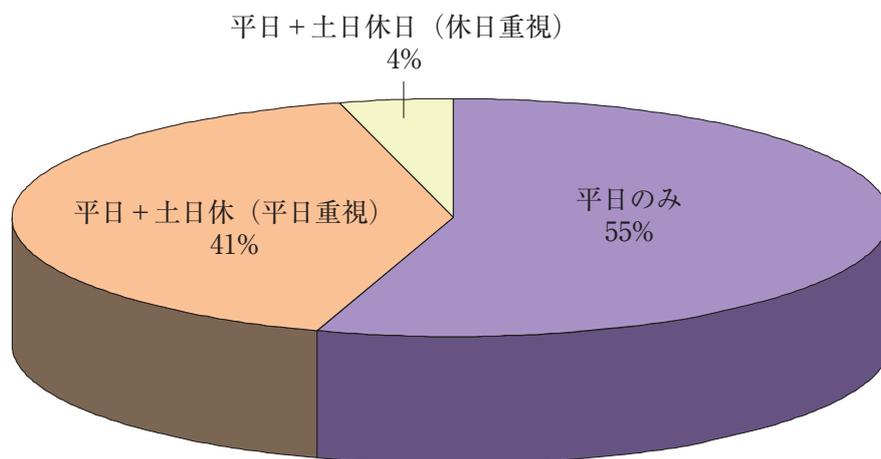
・他の省庁も参加した，国を挙げてのイベントにしたほうがよい

■開催時期・開催日・開催期間について，それぞれお答え下さい。またその理由もお書き下さい。

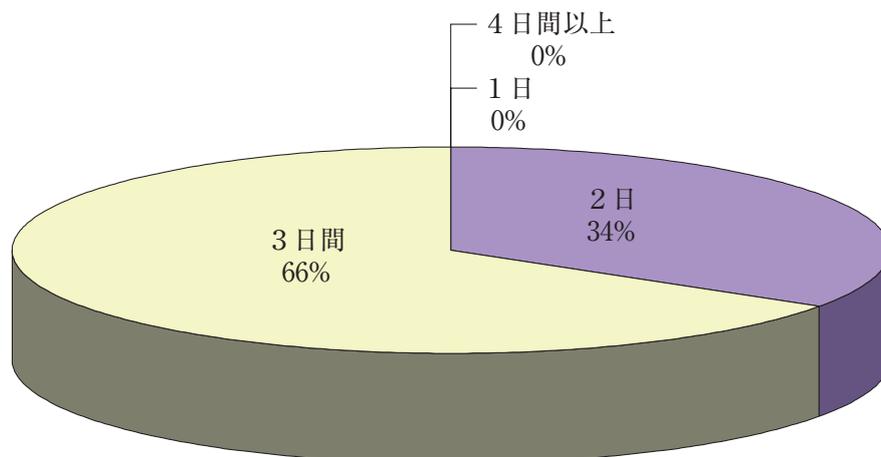
◆開催時期



◆開催日



◆開催期間

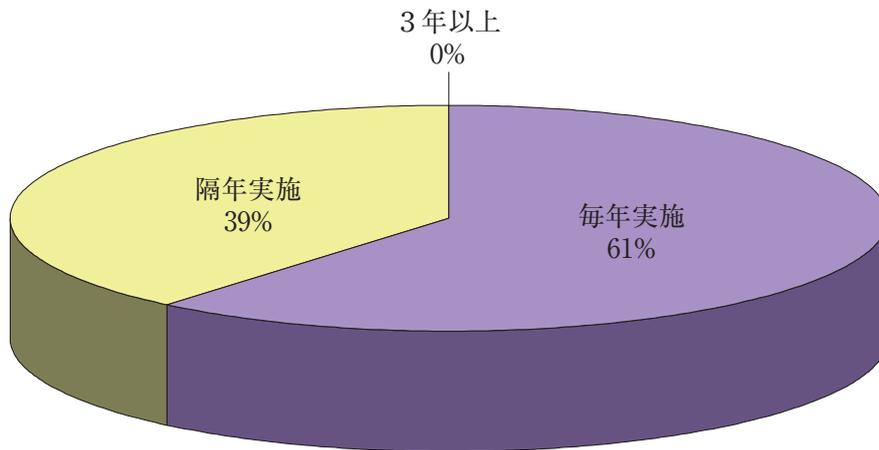


理 由

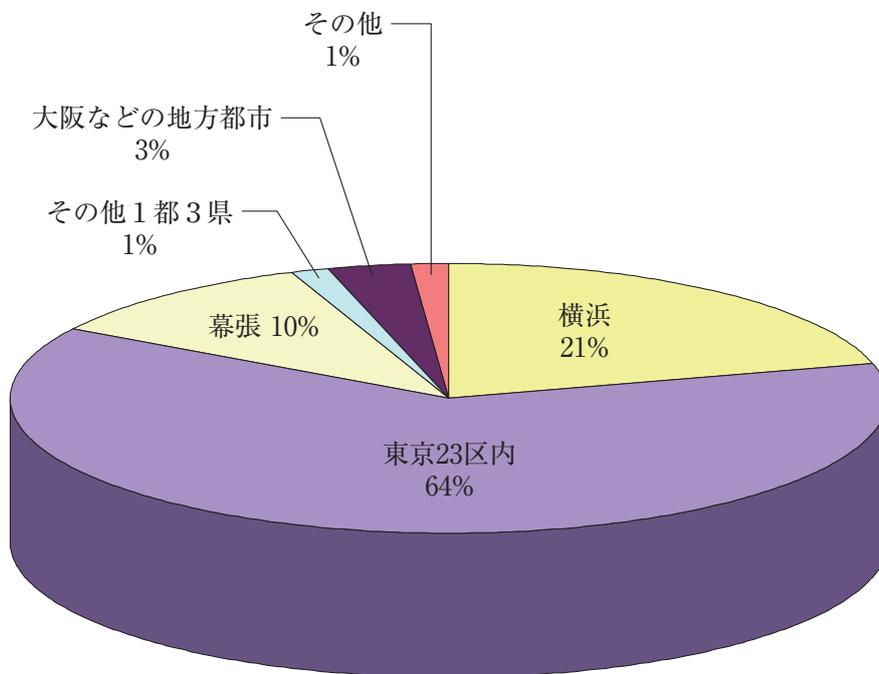
- ・年度当初は避けたい。(秋9～11月)
- ・他のイベントとの連携もしやすいのではと考えます。(夏7～8月)
- ・土日、休日は、小さな子供が多く邪魔。(平日のみ)
- ・ビジネスを考えると平日のみの開催が望ましい。時期は年度末の需要を考えると秋から冬に開催が望ましい。
- ・行政機関やそれを対象とする企業は春が比較的時間があるため
- ・一般客が少ない
- ・測日の日にちなんだ時期が好ましい。(春6月)
- ・開催後お客様から9月開催のイメージがあり来場されなかったとの声があった。(秋9～11月)
- ・節電対策、官の予算処置が可能な時期、各団体/組織とのシンポジウム併催(秋9～11月)
- ・他展示会の実施時期を考慮する必要がある為。(春4～6月)
- ・年度が変わった後の平日が、一番ビジネス客の来場に都合が良いと思われるため(春4～6月)
- ・平日重視の方が関係機関が動きやすいが、特定の人は休日の方が来やすいため(平日+土日休日・平日重視)
- ・季節的に来場しやすいと思われる為。梅雨時期は避けられれば良い。(秋9～11月)
- ・天気がより涼しく好天の時、来場者が多くなるから。(秋9～11月)
- ・他の展示会と同様、水・木・金が日程が立てやすい。
- ・幅広い年齢層の集客を期待するのであれば、休日を重視した開催日がよい。(平日+土日休日・休日重視)
- ・今までの状況から(春4～6月・平日のみ・3日間)
- ・春は忙しい(秋9～11月)
- ・平日は企業担当者、休日は企業の方でも平日来られない方の来場が見込まれる。
- ・準備などが他の時期より容易である、一般層を対象とするため。(秋9～11月・平日+土日祝日・休日重視)
- ・9月以降は多忙なため(決算等)(春・夏)
- ・一般の客が入り、活気づくと思います。(平日+土日休日・休日重視)
- ・春は行事日程が未確定、一般大衆を対象としたい(秋9～11月・平日+土日休日・平日重視)
- ・官公庁職員様にとって、来やすいだろうと思うのが春、平日、3日間。もっといい開催時期があればそちらでも構いません。
- ・短期間で内容の濃い(充実した)ものにしたい。出展経費削減等(2日間)
- ・ビジネス対象の為(平日のみ)

- ・年度始めに新しい情報を仕入れたいため。(春4～6月)
- ・ビジネス層を主対象としたい(平日のみ)
- ・平日と休日の混在では出展テーマを絞りにくい(平日のみ)
- ・日程を凝縮して、集客を圧縮する。(2日間)
- ・研究に活用できる機器の情報を得るため春開催がよい

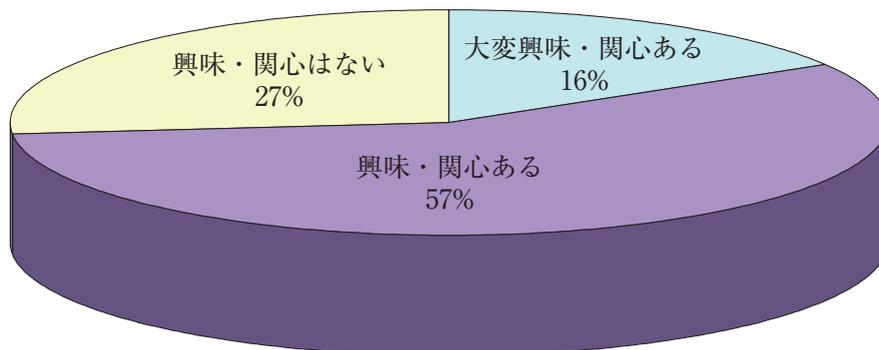
■開催間隔はどの程度が望ましいですか。



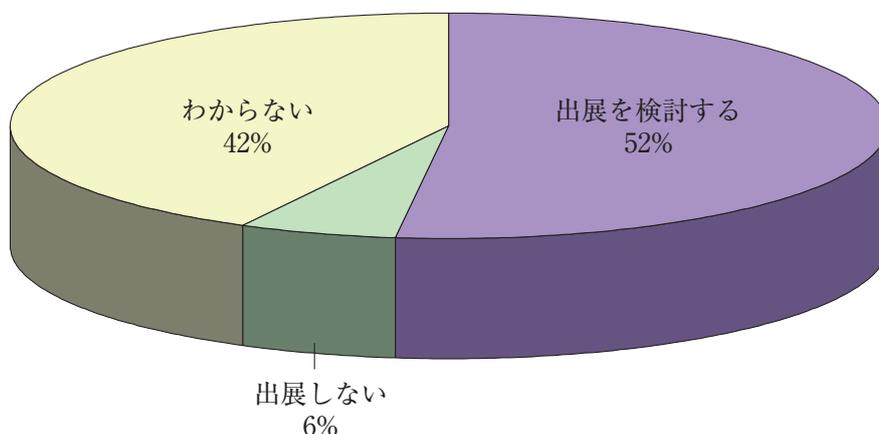
■開催地はどこが望ましいですか。



■仮に海外のG空間関連展示会に産官学連携で出展するとした場合、興味・関心はございますか。



■来年のG空間EXPO(予定)のご出展についてどのようにお考えですか。



■その他、今後の開催のあり方、運営、企画などについてご意見があればご自由にお書き下さい。

- ・大学としては、「高い出展料」自体が事務処理上においても大きな負担になっています。そのため、今後の継続的な出展ができるかという点で、「高い出展料」は大きな不安要素です
- ・他の展示会と比べて、対応が丁寧で良い展示ブース（展示説明スタッフ）が多いという評価が集まっています（学生レポート（芝浦工大の学生120名分）、Facebook(企業、研究者コメント)などより)
- ・関連異業種とのコラボ開催
- ・開催時期は、春4月初旬又は、秋10月下旬が良い
- ・開催前のブース等申し込みの際に、一度提出した書類を出しなおす回数が数回ございましたので、提出先等をひとまとめにしていいただければと思います。万が一不備があった場合も早急な連絡が欲しいです。
- ・大規模展示会は不要と思われます。
- ・今回DMS・VR展と期間が重複したため、人員の配置・機材の割り振りに問題が発生した。DMS・VR展のみにシフトした業者も見受けられましたので、今後は重複しない日を希望します。
- ・G空間基本計画に記述された国の事業なので、国の積極的な企画運営と財政支援が必要である。上記を前提に、要すれば、枠組み、事務局体制の見直すことも必要。
- ・出展料を安くしてほしい。
- ・建設コンサルタントとの連携を望みます。今回はコンサルタントの参加数及び来場者が少なかった様で、

測量とコンサルの繋がりには密なものであり、コンサルタントへの参加呼びかけや仕掛けが必要。

- ・もう少し海洋関連を充実していただければと思います。
- ・応募締切後に申込をしましたが、快く受付で戴き、初めて出展させていただきました。全ての案内、説明、相談などとてもわかりやすく丁寧に対応をしていただき、感謝しております。また、弊社PRにはとても適しており、新規顧客開拓にとっても効率的で効果がありました。また出展させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。
- ・講演、シンポジウムの場所は、展示会場と一緒にしてほしいです。
- ・主催者側の考えはわかりませんが、今回は「G空間」という広すぎるテーマ（分野）において、一般啓蒙 vs. ビジネス創出、B to B vs. B to Cなど、両立が難しい要素が盛り込まれたイベントだったため、出展対象・来場対象共に多岐に分散してしまい、両者共に参加するメリットが小さかったと思います。今後もEXPOを継続するのであれば、まずは、開催目的のおとし込みとテーマ・ターゲットの絞込みが必要ではないでしょうか。
- ・地理空間情報を活用している、docomoや日立などの大手企業はいろいろな所に出展をして宣伝をしている。もっと大きな展示会と共同で運営・企画をすべきだと思う。
- ・継続してイベントを開催していくことは必要だと思われるが、大きな展示会場を利用するイベントは、出展者の負担を考えると毎年の開催は難しいので、今回のようなイベントは期間をあけての開催とし、開催しない年はシンポジウムを中心としたイベントとしたほうが、G空間EXPO全体としてメリハリを持たせることもできる。
- ・第一に、他業種への告知・集客と認知度が重要であると思います。
- ・東京ビックサイトで開催し、大学生以上という来場制限を設けるような開催が良いと思います。以前に何度もノベルティだけ集めに来たり、コンパニオンにおかしな声をかける高校生に手を焼きました。
- ・コミュニティーゾーンの聴講者の数が少なすぎる（講演者が可哀そうになってくる）土曜日開催の中止
- ・今までの企画で良いと思います。
- ・出展費用が掛りすぎる。

G空間EXPO

暮らしをささえ、国土をまもり、未来を創る **2012**